

食品安全モニター課題報告 「食の安全性に関する意識等について」（平成 18 年 6 月実施）の結果

【調査の概要】（詳細は別添参照）

1. 調査目的

食品安全委員会では、消費者の方々から食品の安全性に係る情報や意見をいただくため、本年 4 月に新たに平成 18 年度食品安全モニターを依頼した。このうち約 4 分の 1 は、これまでもモニターを経験された方で、残りの約 4 分の 3 が平成 18 年度から初めてモニターになっていただいた方々である。

一部設問については、全国の 20 歳代以上を対象に実施したインターネットアンケート調査「食品の安全性に関するアンケート」（平成 18 年 2 月実施）（以下、「インターネット調査」という。）、16 年度食品安全モニター課題報告「食の安全性に関する意識調査」（以下、「16 年度調査」という。）及び 17 年度食品安全モニター課題報告「食の安全性に関する意識等について」（以下、「17 年度調査」という。）における調査結果との比較も行った。

調査項目は、次の 4 項目である。

1. 食品の安全性に係る危害要因等について
（食分野の安全性に係る不安感の程度、不安を感じる理由等）
2. リスクの認知について
（健康・生命に対するリスク及びベネフィットの大きさと、各リスクの容認水準）
3. 食品安全委員会のホームページ及びメールマガジンについて
（食品安全委員会ホームページ及びメールマガジンの閲覧・購読状況と、それらに対する意見・要望）
4. 大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価について
（大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価の決定についての認知、摂取状況）

2. 実施期間

平成 18 年 6 月 26 日～7 月 11 日

3. 対象

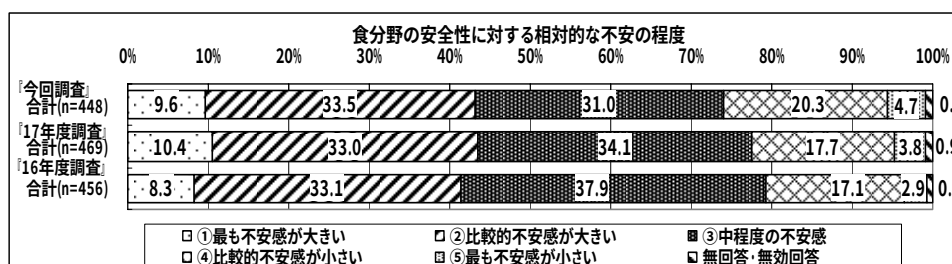
食品安全モニター	470 名	
有効回答数	448 名	（有効回答率：95.3%）

【結果概要】

1) 食品の安全性に係る危害要因等について

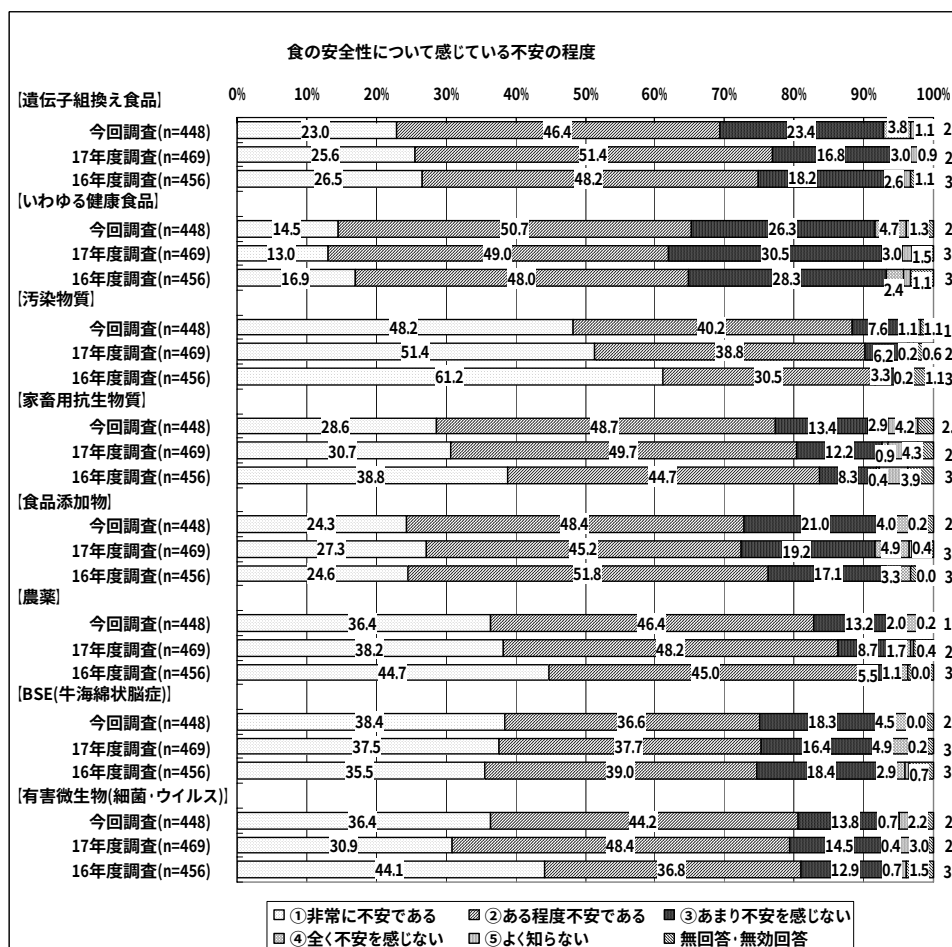
- ① 自然災害などの日常生活を取り巻く他分野と比べた、食の安全への相対的な不安感

◆ 過去2回（16年度、17年度）の調査結果同様、4割を超える人が食の安全性は他分野よりも不安は大きいと指摘。また、その一方で、不安感が小さいとする回答も25%あった



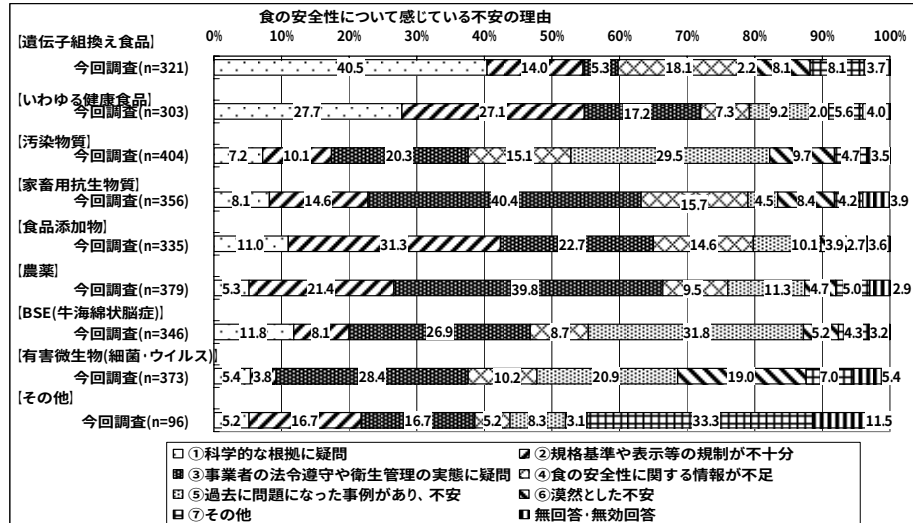
② 食の安全性について感じている不安の程度

◆ 食の安全性について感じている不安の程度は、汚染物質が最も高いが、過去2回（16年度、17年度）と比べ、全般的には若干減少傾向



③ 食の安全性について感じている不安の理由

◆ 食の安全性について感じている不安の理由は、要因ごとに相違



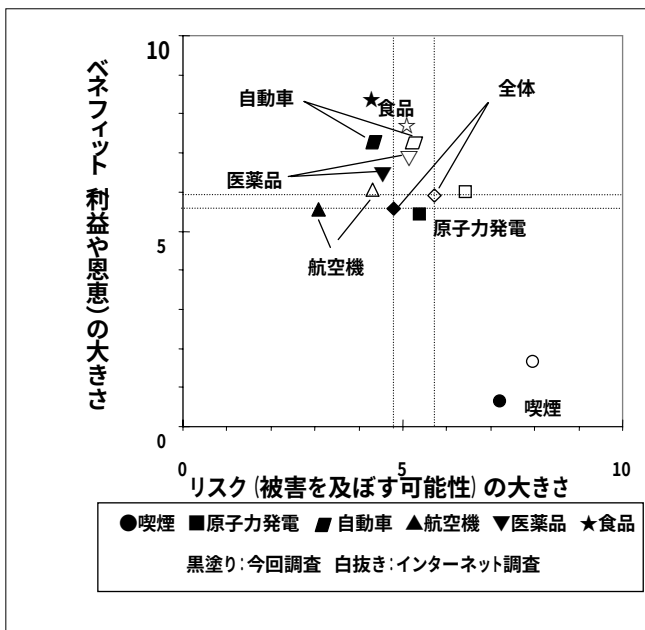
2) リスクの認知について

18年2月実施インターネット調査と同一の設問で調査した。

喫煙、原子力発電、自動車、航空機、医薬品、食品について、健康や生命に対するリスク（被害を及ぼす可能性）の大きさ、ベネフィット（利益や恩恵）の大きさを0～10の11段階で評価してもらい、その値を得点とみなし、平均値を図示した。

① 各事項についてのリスクとベネフィットとの関係

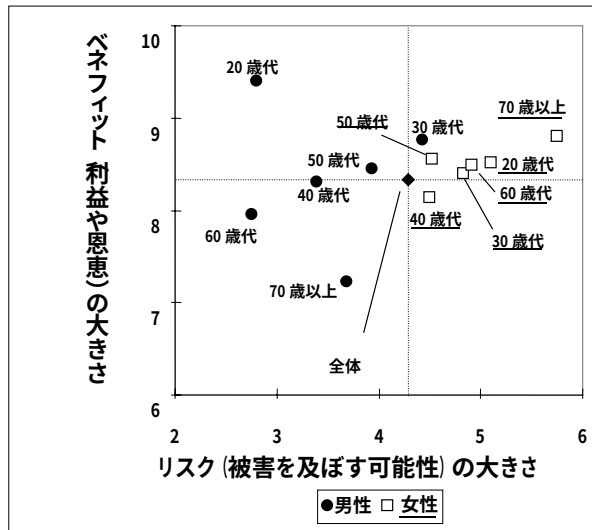
◆ インターネット調査、今回調査とも食品は、6事項のうちベネフィットは最も大きい、リスクは2番目に小さい



	今回調査		インターネット調査	
	リスク	ベネフィット	リスク	ベネフィット
全体	4.82	5.66	5.69	5.99
食品	4.29	8.33	5.09	7.89
喫煙	7.22	0.65	7.96	1.66
原子力発電	5.39	5.42	6.45	5.99
自動車	4.35	7.33	5.23	7.31
航空機	3.09	5.56	4.30	6.05
医薬品	4.60	6.62	5.11	7.05

② 食品についてのリスクとベネフィットとの関係（男女別、年代別）

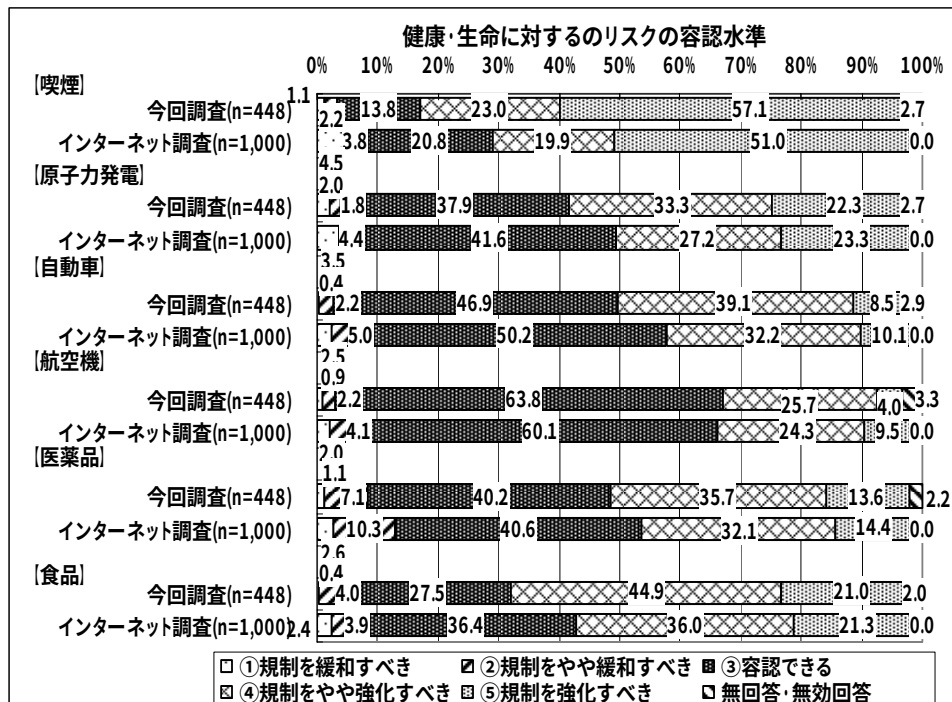
◆ 女性の方が、食品について健康・生命へのリスクが高いと感じる傾向



		リスク	ベネフィット
男性	全体	4.29	8.33
	20 歳代	2.80	9.40
	30 歳代	4.43	8.76
	40 歳代	3.39	8.30
	50 歳代	3.93	8.45
	60 歳代	2.76	7.96
	70 歳以上	3.69	7.23
	全体	4.29	8.33
女性	20 歳代	5.10	8.52
	30 歳代	4.84	8.40
	40 歳代	4.50	8.14
	50 歳代	4.53	8.55
	60 歳代	4.92	8.49
	70 歳以上	5.75	8.80
	全体	4.84	8.40
	全体	4.84	8.40

③ リスク水準についての意識

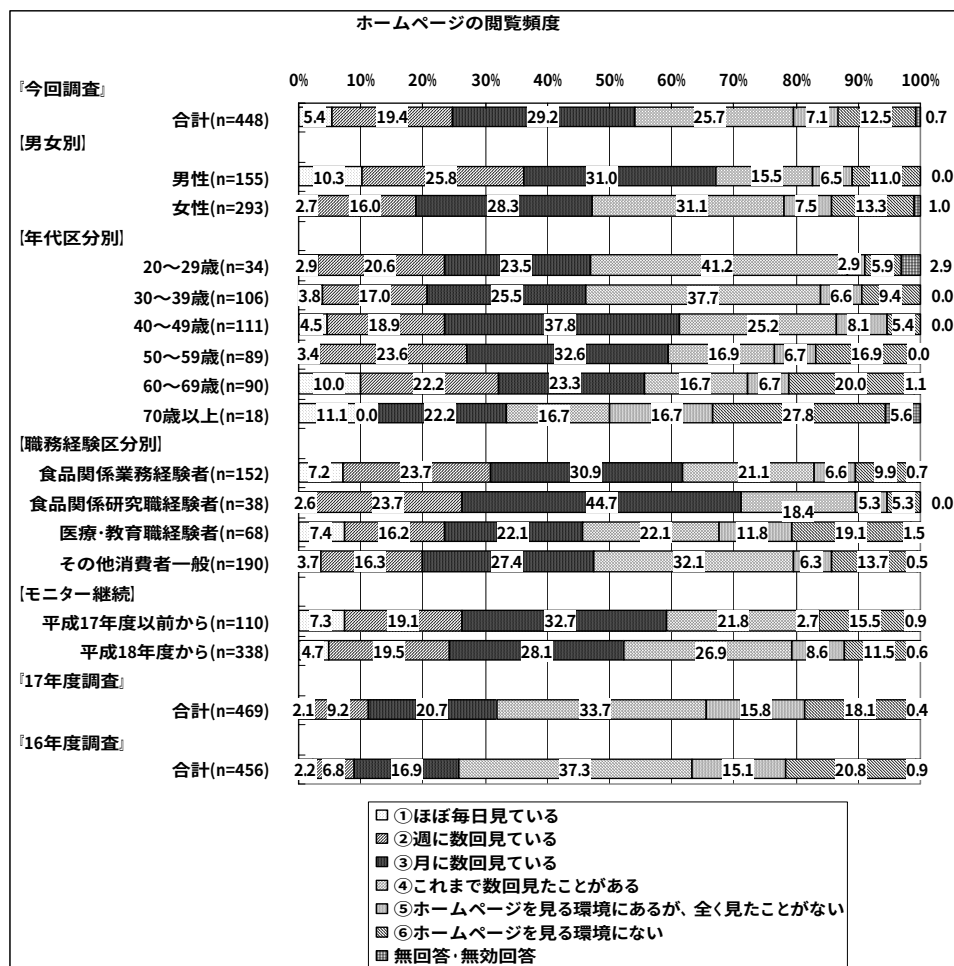
◆ 食品についてのリスクに対する容認度合は、喫煙に次いで低い



3) 食品安全委員会のホームページ及びメールマガジンについて

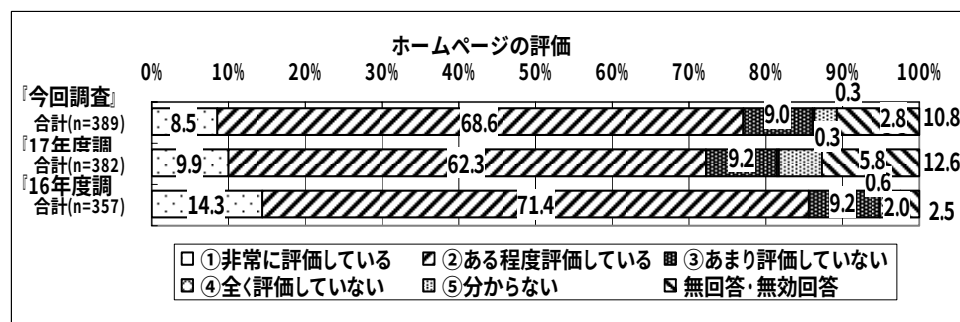
① ホームページの閲覧頻度

- ◆ ホームページの閲覧頻度は調査を重ねるごとに増加傾向。男女別では、男性が多い。また、年代別では60歳代の人が最も多い。



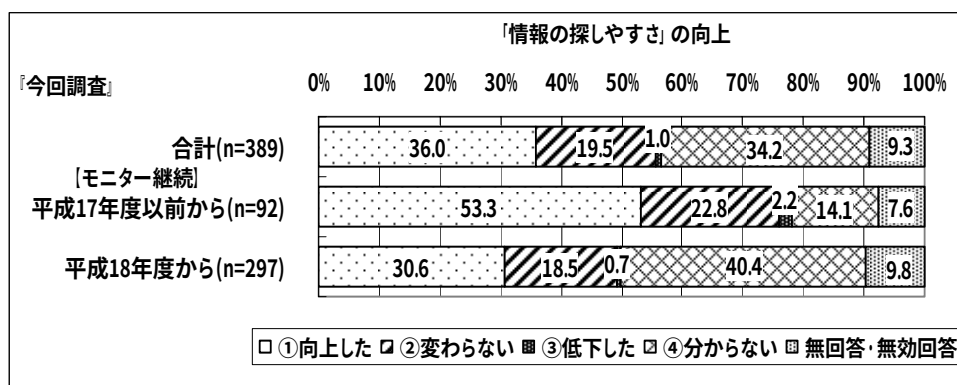
② ホームページの総合評価

- ◆ ホームページの総合評価は、過去2回（16年度、17年度）と比較して、大きな変化はない



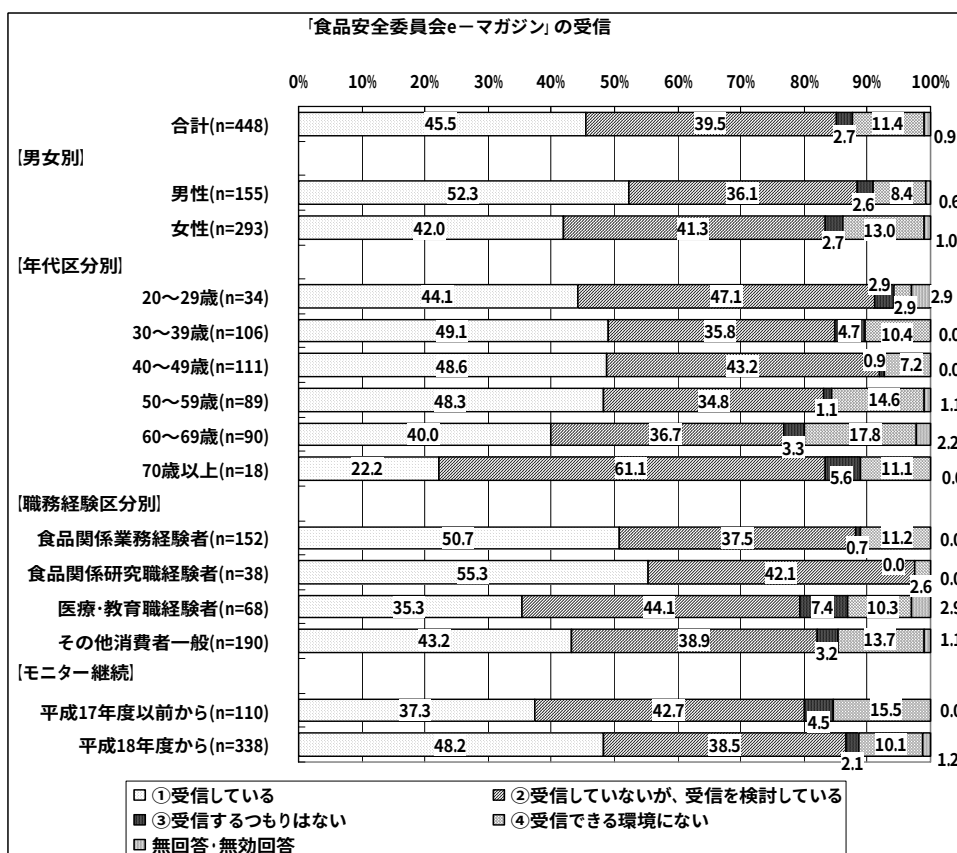
③ ホームページの情報の探しやすさについての評価

- ◆ ホームページのリニューアル後の情報の探しやすさの向上は、3割強が分からないとしているが、全体の4割弱及び継続モニターの過半数が向上したと評価



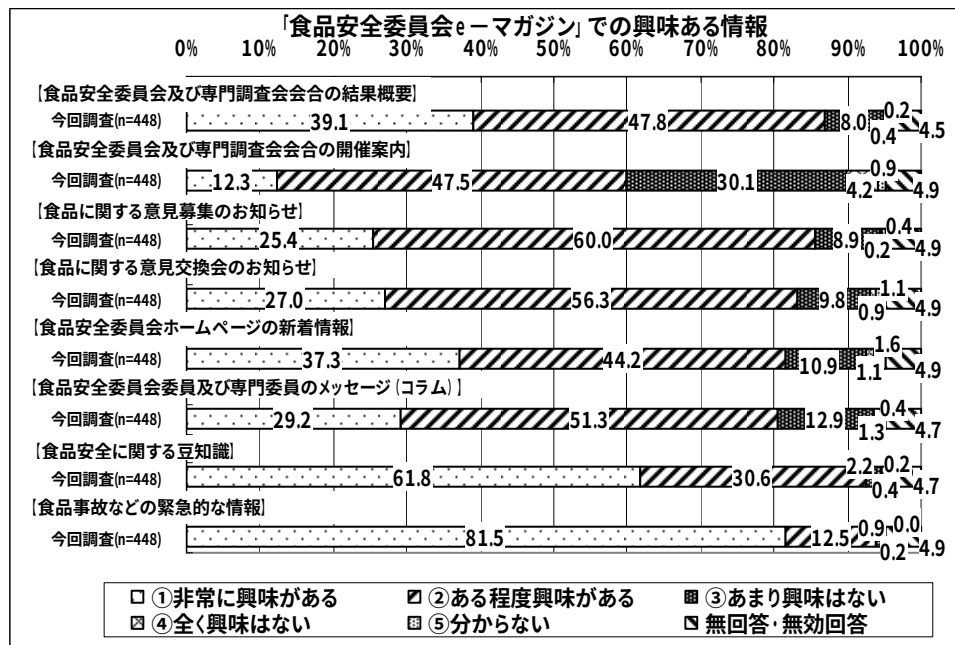
④ 「食品安全委員会 e-マガジン」の受信

- ◆ 4割強の人が、「食品安全委員会 e-マガジン」を受信しており、さらに4割弱の人が受信の検討を行っているという結果
- ◆ 「食品安全委員会 e-マガジン」の受信者が多いのは、男女別では男性、職務経験区分別では、食品関係業務経験者、食品関係研究職経験者である傾向



⑤ 「食品安全委員会 e-マガジン」での興味ある情報

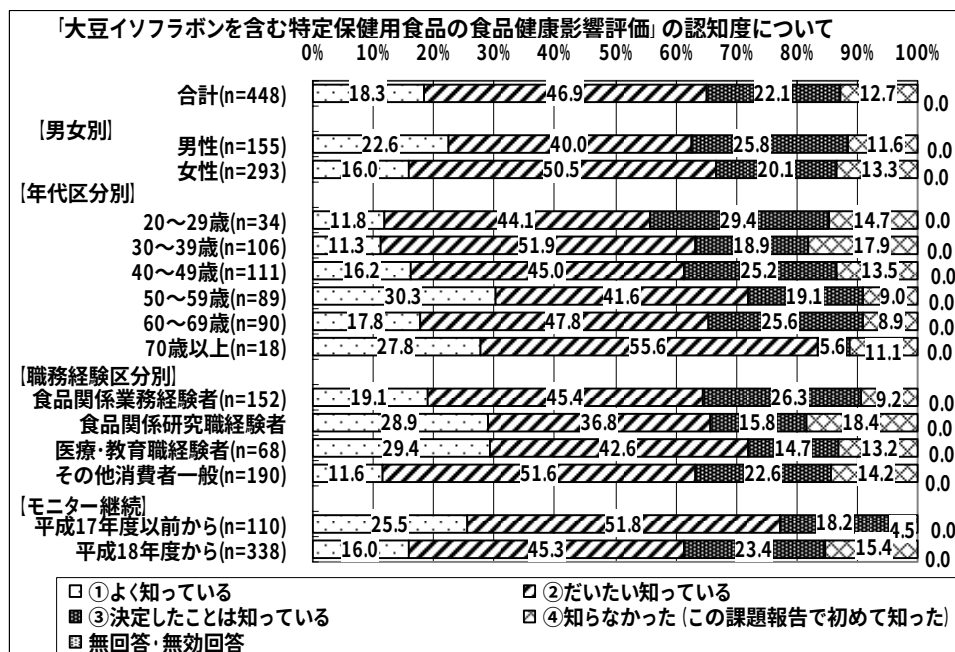
- ◆ 「食品安全委員会 e-マガジン」に、「食品安全に関する豆知識」や「食品事故などの緊急的な情報」を求める傾向



4) 大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価について

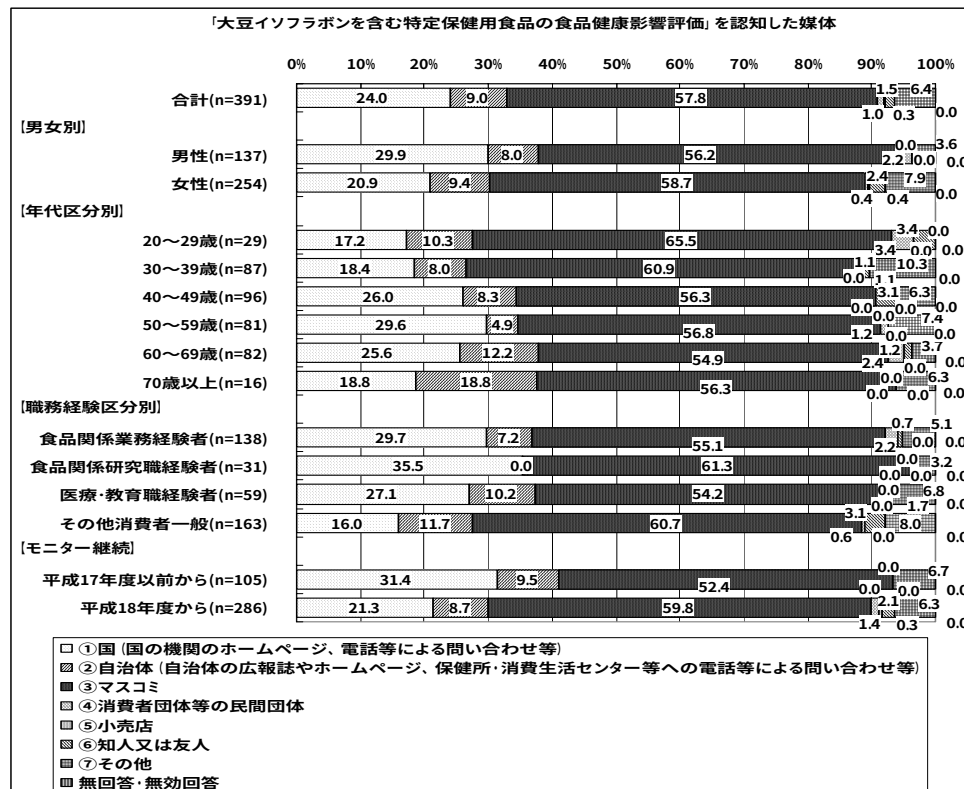
① 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の認知度

- ◆ 6割強の人が「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容を認知



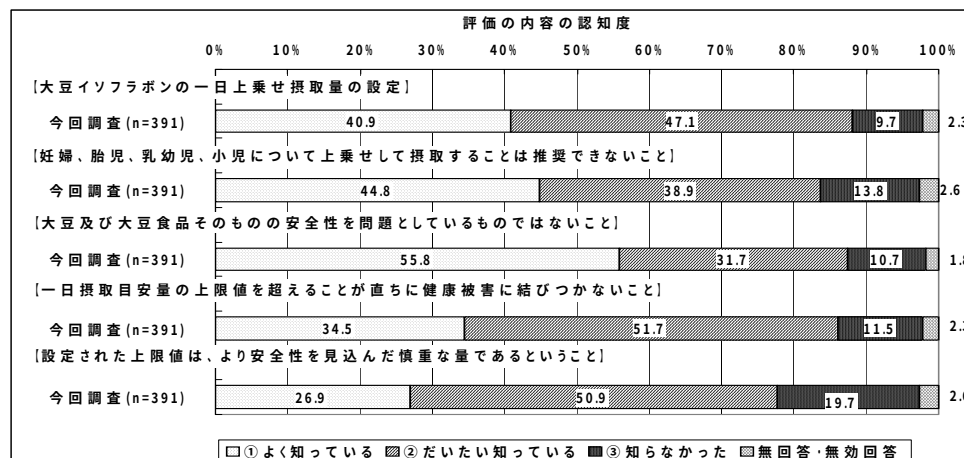
② 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を認知した媒体

◆ 6 割弱の人が、マスコミを通じて「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容を認知



③ 評価の内容の認知度

◆ 「大豆及び大豆食品そのものの安全性を問題としているものではないこと」など、評価の内容についての認知度は全般的に高い。



【別添】

1. 調査目的

食品安全委員会では、消費者の方々から食品の安全性に係る情報や意見をいただくため、本年4月に新たに平成18年度食品安全モニターを依頼した。このうち約4分の1は、これまでもモニターを経験された方で、残りの約4分の3が平成18年度から初めてモニターになっていただいた方々である。

一部設問については、全国の20歳代以上を対象に実施したインターネットアンケート調査「食品の安全性に関するアンケート」（平成18年2月実施）（以下、「インターネット調査」という。）、16年度食品安全モニター課題報告「食の安全性に関する意識調査」（以下、「16年度調査」という。）及び17年度食品安全モニター課題報告「食の安全性に関する意識等について」（以下、「17年度調査」という。）における調査結果との比較も行った。

調査項目は、次の4項目である。

1. 食品の安全性に係る危害要因等について
（食分野の安全性に係る不安感の程度、不安を感じる理由等）
2. リスクの認知について
（健康・生命に対するリスクの大きさ及びベネフィットの大きさと、各リスクの容認水準）
3. 食品安全委員会のホームページ及びメールマガジンについて
（食品安全委員会ホームページ及びメールマガジンの閲覧・購読状況と、それらに対する意見・要望）
4. 大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価について
（大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価の決定についての認知、摂取状況）

2. 実施期間

平成18年6月26日～7月11日

3. 対象

食品安全モニター	470名	
有効回答数	448名	（有効回答率：95.3%）

1) 食品安全モニターの回答者数の内訳

① 男女別：

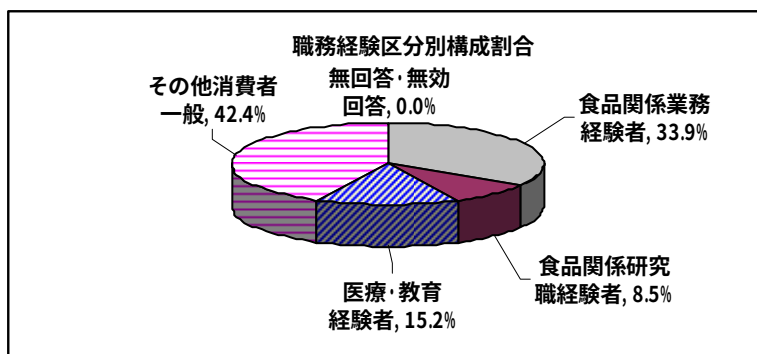
	回答者数	割合
全体	448 人	100.0%
男性	155 人	34.6%
女性	293 人	65.4%

② 年齢別：

	回答者数	割合
全体	448 人	100.0%
20～29 歳	34 人	7.6%
30～39 歳	106 人	23.7%
40～49 歳	111 人	24.8%
50～59 歳	89 人	19.9%
60～69 歳	90 人	20.1%
70 歳以上	18 人	4.0%

③ 職務経験区分別：

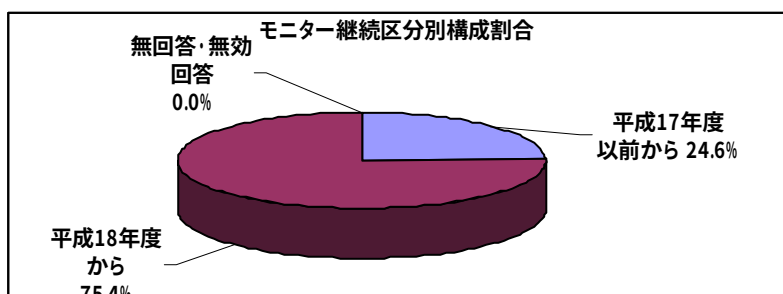
食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業（飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む）に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	152 人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関（民間の試験研究機関を含む）、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	38 人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業（医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等）に就いた経験を5年以上有している方	68 人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	190 人



	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39 歳	40～59 歳	60 歳以上	
食品関係業務経験者	84 人	68 人	42 人	71 人	39 人	152 人
	55.3%	44.7%	27.6%	46.7%	25.7%	100.0%
食品関係研究職経験者	23 人	15 人	16 人	11 人	11 人	38 人
	60.5%	39.5%	42.1%	28.9%	28.9%	100.0%
医療・教育職経験者	16 人	52 人	15 人	28 人	25 人	68 人
	23.5%	76.5%	22.1%	41.2%	36.8%	100.0%
その他消費者一般	32 人	158 人	67 人	90 人	33 人	190 人
	16.8%	83.2%	35.3%	47.4%	17.4%	100.0%

④ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
(以下、「継続モニター」という) 110 人
- 平成 18 年度から、食品安全モニターに依頼された方
(以下、「新規モニター」という) 338 人



2) インターネット調査の回答者数の内訳

① 男女別：

	回答者数	割合
全体	1,000 人	100.0%
男性	515 人	51.5%
女性	485 人	48.5%

② 年代区分別：

	回答者数	割合
全体	1,000 人	100.0%
20～29 歳	168 人	16.8%
30～39 歳	189 人	18.9%
40～49 歳	162 人	16.2%
50～59 歳	197 人	19.7%
60～69 歳	239 人	23.9%
70 歳以上	45 人	4.5%

4. 調査結果

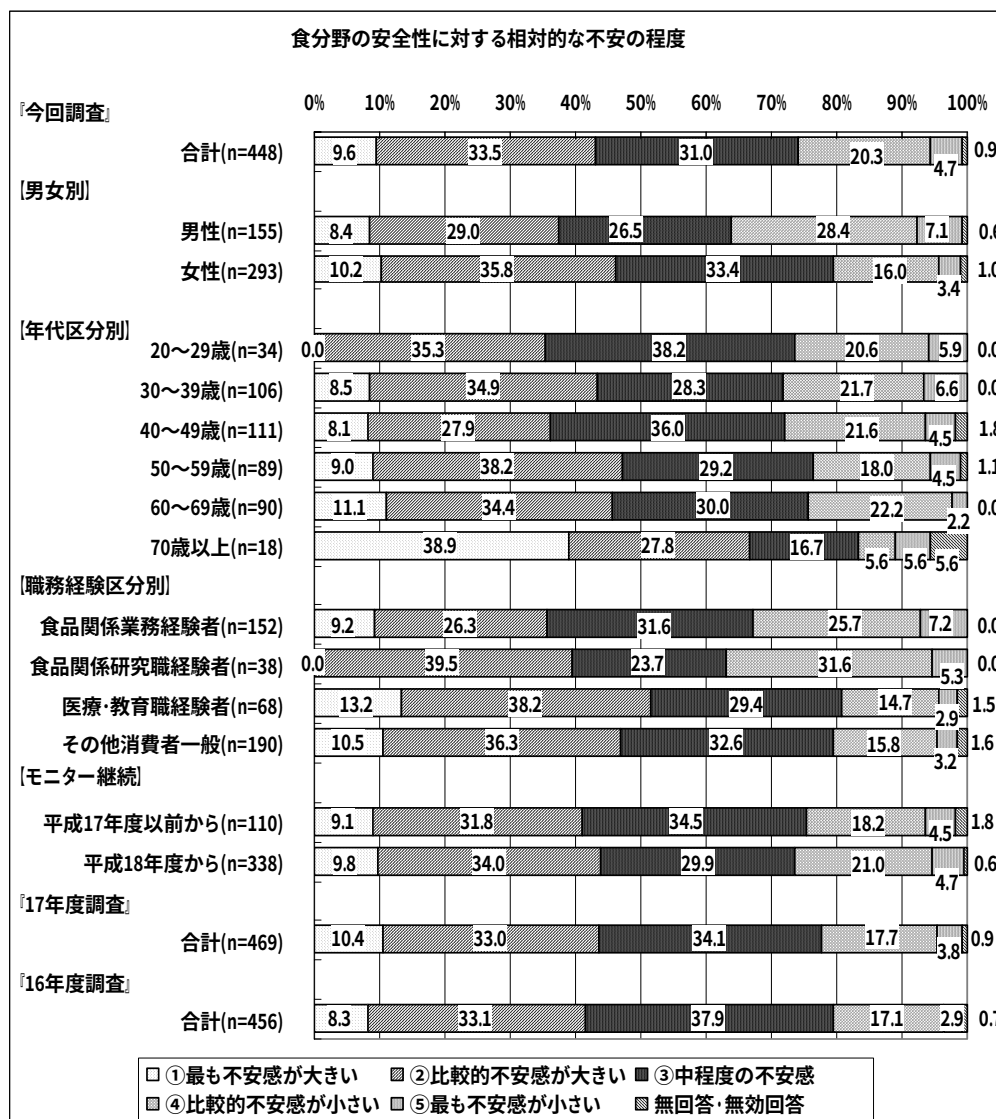
1) 食品の安全性に係る危害要因等について

① 食分野の安全性に対する相対的な不安の程度

問1 日常生活を取り巻く安全の分野のうち、自然災害、環境問題、犯罪、交通事故などの分野に比べて、食の安全の分野に対するあなたの不安感は相対的にどの程度の大きさですか。(一つ選択)

◆ 食分野の安全性に対する相対的な不安の程度に男女間に違い

自然災害をはじめとする日常生活を取り巻く安全の分野の中で、食分野の安全性に対する相対的な不安の程度について、「最も不安が大きい」、「比較的不安が大きい」とする回答割合は43.1%であった。16年度調査、17年度調査と比較して、今回調査に大きな変化が見られなかった。男女別では「最も不安が大きい」、「比較的不安が大きい」とする回答割合は男性では37.4%であり、女性では46.0%であった。



② 食の安全性について感じている不安の程度

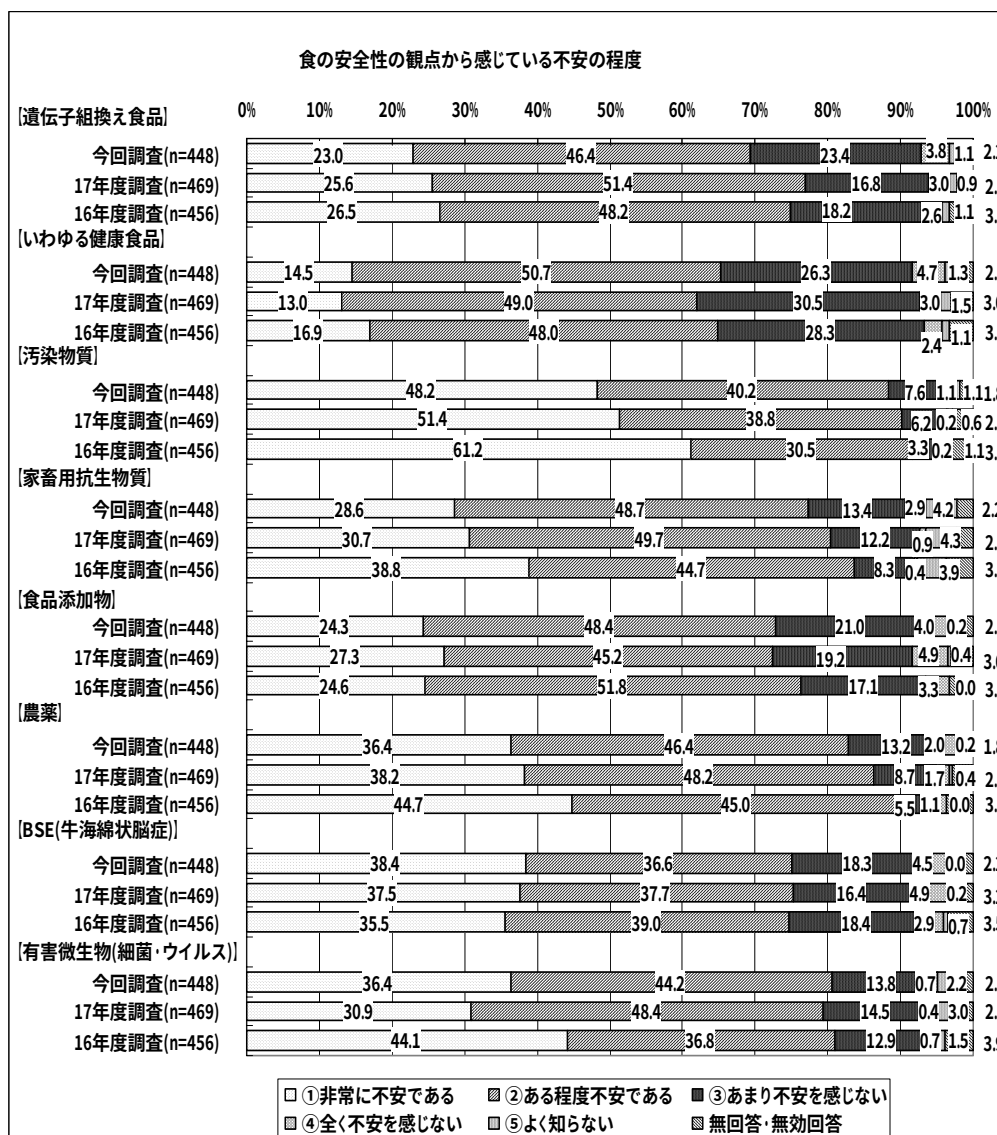
問2 以下の八つの要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度を記入してください。(一つ選択)

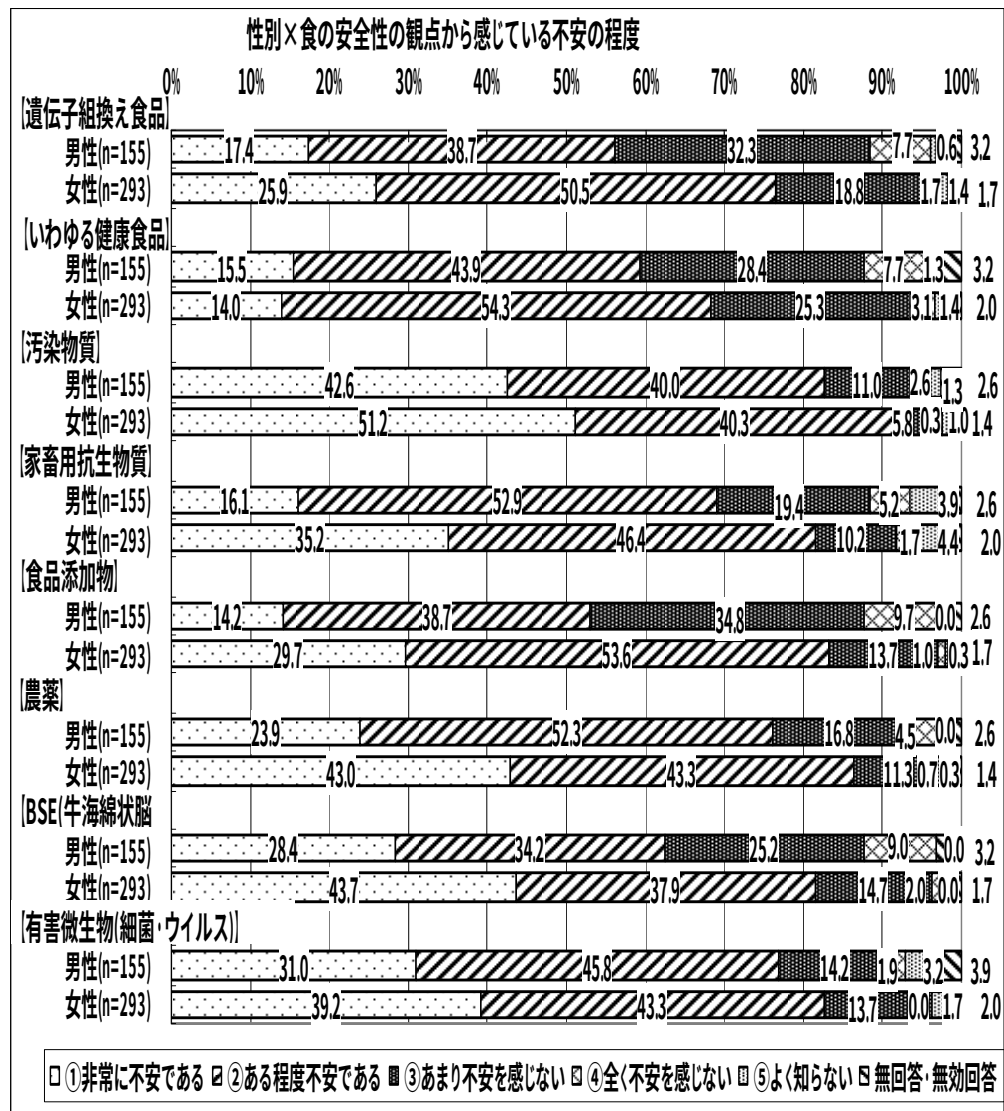
また、以下の八つの要因以外に不安を感じているものがあれば、併せて「9 その他」に具体的な要因名を記入してください。

◆ 食の安全性について不安の程度は、汚染物質が最も高いが、過去2回（16年度、17年度）と比べ、全般的には若干減少傾向

食の安全性の観点から感じている不安の程度について、「汚染物質」、「家畜用抗生物質」、「農薬」では、モニター調査を重ねるにつれ、「非常に不安である」と回答する割合が減少している。

男女別に比較すると、「いわゆる健康食品」以外の項目で、女性の方が「非常に不安である」と回答する割合が高かった。



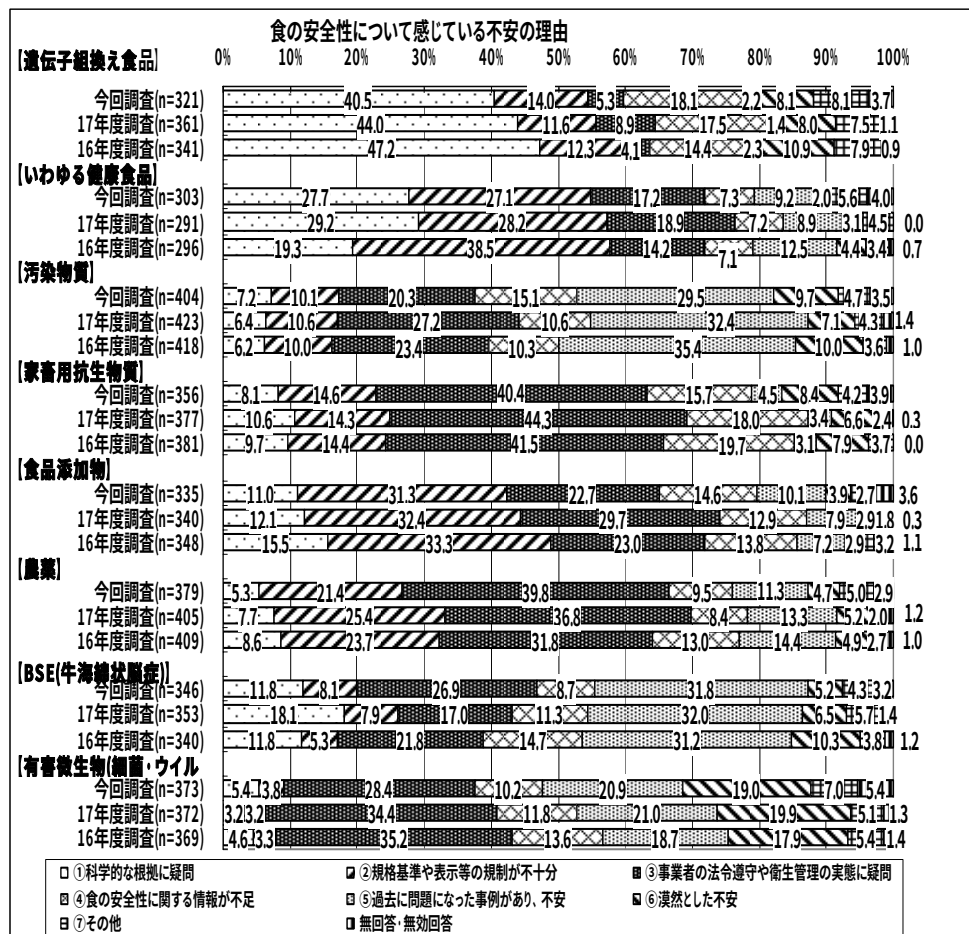


③ 食の安全性について感じている不安の理由

問3 問2において、あなたが不安を感じるとした要因（八つの要因のうち「① 非常に不安である」又は「② ある程度不安である」を選択した要因及び「9 その他」であなたが記入した要因）についてお聞きます。
それぞれの要因ごとに不安を感じる理由を記入してください。（一つ選択）

◆ 食の安全性について感じている不安の理由は、要因ごとに相違

全般的な傾向としては、調査の時期による大きな変化は見られなかった。八つの要因別に、不安を感じる理由の回答割合が高かった理由とその割合は次の通りであった。「遺伝子組換え食品」、「いわゆる健康食品」では「科学的な根拠に疑問」で40.5%、27.7%、「汚染物質」、「BSE（牛海綿状脳症）」では、「過去に問題となった事例があり、不安」で29.5%、31.8%であった。「家畜用抗生物質」、「農薬」、「有害微生物（細菌・ウイルス）」では、「事業者の法令遵守や衛生管理の実態に疑問」で40.4%、39.8%、28.4%であった。「食品添加物」では「規格基準や表示等の規制が不十分」で31.3%であった。



2) リスクの認知について

① 健康・生命に対するリスクの大きさ

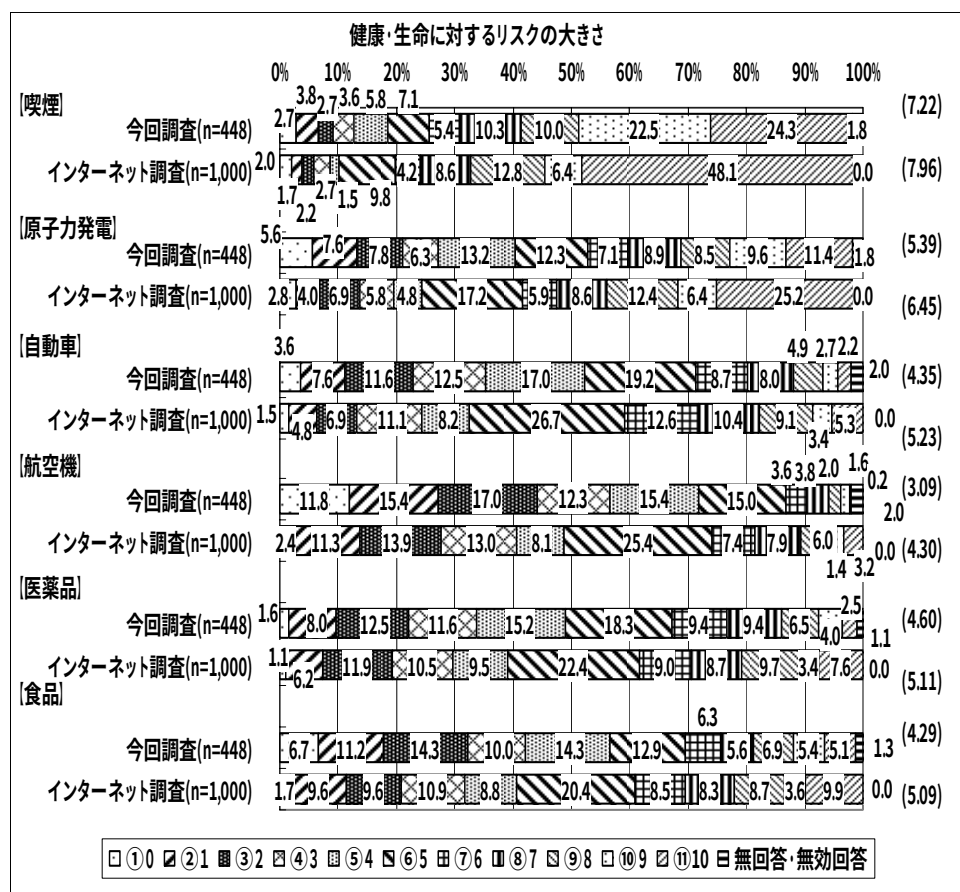
問4 以下のそれぞれの事項について、現時点で、あなた自身が感じている健康・生命に対するリスク（被害を及ぼす可能性）の大きさを選び、回答欄に該当する番号を記入してください。（一つ選択）

◆ 喫煙、原子力発電など6事項のうち、食品のリスクの大きさは5番目と評価

18年2月実施インターネット調査と同一の設問で調査した。

喫煙、原子力発電、自動車、航空機、医薬品、食品について、健康・生命に対するリスクの大きさに対して0から10の11段階評価の結果を得点としてみなした。

今回調査で最もリスクが大きいと考えられている事項は「喫煙」であり7.22、次いで「原子力発電」5.39、「医薬品」4.60、「自動車」4.35、「食品」4.29、「航空機」3.09と続く。インターネット調査においても、ほぼ同様の結果であった。



※右の括弧内の数字は、それぞれの事項について0～10の11段階で回答したリスクの大きさを得点とみなし、その得点を平均したもの

② 健康・生命に対するベネフィットの大きさ

問5 以下のそれぞれの事項について、現時点であなた自身が感じているベネフィット（利益や恩恵）の大きさを選り回答欄に該当する番号を記入してください。（一つ選択）

◆ 喫煙、原子力発電など6事項のうち、食品のベネフィットは最も大きいと評価

喫煙、原子力発電、自動車、航空機、医薬品、食品について、健康・生命に対するベネフィットの大きさに対し0から10の11段階評価の結果を得点とみなした。

今回調査及びインターネット調査の両方において、最もベネフィットが大きいと考えられている事項は「食品」であり、それぞれ8.33、7.89であった。次いで「自動車」、「医薬品」、「航空機」、「原子力発電」、「喫煙」の順であった。



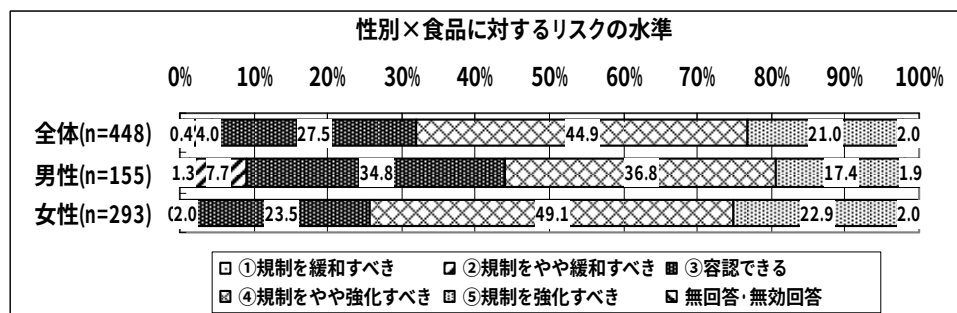
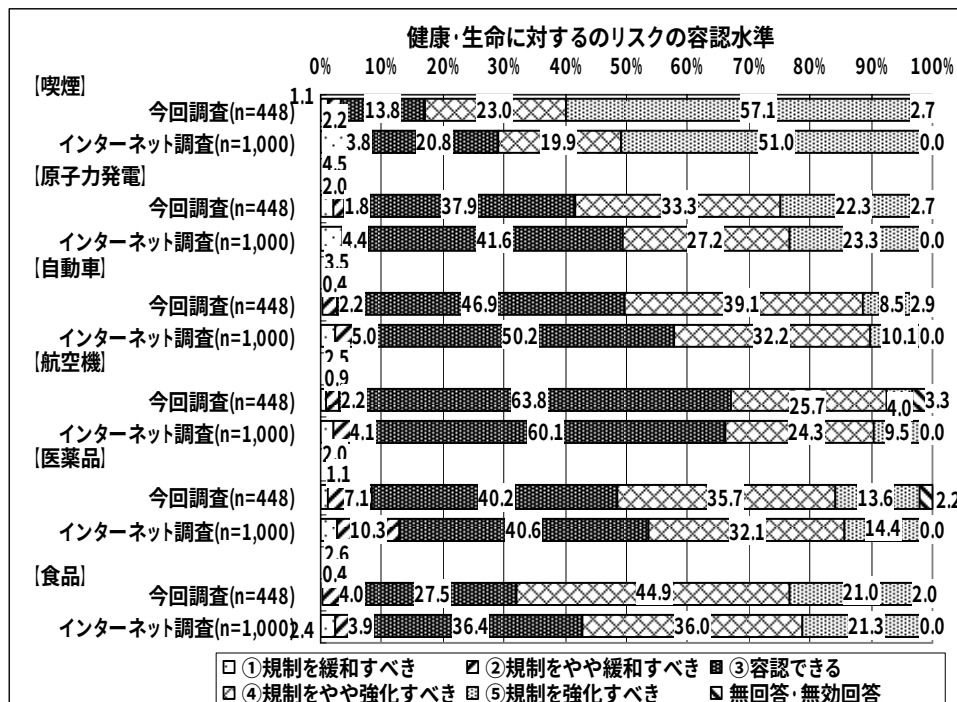
※ 右の括弧内の数字は、それぞれの事項について0～10の11段階で回答したベネフィットの大きさを得点とみなし、その得点を平均したもの

③ リスク水準についての意識

問6 以下のそれぞれの事項について、現時点であなた自身が感じている健康・生命に対するリスク（被害を及ぼす可能性）は容認できる水準かどうかを選び回答欄に該当する番号を記入してください。（一つ選択）

- ◆ 食品についての健康・生命に対するリスクの容認水準は、6 事項中 5 番目に低い
- ◆ インターネット調査と比較し、今回調査は全般的に容認水準は低い傾向
- ◆ 食品に対するリスク容認水準は、男性より女性の方が低い

健康・生命に対するリスクについて「規制を緩和すべきだ」、「規制をやや緩和すべきだ」、「容認できる」と回答した割合を各事項の容認度合とみると、今回調査で最も容認されている事項は、「航空機」であり 66.9%であった。続いて「自動車」49.5%、「医薬品」48.4%、「原子力発電」41.7%、「食品」31.9%、「喫煙」16.0%であった。この順位は、インターネット調査と同様であるが、すべての事項について、今回調査の方が容認度合は低かった。



3) 食品安全委員会のホームページ及びメールマガジンについて

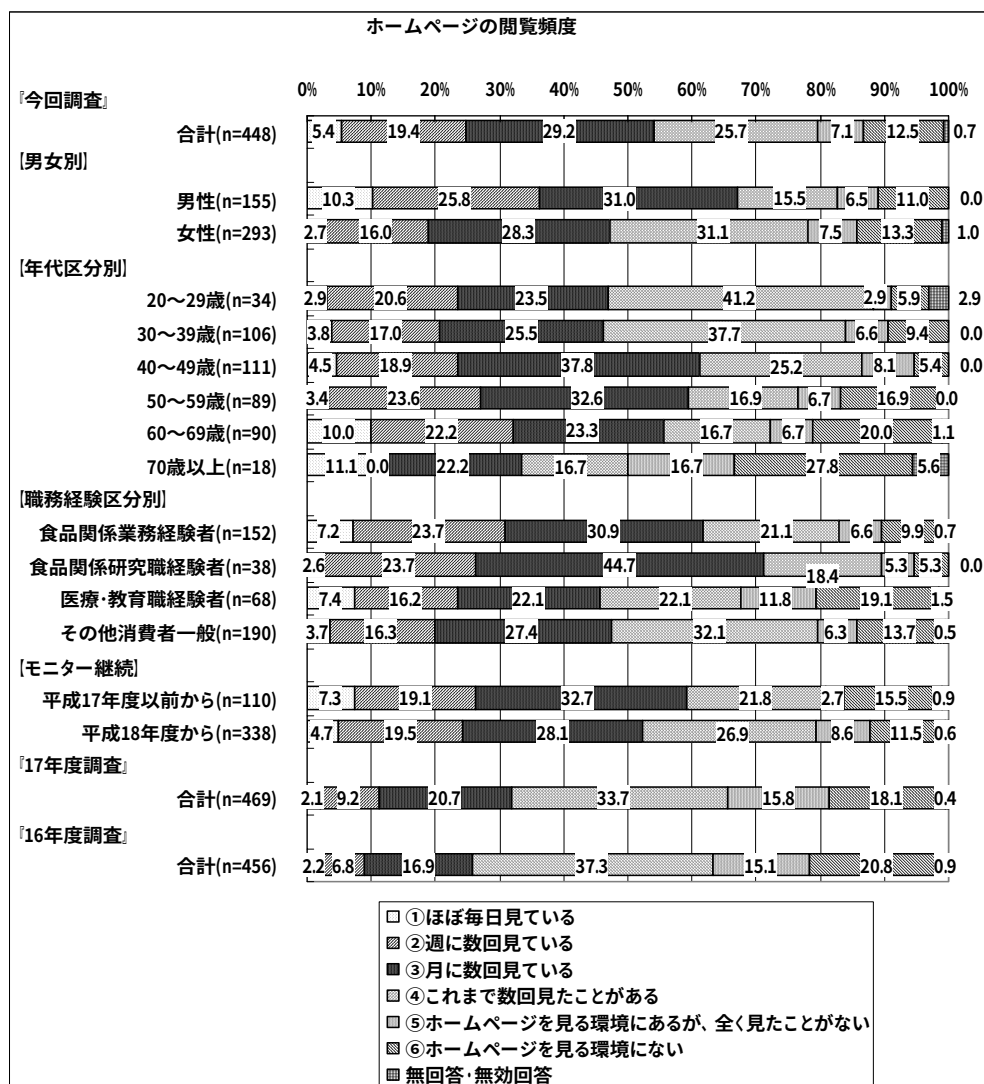
① ホームページの閲覧頻度

問7 あなたは食品安全委員会のホームページをどの程度御覧になっていますか。
(一つ選択)

◆ ホームページの閲覧頻度は調査を重ねるごとに増加傾向。男女別では、男性が多い。また、年代別では60歳代の人最も多い

ホームページの閲覧頻度について、「ほぼ毎日見ている」、「週に数回見ている」と回答した人の割合は、16年度調査では9.0%、17年度調査では11.3%、今回調査では24.8%と年々増加傾向にある。

男女別で比較すると、男性が36.1%と高く、女性が18.7%と低かった。また、年代別に比較すると、「60～69歳」の人が最も高く32.2%、次いで「50～59歳」の人で27.0%であった。

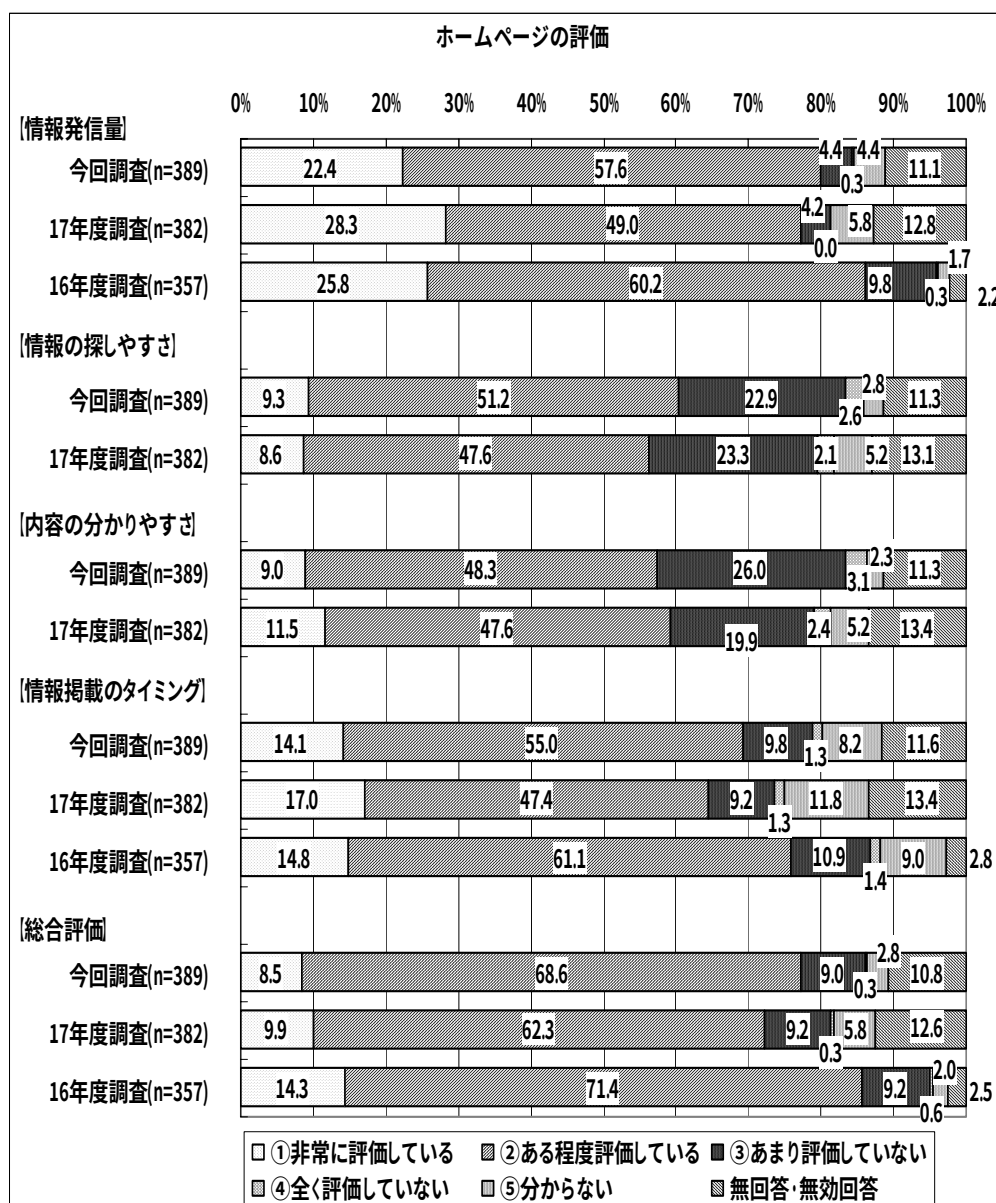


② ホームページの評価

問8 問7で「①ほぼ毎日見ている」から「⑤ホームページを見る環境にあるが、全く見たことがない」のいずれかを選択した方にお聞きします。当委員会のホームページを御覧いただきました上、お答えください。以下の五つの項目について、あなたの評価はいかがですか。（一つ選択）

◆ ホームページについて、情報発信量を中心に総合評価では7割強の人が概ね評価

食品安全委員会のホームページについて5つの側面から評価してもらったところ、「非常に評価している」もしくは「ある程度評価している」とする回答割合は、「情報発信量」が80.0%、「情報掲載のタイミング」が69.1%、「情報の探しやすさ」が60.5%、「内容の分かりやすさ」が57.3%であり、「総合評価」は77.1%であった。



③ ホームページの情報の探しやすさについての評価

問9 問7で「①ほぼ毎日見ている」から「⑤ホームページを見る環境にあるが、全く見たことがない」のいずれかを選択した方にお聞きします。当委員会のホームページは本年5月12日からトップページをリニューアルしましたが、リニューアル前と比べて、「情報の探しやすさ」は向上したと思いますか。（一つ選択）

◆ ホームページのリニューアルによる「情報の探しやすさ」の向上について、モニター期間の長い人が高評価

ホームページのリニューアル後に、情報の探しやすさが向上したと回答した人の割合は36.0%であった。一方、「分からない」と回答した人は34.2%に及んだ。

ホームページのリニューアルによる「情報の探しやすさ」の向上について「向上した」と回答した人の割合をモニター継続期間別に比較すると、「平成17年度以前から」の人が53.3%であった。



④ ホームページの改善点や意見

問 10 問 7で「①ほぼ毎日見ている」から「⑤ホームページを見る環境にあるが、全く見たことがない」のいずれかを選択した方にお聞きします。当委員会のホームページについて、改善すべき点など御意見があれば、回答欄にできる限り具体的に記入してください。

食品安全委員会のメールマガジンについて寄せられた意見等（213 名、自由記述）の概要については以下のとおり。（個別意見については別添参照）

(1) 内容についての意見

(a) 全体について

新規掲載、更なる充実を望む内容として、食育、実験データ（細菌の死滅温度、時間など）などが挙げられ、キッズボックスの充実など子供向けにわかりやすく解説したページの掲載を求める意見、リスク評価した案件のリスク管理機関へのリンクがあると更にわかりやすく活用できるという意見もあった。

(b) 分かりやすさ

用語の説明を丁寧にしてほしいという指摘が多数あり、またポイントを絞り込んで解かりやすくしてほしいという要望があった。

(2) 情報についての意見

(a) 情報発信量

情報量がとても多く、専門家、学生にとっては役に立つなど情報量の多さを評価する意見が複数あった。しかしその一方で、探したい項目があってもあまりの多さに困るという指摘もなされ、その解決策として要約版・解説の掲載を求める意見があった。

(b) 情報の探しやすさ

トップ画面がスッキリし見やすくなった、メニューも探しやすくなったなどリニューアルによる改善を評価する声が寄せられた。一方で、項目のタイトルが長すぎるなど更なる改善を求める意見も複数あった。

(c) 掲載方法

読むのに時間がかかる、ファイルが開かない等、PDF 形式での情報掲載に不都合を感じる指摘が多数なされ、委員会、委員長談話等の情報の動画配信の希望もあった。

(3) 見やすさについての意見

(a) 全体

リニューアルで項目ごとの表示や振り分けでわかりやすくなった、文章の羅列が多く読みにくい、見た目にソフトな感じにした方が良いなどの意見が寄せられた。「うす青」の文字は弱視者、高齢者には読みにくいため、検討願いたいという指摘があった。

(b) 文字の大きさ

文字が小さく多いという指摘が多く、その結果として分かりにくい、関係者向けの感じを受けるという意見、また小さな文字は高齢者に読みづらいという指摘があった。

(c) デザイン構成・レイアウト

イラストや図、写真を多くし、視覚に訴える様に工夫してほしいという要望があった。具体的には、重要事項、最新情報を点滅表示させるという提案があった。

(4) その他

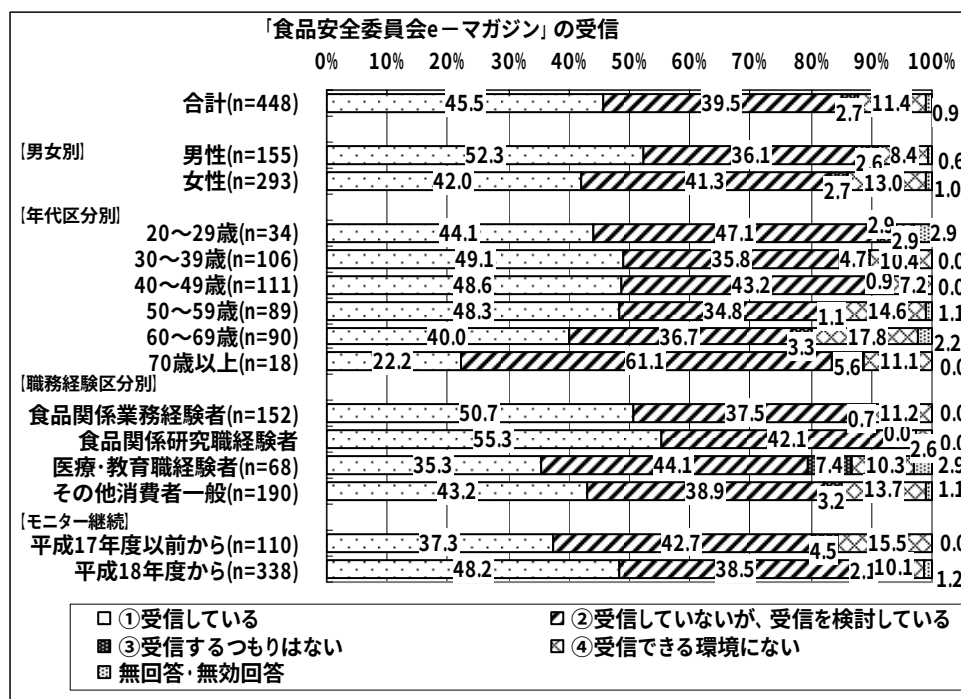
議事録や食品安全委員会の開催についての情報の早期掲載の要望、ホームページの存在を国民に宣伝した方がよい、インターネットを利用しない方の中からは、新聞（マスコミ）などを経由して情報が入るようにしてほしいという意見があった。

⑤ 「食品安全委員会 e-マガジン」の受信

問 11 当委員会では本年6月からメールマガジン「食品安全委員会 e-マガジン」の配信を開始いたしました。あなたは、現在、「食品安全委員会 e-マガジン」を受信していますか。（一つ選択）

◆ 4割強の人が、「食品安全委員会 e-マガジン」を受信しており、さらに4割弱の人が受信の検討を行っているという結果

「食品安全委員会 e-マガジン」を「受信している」と回答した人の割合は45.5%であった。また、「受信していないが、受信を検討している」と回答した人の割合は39.5%であった。



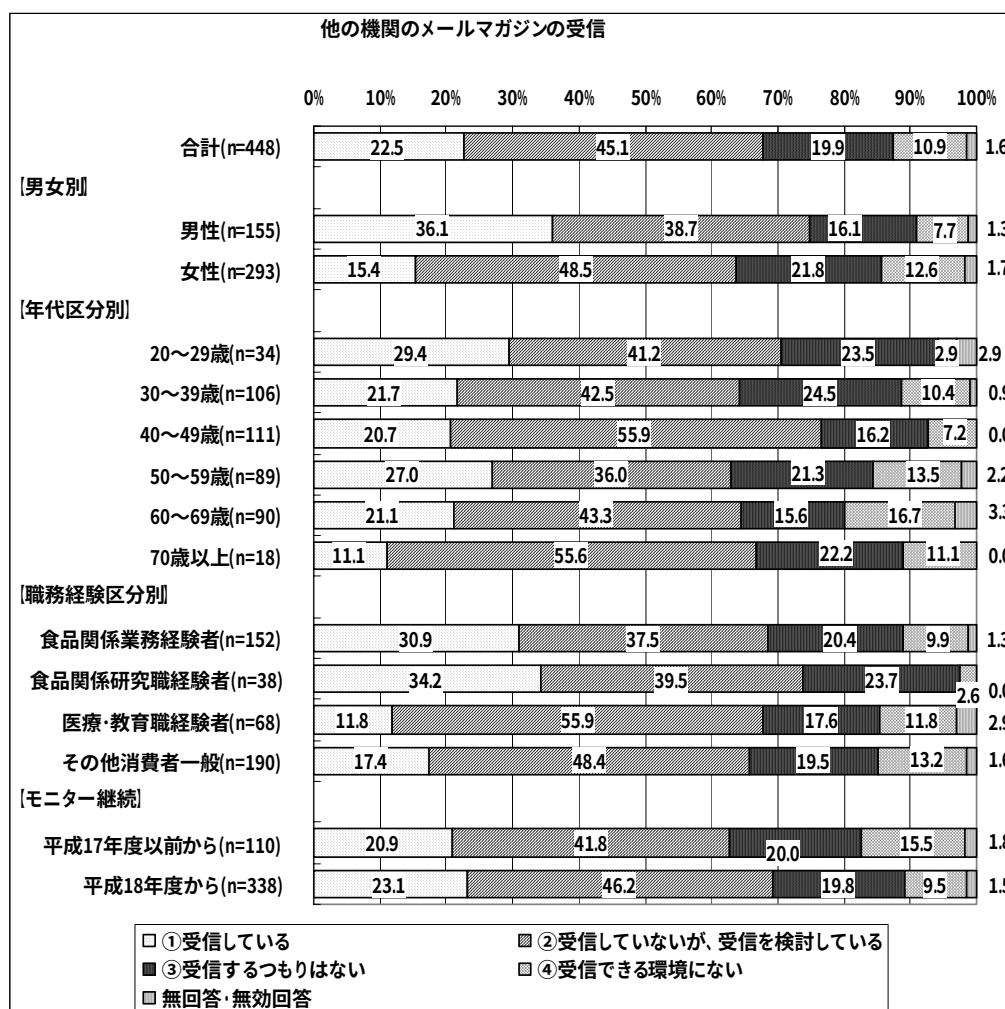
⑥ 他の機関のメールマガジンの受信

問 12 あなたは、現在、他の機関が発行する食品安全に関するメールマガジンを定期的に受信していますか。（一つ選択）

◆ 他の機関の食品安全に関するメールマガジンの受信について、男女間、職務経験区分に差。「男性」、「食品関係研究職経験者」、「食品関係業務経験者」で多い傾向

他の機関の食品安全に関するメールマガジンの受信について「受信している」と回答した人の割合を男女別で比較すると、男性が36.1%と高く、女性が15.4%と低くなった。

また、職務経験区分で比較すると、「食品関係研究職経験者」、「食品関係業務経験者」が高く、それぞれ34.2%、30.9%であった。逆に、「医療・教育職経験者」は11.8%と低くなった。



⑦ 「食品安全委員会 e-マガジン」での興味ある情報

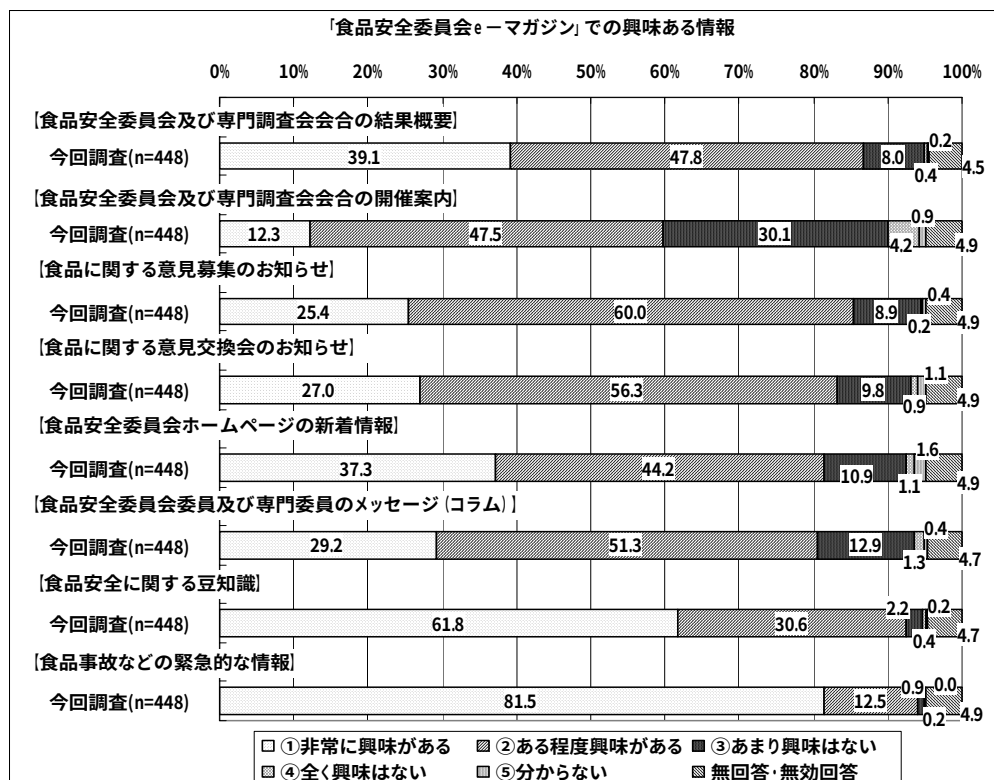
問 13 「食品安全委員会 e-マガジン」では、今後以下の項目に掲げる情報を提供していく予定です。それぞれの項目について、どの程度興味がおありですか。
(一つ選択)

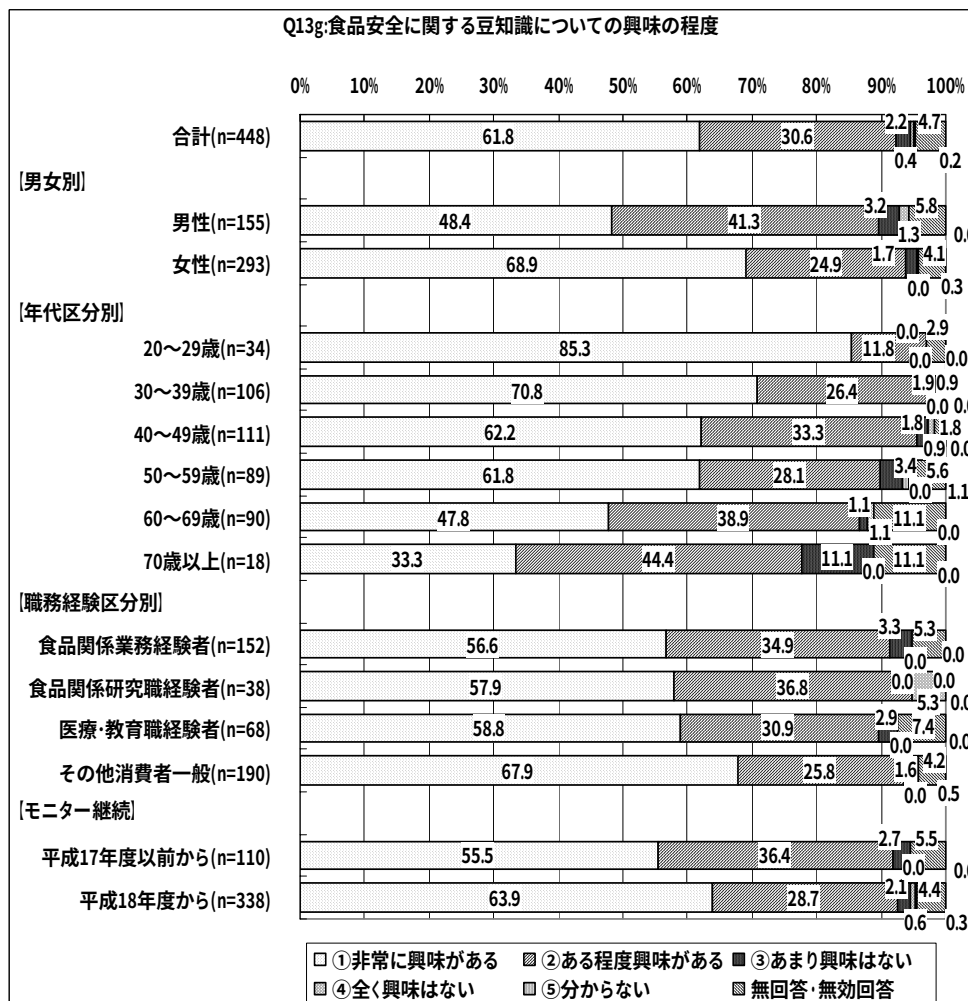
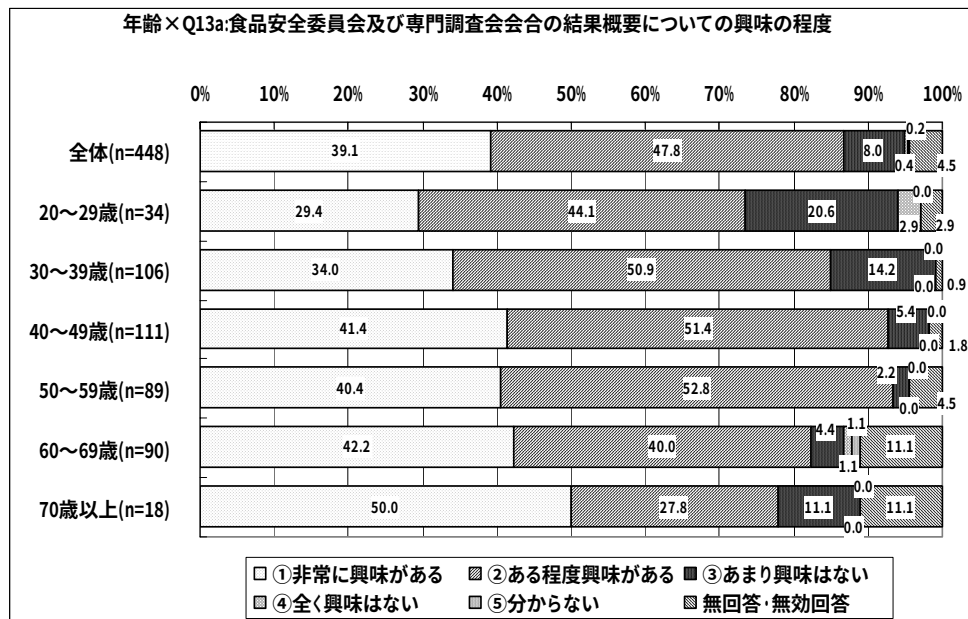
◆ 「食品安全委員会 e-マガジン」に、「食品安全に関する豆知識」や「食品事故などの緊急的な情報」を求める傾向

「食品安全委員会 e-マガジン」での興味ある情報として、「非常に興味がある」と回答した人の割合が最も高かったのは、「食品事故などの緊急的な情報」で 81.5%であった。次いで、「食品安全に関する豆知識」で 61.8%であった。

「食品安全委員会及び専門調査会会合の結果概要」についての興味の程度を年代別で比較すると、「70 歳以上」が「非常に興味がある」と回答した人が最も多く 50.0%であった。その割合は、年代が下がるにつれ低下し、「20～29 歳」では、29.4%と低くなった。

「食品安全に関する豆知識」についての興味の程度を年代別で比較すると、「20～29 歳」が「非常に興味がある」と回答した人が最も多く 85.3%であった。その割合は、年代が上がるにつれ低下し、「70 歳以上」では、33.3%と低くなった。男女別で比較すると女性が 68.9%と高く、男性が 48.4%と低くなった。また、職務経験区分で比較すると、「その他消費者一般」が高く 67.9%であった。





⑧ メールマガジンに望む情報

問 14 あなたは、当委員会発行のメールマガジンにどのような情報を望まれますか。回答欄にできる限り具体的に記入してください。

食品安全委員会のメールマガジンについて寄せられた意見等（322 名、自由記述）の概要については以下のとおり。（個別意見については別添参照）

(1) 内容についての意見

(a) 最新のニュース・速報

食に関する事故、事件の速報、新しい用語説明、ホームページに掲載されていない追加的な情報を期待するという意見も出された。

(b) 食品安全委員会、専門委員会の審議等

食品安全委員会、専門調査会の審議の進捗状況、結果、リスク管理機関での審議結果の反映、食品安全に係るセミナーの案内をして欲しいとの意見があった。

(c) 解説・正しい情報

注意すべき食品とその理由、新聞やテレビで報道された食品安全に関する内容とその信憑性や用語解説を掲載して欲しいという要望が複数あった。

(d) 食に関する現状

海外の農畜水産物、加工食品に関する情報等について知りたいという意見があった。

(e) 豆知識・Q&A

専門知識のない一般消費者からの Q&A コーナー、食品安全豆知識等、知識を体系化するのに役立つ情報掲載の要望があった。

(f) さまざまな意見・取組み①

一つの問題に対し相反する意見、少数意見等も掲載して欲しいという意見があった。

(g) さまざまな意見・取組み②

BSE の安全性、輸入食品の農薬、添加物使用や安全管理の実態の掲載等挙げられた。

(h) 食品安全委員会委員などからの情報発信

食品安全委員会委員及び専門委員の生の声を発信することを望む意見が出された。

(i) 情報量

情報量は現状で良いという意見もある一方、多いという意見が目立った。

(j) ホームページとの連携

更新情報の掲載、ホームページとの役割分担を明確にという意見があった。

(k) メール以外の媒体

高齢者にはメール以外の形での広報が必要だという意見が出された。

(2) その他

リスクやハザードなどに関する初歩的な情報を消費者にわかりやすい形で毎回もう少し入れた方がよいなど、専門知識のない人でもわかるよう工夫してほしいという要望があった。また、携帯電話での配信の提案があった。

4) 大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価について

① 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の認知度

問 15 本年5月11日、食品安全委員会が「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を決定しました。この内容について、どの程度知っていますか。(一つ選択)

◆ 6割強の人が「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容を認知

「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の決定の内容について「よく知っている」、「だいたい知っている」と回答した人の割合は、全体では65.2%であった。モニター継続期間別に比較すると、「平成17年度以前から」の人が77.3%で、「平成18年度から」の人は、61.3%であった。

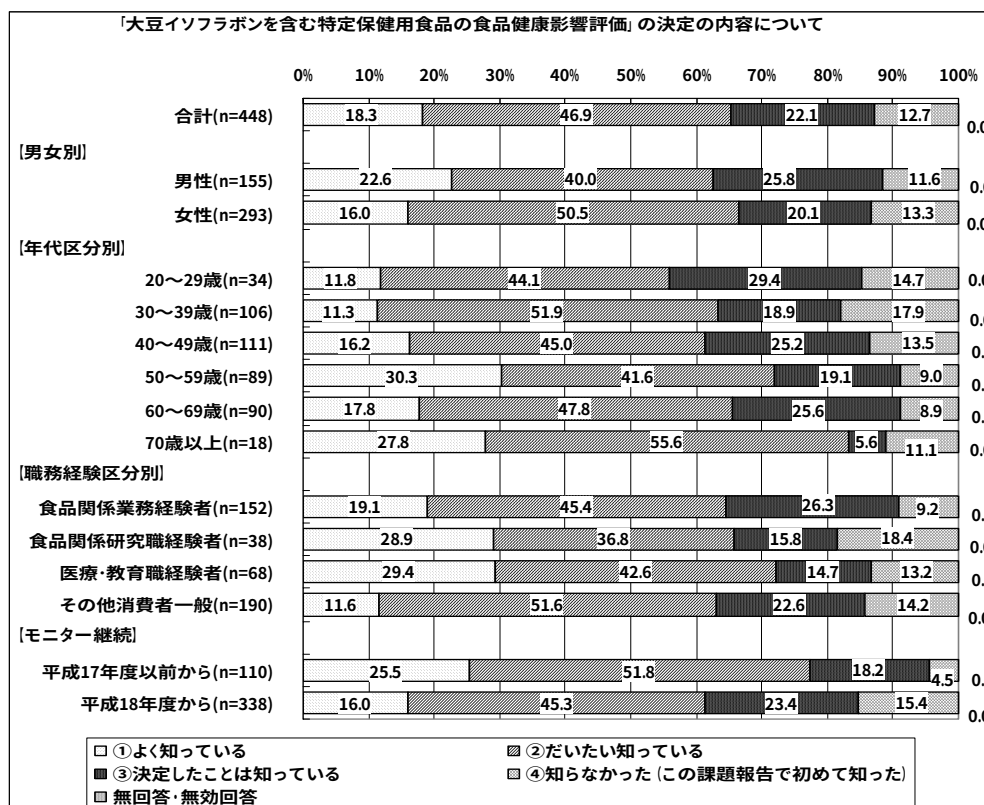
注：大豆イソフラボン関係の食品安全モニターへの情報提供は次のとおり。

○平成17年度モニターには、平成18年3月13日に、次のものを送付済み。

- ・大豆イソフラボンを含む特定保健用食品（3品目）の食品健康影響評価（案）のポイント及び意見・情報の募集案内
- ・大豆及び大豆イソフラボンに関するQ&A

○平成18年度モニターには、平成18年7月24日に、次のものを送付済み。

- ・食品安全委員会季刊誌『食品安全』vol.9（特集：大豆イソフラボンを含む特定保健用食品3品目の食品健康影響評価）



② 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を認知した媒体

問 16 問 15 で①～③と答えた方にお聞きます。「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容をどこで知りましたか。(一つ選択)

◆ 6割弱の人が、マスコミを通じて「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容を認知

「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容を知った媒体は、「マスコミ」が最も多く 57.8%であった。次いで、「国（国の機関のホームページ、電話等による問い合わせ等）」で 24.0%であった。



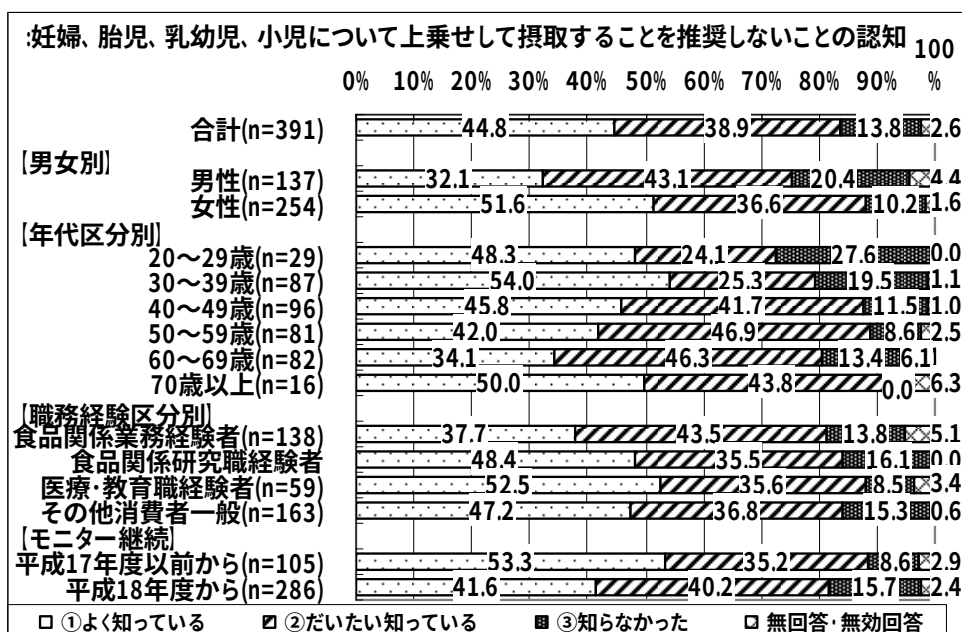
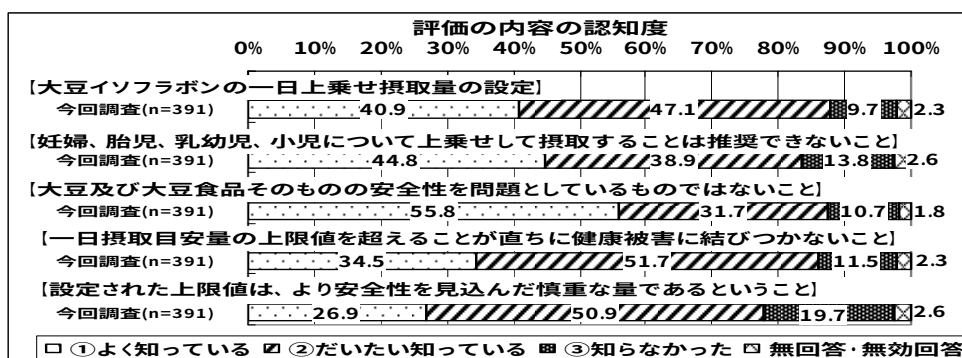
③ 評価の内容の認知度

問 17 問 15 で①～③と答えた方にお聞きします。以下に掲げる評価の内容それぞれについて、あなたはどの程度知っていますか。(一つ選択)

- ◆ 「大豆及び大豆食品そのものの安全性を問題としているものではないこと」など、
評価の内容についての認知度は全般的に高い
- ◆ 妊婦、胎児、乳幼児、小児についての影響について、20 歳代の人が「知らなかった」割合が高い

調査した 5 項目について、どの項目でも「よく知っている」、「だいたい知っている」と回答した人の割合は 75%以上であり、特に「大豆及び大豆食品そのものの安全性を問題としているものではないこと」については、「よく知っている」と回答した割合が 55.8%であった。

妊婦、胎児、乳幼児、小児についての影響は、20 歳代の人「知らなかった」の回答割合は 27.6%であった。



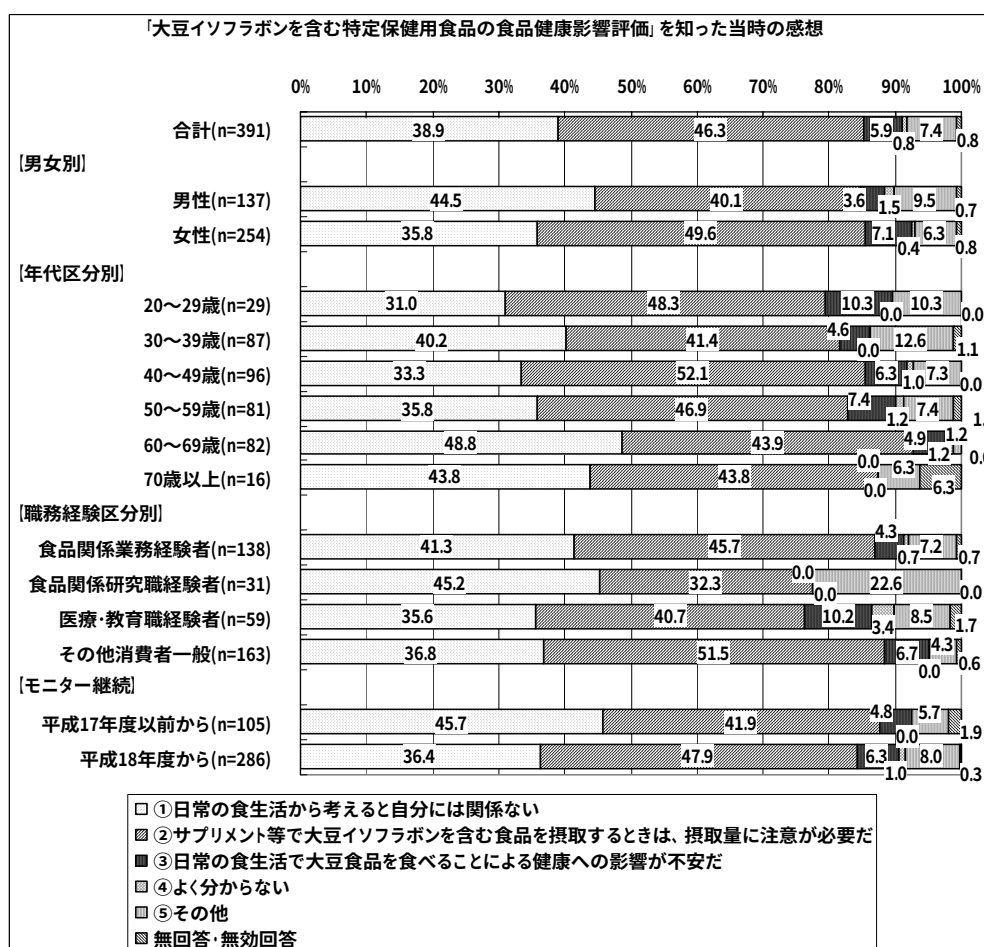
④ 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を知った当時の感想

問 18 問 15 で①～③と答えた方にお聞きます。「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」のリスク評価の内容について、知った当時のように感じましたか。(一つ選択)

◆ 食品健康影響評価の決定を知った当時、サプリメント等で大豆イソフラボンを含む食品の摂取量に注意が必要との感想は5割弱

「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を知った当時の感想で、「サプリメント等で大豆イソフラボンを含む食品を摂取するときは、摂取量に注意が必要だ」と回答した人の割合は46.3%、「日常の食生活から考えると自分に関係ない」と回答した人の割合は38.9%であった。

職務経験区分で比較すると、「サプリメント等で大豆イソフラボンを含む食品を摂取するときは、摂取量に注意が必要だ」と回答した人の割合は、「その他消費者一般」が最も高く51.5%であった。逆に、「食品関係研究職経験者」が最も低く32.3%であった。



⑤ 大豆イソフラボンを含む食品の摂取方法

問 19 日常生活の中で、納豆や豆腐等の大豆食品やサプリメント等の形態の大豆イソフラボンを含む食品をどのように摂取していますか。(一つ選択)

◆ サプリメント等で大豆イソフラボンを含む食品を摂取している人は全般的に少ない

大豆イソフラボンを含む食品の摂取方法について、「日常の食生活の中で、大豆食品はよく食べているが、サプリメント等で大豆イソフラボンを含む食品は摂取していない」と回答した人の割合が、91.3%と高かった。



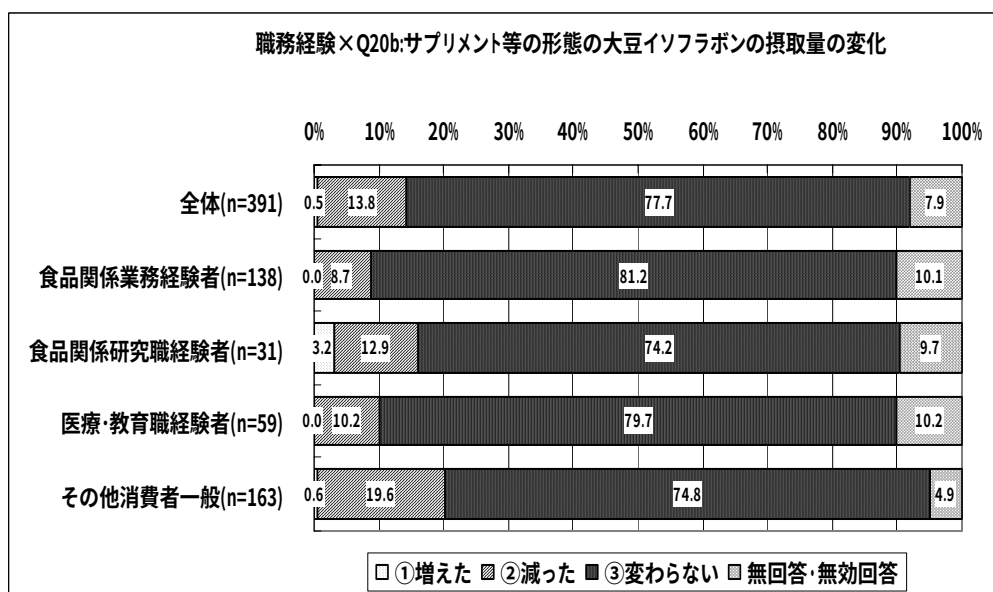
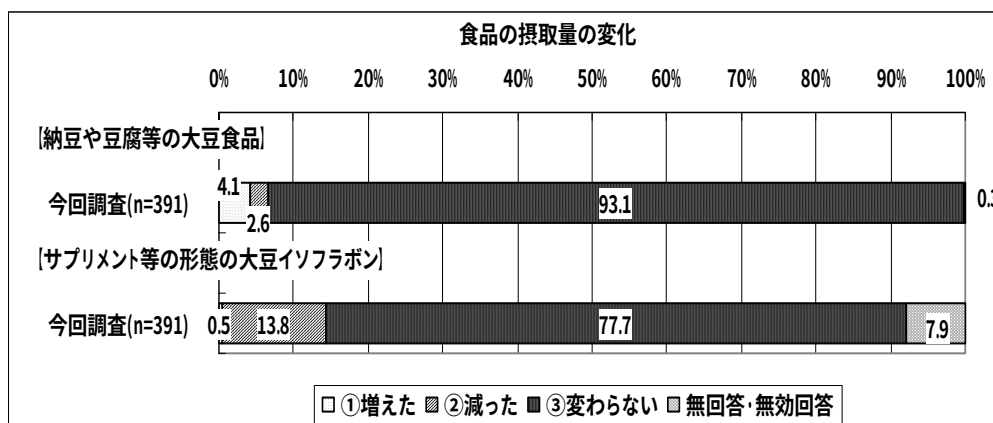
⑥ 食品の摂取量の変化

問 20 問 15 で①～③と答えた方にお聞きます。「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」を知った後、以下の食品の摂取量はどのように変化しましたか。(一つ選択)

◆ 大豆イソフラボン大豆食品の摂取量は、「その他消費者一般」で減少傾向

「納豆や豆腐等の大豆食品」の摂取量が「変わらない」と回答した人の割合が93.1%に達した。また、「サプリメント等の形態の大豆イソフラボン」についても77.7%の人が「変わらない」と回答した。

大豆イソフラボン大豆食品の摂取量について「減った」と回答した人の割合を職務経験別に比較すると、「その他消費者一般」が最も高く19.6%であった。逆に、「食品関係業務経験者」が最も低く8.7%であった。



【自由記述回答】

① 八つの要因以外に不安を感じているもの

問2 以下の八つの要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度を次の中から一つずつ選び回答欄に該当する番号を記入してください。また、以下の八つの要因以外に不安を感じているものがあれば、併せて「9 その他」に具体的な要因名を記入してください。

(回答者数=95人)

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	輸出国に対する政府の対応
			上記の不安の原因は、各企業がコンプライアンスを守るかどうかという不安。法等はある程度整っていると思う。
			表示違反
		40～49歳	水
			放射能被曝
			食品アレルギー。食品表示に対する行政の過剰な対応。
			トランス脂肪酸
			アレルギー物質(そば)
			飲料水(水道水)
			偽装表示
		50～59歳	異物混入、放射線照射、輸入食品
			輸入食品
			アレルゲン物質
		60～69歳	食品全般について
			加工食品
			高カロリー(&)高脂肪加工食品
			無殺菌のミネラルウォーター特に輸入品
			輸入食品
			アクリルアミド
			自然動物を食用にすること。
	女性	20～29歳	環境ホルモン
			食の選択に必要な知識の普及ができていないことが不安。
			環境ホルモン
			マスコミの報道
		30～39歳	農薬の散布方法
		40～49歳	鶏インフルエンザについて
			直売所の衛生面、安全面
			環境汚染(土、空気、水など)
		50～59歳	食品の容器に関するもの
			輸入食品
		60～69歳	ペットボトル入り飲料水
			環境汚染
食品関係研究 職経験者	男性	30～39歳	情報が無い食品について(加工品などで形態が変化したもの、又、表示が無いもの)
			鶏インフルエンザ
		60～69歳	輸入加工食品
	女性	20～29歳	疑いのあるものは買わないようにする。
			異物混入(ガラス片、金属等)
		30～39歳	残留農薬。特に中国や南米などからの輸入品について
医療・教育職 経験者	男性	50～59歳	放射線を照射した食品
		60～69歳	家庭や地域に対する衛生教育と食育の不足
			発ガン物質など
			要因3～8までの複合汚染

職務経験	性別	年齢	回答
	女性	70 歳以上	富岩運河のダイオキシン処理について 海外からの輸入食品すべて
		30～39 歳	ダイエットフード アレルギーとなる食品 日本の食文化になじみの薄い外国産果実
		40～49 歳	食料品の輸入について (寄生虫と) 有機食品
		50～59 歳	鶏インフルエンザ
		60～69 歳	輸入食品の安全チェックが不徹底であることへの不安 (検査官の人員不足) 健康食品はほとんど利用しない。このような食品は必要あるのか疑問を感じている。
		70 歳以上	販売に関する衛生面 (取扱いの) の指導が十分でない 水 (飲料水)
その他消費者 一般	男性	30～39 歳	食品の原産地表示
		40～49 歳	核物質 (ウラン、プルトニウム、ラドン)
		50～59 歳	新開発食品 (クローン)、クローン牛等々
		60～69 歳	中国・韓国等、特に発展途上国からの輸入食品検査実態や基準が不明 コカコーラ 水道水
	女性	20～29 歳	メチル水銀 アレルギー物質 (そば) 輸入養殖フグのホルマリン投与について。 包装、(パック等) ファーストフード等 輸入食品にたよりすぎていること
		30～39 歳	アレルギーとなる食品について オーガニック食品 放射能汚染 (食品への放射線照射とは違う) 食の安全性に関する情報の正確さについての不安 保健機能食品 食品の原材料表示義務 加工食品 冷凍食品 カット食材 輸入食品
		40～49 歳	全てにおいて、60～70 年後にどのようなかたちで、人間の体に影響を与えるかが、心配です。 加工食品等の包装材などから溶けだす成分の影響 (環境ホルモン等) 輸入食品 トランス脂肪酸 (マーガリン、ショートニング) 輸入食品 食品への放射線照射
		50～59 歳	発泡スチロール (食器)、台所用合成洗剤 放射線照射食品 食品照射 輸入食品 輸入食材・食品 輸入野菜・果物・魚介類 医薬部外品
		60～69 歳	水の汚染 健康情報番組 環境ホルモン 養殖魚 輸入野菜 輸入食品の安全性チェック (水際での) 家畜用食品 ①インスタント食品 ②冷凍食品 ①②の増加 ③しゃく力の低下 輸入品 食物アレルギー

② 不安を感じる理由

問3 問2において、あなたが不安を感じるとした要因（八つの要因のうち「① 非常に不安である」又は「② ある程度不安である」を選択した要因及び「9 その他」であなたが記入した要因）についてお聞きます。

それぞれの要因ごとに不安を感じる理由を次の中から一つずつ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。

(1) 遺伝子組換え食品について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=25人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39歳	いずれも“科学的な根拠”を挙げながら、米国と欧州でスタンスが異なる為
		40～49歳	DNA はその発現に長い期間が必要であり、遺伝情報は隔世で発現したり、突然変異したりします。そのトリガーになる可能性は未知数です。
		50～59歳	自然界の破壊
		60～69歳	広がりの実態の情報が不透明。国が情報を集め開示要 積み重なることである時期から、もう取り返せなくなる 歴史が浅く、人体への影響が未知数
	女性	30～39歳	長年食べ続け、どんな結果が待っているのかわからないところが不安 将来に渡る不安。経時(数十年 次世代)に対して特に不安です。 人間が勝手に作り出した遺伝子が自然界の微妙なバランスを崩すのではないかという不安
		40～49歳	遺伝子組換え作物が他の植物等の生態系に及ぼすかもしれない未知の不安 意図せずに含まれる場合がある。「5%」以下なら“不使用”と表示できる。
		50～59歳	次の世代への研究はまだ未知数だと思います。
	食品関係研究 職経験者	女性 30～39歳	便利なものであるかと思うが、本来自然界に存在しないものだと考えると、長期的なデータが必要だと思う。
		女性 50～59歳	未知であり、症例が何年後に出てくるかわからない
医療・教育職 経験者	男性	70歳以上	本食品が開発・消費されてから、未だヒトに対するデータがない
	女性	30～39歳	わざわざ組換えてまで作った食品を売ることはないのではないのでしょうか？と思うため
		60～69歳	日本で栽培されることになると遺伝子汚染が広がること
その他消費者 一般	女性	40～49歳	比較的新しいものなので過去のデータに乏しく、どのような影響が出るかわからないため まだ歴史が浅いため、年数を経て問題が起きないか不安。 組換え種と在来種の雑種が与える植物(生物)界への影響 それと知らずに食してしまうこと。次の代への影響の有無。 安全性が確認されていない遺伝子組換え食品が輸入されていないかのチェック検査が疑問であり不安です。
		50～59歳	新しい食品で、前例がない分未知の不安がある。 商品に遺伝子組換えなしと表示されていても、先日ある調査でわずかな遺伝子組換えが混入していたとの報道があった。法でなぜ100%禁止されていないのか、とても疑問である。罰則をきびしくしないといけないのではないのでしょうか。
		60～69歳	本物が無くなってしまいそう

(2) いわゆる健康食品について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者=17 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	50～59 歳	過剰摂取による害
		60～69 歳	過剰摂取、相乗効果等情報が不足
	女性	20～29 歳	摂りすぎると危害が起きる可能性があるものの場合、個人で摂取量を（完全に）調節できるかどうか疑問。
		30～39 歳	副作用や摂取する事により体内の他の機能に影響がありそうな気がするから。
		40～49 歳	病気を持っている人は病院から薬をもらい、さらに健康食品を飲むという現在飲み合わせが悪く薬が阻害されたり、反対に促進されたりもする場合があります、知識のない人にとってあぶない。
食品関係研究 職経験者	女性	20～29 歳	組み合わせたときと主成分ではない原料に対して不安です。
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	本食品が開発・消費されてから、未だヒトに対するデータがない
	女性	30～39 歳	健康食品といわれることに怪しさを感じます。
		50～59 歳	有害な食品を販売する業者があり不安。取締を強化して欲しい
		60～69 歳	科学的根拠に疑問。規格基準や表示等の規制が不十分。食の安全性に関する情報が不足の他に健康食品が、どこまで消費者に理解されているのか不安。
その他消費者 一般	女性	40～49 歳	長期的に摂取した場合、意図的に 1 栄養素を多くとったときのリスクや化学的合成栄養素の安全性に不安を感じます。
			規制を強化した方がよいと思う。メリットばかりうたったり、含有量に疑問のある商品も多い
			原材料が安全なものかどうか、認可が必要ではないか？
			消費者がその効果を過大評価しすぎている。
	女性	50～59 歳	消費者の摂取量オーバーへの危惧
			実母が健康食品のセミナーで大量に健康食品を買い込み、それをとり過ぎて体調をくずした。
		60～69 歳	宣伝に迷わされ会社に儲けさせるもの

(3) 汚染物質について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=18 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	汚染の実態が不明瞭な部分がある
		60～69 歳	蓄積量が解らず、発症が緩慢な為
			汚染物質の多くが重篤な健康危害を及ぼす危険性が高いこと。汚染発生の予測が難しいこと。
	女性	30～39 歳	目に見えないため、恐いし、防ぎようがないため。
		40～49 歳	意図せずに含まれる場合がある。重複した場合のリスクがわからない
食品関係研究 職経験者	男性	40～49 歳	汚染が目に見えないことが多い。何が汚染物質になる（該当する）のかわからない物質も多い。
	女性	50～59 歳	自然界の環境汚染につながっているので不安（人間が環境を良くも悪くもしていく）である
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	突然の出現に、その原因や報道に大きな不安を覚えます。結果が先に出現し、対策があとになることが多い点、特に不安が大きい。
	女性	30～39 歳	妊婦にとって、ラットの研究を人間に置きかえて本当に信じて良いものなのか？
		50～59 歳	内分泌かく乱物質など報道により不安。一過性でなく常に情報を流して欲しい。

職務経験	性別	年齢	回答
		60～69 歳	ダイオキシン類など脳に対する作用が将来、明らかになってくるのではないかと不安 色々な種類があり、また①科学的根拠に疑問の理由による。
		70 歳以上	あってはならない。 食物連鎖の頂点にある人間の体内に蓄積される有害物質に、地球規模で汚染の進む自然環境にあって、人間の英知がどこまで立ち向い、人類の安全を守れるのか不安である。
その他消費者 一般	女性	30～39 歳	健康に及ぼす影響が大きい
		40～49 歳	地球環境が破壊され、土壌・川・海などが汚染されている現在、汚染された食品を毎日摂っていることになるという不安。(これは避けようがないことである) 中国産(海外)は表示を信用できない。
		50～59 歳	複合汚染、汚染物質の増加

(4) 家畜用抗生物質について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=15 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	60～69 歳	抗生物質の乱用による、人に於ける抗生物質耐性菌の増加に心配している。 国産には不安なし。外国は休業等が厳守されてないので。 家畜及び養殖魚などにどのような抗生物質が使用されているのかあまりよくわからない
			意図せずに含まれる場合がある。重複した場合のリスクがわからない
			人体に入って、菌の耐性ができ、必要な時に抗生物質が効かなくなるのではという不安 現在安全でも抗生物質がきかないこともあると聞いたことがある。
	女性	40～49 歳	
食品関係研究 職経験者	女性	50～59 歳	情報が身近でないので不安である。
医療・教育職 経験者	男性	50～59 歳	薬剤耐性微生物の作出につながる。
	女性	70 歳以上	如何に薬剤が用いられたか、dose はどうかなど明確にすべき
その他消費者 一般	女性	20～29 歳	知らないうちに食している可能性があるから。
		30～39 歳	使用した時期や回数にもよるのかもしれませんが、家畜の身体に合った抗生物質でも、人体に害が無いとは言えないのでは。 食品としての不安というより、耐性菌の増加が不安
			知人の酪農関係者より BSE よりも日本人の好みに合わせるための薬の方が恐いと聞いたことがある
		40～49 歳	中国産(海外)は表示を信用できない。
		50～59 歳	スーパーマーケットの肉部門で働いている人の話を聞いた

(5) 食品添加物について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=9 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	女性	30～39 歳	天然のものも増えて安全性も上がったような気がするが、添加物のため化学的に処理されているために不安がある。
		50～59 歳	それぞれの安全基準はクリアされていても、相乗作用等不測の事態が不安
医療・教育職 経験者	男性	50～59 歳	最大無作用量から ADI を求めるための計算の根拠である動物種で 1/10、健康度合で 1/10 に対して疑問があるので。
	女性	30～39 歳	あらゆる添加物がよくわからず、長い間その物質が本当に人間にとって害がないのか、疑問である。
		60～69 歳	ほとんど毎日口に入るものであり、複合毒性が不安と②規格基準や表示等の規制が不十分の理由による

職務経験	性別	年齢	回答
その他消費者 一般	女性	30～39 歳	天然添加物の安全性に疑問。食品の成分と添加物との食べ合わせや、複数の添加物を色々な食品から同時に摂取したときの危険性。
			摂取後、即反応があるものではないが、少量微量でも長期の摂取でどれだけ影響が出るのか不安はある。
		40～49 歳	昔から知っていた食品添加物よりも、現在は数が多くなったが、食品添加物=悪いものはないとは知っているが、あまり語られず、イメージのみが悪い。正確に認知されていない感が強いと思う。その点が不安。
		60～69 歳	添加物にならされて舌の感覚が異常

(6) 農薬について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=19 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	特に中国から輸入される野菜に日本で使用されていない物を使っているなど。
			ポジティブリスト制度施行後、中国の対応が不十分
		50～59 歳	輸入品の場合、日本で使用できない薬品の検査方法が確立できなく、市場に流れてしまうのではないのか。
	女性	60～69 歳	ポジティブリストの遵守、監督等に疑問有り
		20～29 歳	輸入食品についての農薬残留量の試験がどのように行なわれているのか知らない。
		40～49 歳	意図せずに含まれる場合がある。
食品関係研究 職経験者	男性	50～59 歳	輸入野菜の検査頻度が少ないように感じる。 小規模の場合は守られていないようなことあり
			輸入品の残存農薬の監視体制に不安。ベトナムからの野菜も輸入されていると聞きますが、枯葉剤の残存はどうなのでしょう。
		60～69 歳	輸入品の場合、日本で使用できない薬品の検査方法が確立できなく、市場に流れてしまうのではないのか。
	女性	30～39 歳	輸入品の場合、日本で使用できない薬品の検査方法が確立できなく、市場に流れてしまうのではないのか。
		50～59 歳	国産の物についてはあまり不安に感じないが、輸入食品についての規制が甘いように感じる
		60～69 歳	生産者、事業者の取り組み姿勢が実際には消費者に見えないので不安。信じていますが。
医療・教育職 経験者	女性	30～39 歳	目に見えないものであるため、どの位使っているのか不安である。
		40～49 歳	畑、田んぼに農薬散布をしていて、神経にダメージを受け目が見えなくなった人を見た。
		60～69 歳	輸入食品が多いので、どこまで検査できるのかという不安
その他消費者 一般	男性	60～69 歳	中国からの輸入野菜は生産者の知識不足が心配
		20～29 歳	知らないうちに摂取している可能性があるから。
	女性	30～39 歳	消費者やマスコミ等が過剰反応をしているし、わ寄せが思わぬ所に出てくるように感じる不安。農薬を使用しない事によるリスクがある事を判断する情報が少なすぎる気がする。
		40～49 歳	特に国内よりも輸入野菜(中国等から)の農薬について強い不安を感じる。
		50～59 歳	農作物の薬としての使用。各家庭での農薬の使用がトータルにみえないし、行動しにくい。

(7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=15 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	国と国の力関係を食品安全(国民全体の)に持ち込まないでほしい。
		50～59 歳	米国産輸入牛に対する不信と不安を感じる。

職務経験	性別	年齢	回答
		60～69 歳	安全より経済優先により事業が進められている。
			本当の生育年月及びリスクマテリアルの除去の状況が不透明
			国の対応に不満。このことから不安。
	女性	30～39 歳	輸入牛肉に関しては国が規制していると思いますが、それ自体が不安。
食品関係研究 職経験者	男性	60～69 歳	政府や食品安全委員会に対する不信！！
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	将来 40～50 年先の健康状態のデータがない（プリオン蓄積量により）
	女性	30～39 歳	BSE の患者さんの症状をメディアを通してみると恐ろしいことである。見ためではわからないため不安を感じる
		60～69 歳	ウシはビーフエキス、コラーゲンとして加工食品又化粧品などあらゆるところに使われているのですべてに対応できているかという不安
その他消費者 一般	女性	30～39 歳	危険部位が 100%判明されていない。
		50～59 歳	米国の畜産業界の体質への不信任感、“牛肉売らんかな”的な米行政代表者のコメント
			食に対して日本人とアメリカ人では感覚が違う。できることなら日本人を米国に派遣して、日本用の肉は日本人に解体してもらったのがベストと思います。
		60～69 歳	私は店頭表示で買わないが加工食品が恐ろしい 政治的なはからいで、安全が守られないのではないかという不安がある。

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス）について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=26 人）

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務 経験者	男性	40～49 歳	ノロウイルス食中毒は感染症予防や公衆衛生的な見地に立って、下水道整備や処理施設での不活性化処理をすべきなのに、媒介する二枚貝等の生食や人→人二次感染ばかりがさげばれている。増えるのは、人の腸→下水→海。下水でシャットアウト等。
		50～59 歳	生物の進化の中で、極めて有害な生物が発生するおそれや、戦争等の生物兵器。
			事業者の衛生モラル欠如
	女性	20～29 歳	地球温暖化の中で、過去の眠っていたウイルスや抗生物質の耐性菌や突然変異の菌などが現れるのではないか。
			子どもに対して、特にだが、大人が集団給食・生活上で身を守ることの大切さを教えているか。たとえば手洗いの必要性や腐敗したものを見分ける等わかっているかが疑問。
		50～59 歳	特に家庭内調理においてこれからの季節十分な加熱調理をするよう自身が気をつけるようにする。
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	知識不足から、発生させてしまう場合がある。
	女性	50～59 歳	発見されてからの対策になると思うので不安。
	女性	50～59 歳	新種のウイルスや既存のウイルスの変異など
医療・教育職 経験者	男性	50～59 歳	薬剤耐性菌など治療の難しいものが出現する可能性。コントロールし難い点。
	女性	40～49 歳	有害微生物は、目に見えず例えばワクチン等開発されても、又形を変えた微生物が発生するので不安。
			飲食物取扱ひ者の衛生教育の不足を考えて。
		60～69 歳	自分自身、生卵でサルモネラ菌食中毒になった。
その他消費者	女性	40～49 歳	情報不足・知る機会が制限されている
		50～59 歳	海外での感染情報により不安を感じる
		60～69 歳	新しい型の出現に対して不安

職務経験	性別	年齢	回答
一般		30～39 歳	①次々と形を変えて生存していくため②生物兵器のイメージなど健康に及ぼす影響が大きい
			有害微生物については原因がわからないものも多く、強い不安を感じる。また、新種が生まれることもあり、とても不安。
		40～49 歳	食中毒等、業者の管理に疑問がある。
			時代と共に新興性のものが出現し、それに対する対応が追いつかないのではないかと思うから。
			細菌、ウィルスなどとの共生についての情報が無い。
			見て判断できない事が一番不安
		60～69 歳	最近はわりと細菌やウィルスに関して嚴重だから

(9) その他について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=31 人）

職務経験	性別	年齢	問 2-9 回答	回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	輸出国に対する政府の対応	国と国の力関係を食品安全（国民全体の）に持ち込まないでほしい。
		40～49 歳	放射能被曝	日常生活では関係ないが、演習場での米軍等による劣化ウラン弾の使用時により日本にありながら治外法権となっているので
			アレルギー物質（そば）	表示の規制が不十分であることに加え、一般に食物アレルギーの危険性が認識されていないことから、意図しない摂取の可能性がある。
			飲料水（水道水）	水源の環境汚染 有害微生物・化学物質の混入 塩素、トリハロメタン、フッ素 etc 水槽の衛生管理
		60～69 歳	食品全般について	一般的にいえる事であるが、一般国民は何か事故が起きた時点で、マスコミを通じ情報を得るのが、ほとんどである。今迄のマスコミ報道を見れば、国民の不安を助長する様な報道の仕方がほとんどであるように思われる。それ故に国には、本当の意味での安全広報が望まれる。
			高カロリー（&）高脂肪加工食品	インスタント食品を含め、高カロリー、高脂肪食品の成分表示が義務付けられてなく、かつ不透明
			輸入食品	現実には不合格品が多い。
	女性	20～29 歳	自然動物を食用にすること。	近年、熊・いのしし等を駆除し食用にするケース、と畜場法に該当しないため、その安全が確保されていない。
			食の選択に必要な知識の普及ができていないことが不安。	大人・子供とわず、正確な情報供給とその活かし方を教えるべき
			農薬の散布方法	一部のマスコミ報道（週刊アサヒ）による、秋田の自殺率と有機リン系農薬の散布方法との因果関係
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	情報が無い食品について（加工品などで形態が変化したもの、又、表示が無いもの）	自分たちで、安全性をコントロールできない
医療・教育職 経験者	男性	50～59 歳	家庭や地域に対する衛生教育と食育の不足	カンピロバクターやノロウィルス食中毒の発生状況や個々人の衛生的ふるまい（手洗い、フキン、雑菌の衛生管理）を見ると。また学生の食生活状況（食に対するこだわりなど）を聞くと、家庭や地域における衛生教育や食育が極端に不足しているとうかがえる。
		60～69 歳	発ガン物質など 汚染物質、家畜用抗生物質、食品添加物、農薬、BSE、有害微生物の複合汚染	情報の提供・公開 食の安全性に関する科学的データがほとんどなく、規格基準や表示が不十分。

職務経験	性別	年齢	問 2-9 回答	回答
その他消費者 一般	女性	70 歳以上	富岩運河のダイオキシン処理について	富山市に JR 富山駅裏と岩瀬海岸を結ぶ運河がある。数年前、複数の企業のたれ流しで、ダイオキシンが全国にも例を見ない高濃度の蓄積が発覚し、その後県で対策委員会が発足したが遅々として進行せず、今だに除去作業は本格的に始まっていないと聞く。外見的には公園美化は進行している。過日、県議会で、ある議員の運河に釣場の設置が提案され、啞然とした。キャッチアンドリリースを原則とするのか、よくわからないが、ダイオキシン含有量の多い釣魚を食べる人がいると思うと、不安を通り越して怒りすら覚える。ダイオキシンの怖さを知らない訳ではないと思うが、余りの無知にダイオキシン以上の恐怖を覚えた。(この地方では大物が釣れると魚拓をとったり、さしみにして知人友人に配る人が多いと聞く)
		30～39 歳	ダイエットフード	最近、ダイエットフードを用いたダイエットクッキーなどが売られているが、「体に良い」とは根本的に思えない。胃腸に悪そうだし。しかし「体に良い」ニュアンスで宣伝が加剰にされている気がして、不安を覚える。
			アレルギーとなる食品	アトピーが食品由来であれば、解明できていない不安
		70 歳以上	販売に関する衛生面(取扱いの)の指導が十分でない	加熱不可の食品の取扱いに関して指導、監督が十分でない(殆ど全ての販売に関して教育がなされていない)
	女性	20～29 歳	輸入養殖フグのホルマリン投与について。	国内での規制とフグの規制のちがいがから、輸入されたものには当り前にホルマリン消毒がされていて大変不安に感じる。
			包装、(パック等)ファーストフード等	アルミニウム等が食品にとけこむ 食品表示が確かでない、何を使っているかわからない
		30～39 歳	アレルギーとなる食品について	アレルギー体質の人は、その食品を摂取しただけで、呼吸困難やじんましんが出る事があります。少量でも発作が起きる事がある為、使用されている食品や添加物すべては、微量でも明記する事を義務化してほしいです。
			食の安全性に関する情報の正確さについての不安	色々な情報が氾濫していて、その取捨選択に戸惑うことがあるから。
		40～49 歳	全てにおいて、60～70 年後にどのようなかたちで、人間の体に影響を与えるかが、心配です。	今、生まれた子供達が、自然な物といっても食べる量がそれぞれ違うし、体質や環境においても、50 年後又は、年老いた時、料理をしなくても簡単に口に入れられるものがたくさんあるこの世で、健康的な生活をしていけるのが疑問です。食品そのものが安全でも、今の大人にも「食育」がかけられている為、その大人に育てられた子供達は、さらに食事の大切さを知らなすぎる。
			トランス脂肪酸(マーガリン、ショートニング)	ドイツでは食物としては使ってはいけない、アメリカでは小学校の給食で使ってはいけないという法律がある、と聞きました(マーガリンを)。日本での対応はどうなっているのでしょうか？企業を守る前に、まず消費者の安全を大事にしてほしい。消費者、つまりは国民の安全があってこそその企業であり、国の未来につながると思います。
			輸入食品	先日機会があって「一口サイズチーズケーキ」の原材料の産地を調べてみたところ、チーズ→ニュージーランド、でんぷん→オーストラリア、乾燥卵白→ベルギー、ホエイパウダー→タイなどなど小さな食品ひとつに世界規模で調達した材料が入っていることがわかりました。輸入品がよくない、というわけではありませんが、トレーサビリティを困難にするこのような食品作りが今後ますます進むのかと思うと不安を感じます。
		50～59 歳	医薬部外品	経口経皮で習慣的に体内に入っているが「危害要因」であることの認知度が低い
		60～69 歳	水の汚染	土壌汚染により、私達の飲み水が汚れ出している。
			養殖魚 輸入野菜	えさに混入されている抗生物質、産地の汚染状態、農薬・添加物につき大きな不安がある。
			①インスタント食品 ②冷凍食品 ①②の増加 ③しゃく力の低下	食育を親も子も真剣にとりくんできちんとした食事のあり方を考えなおす必要な時代がきていると思う。
			食物アレルギー	子供たちのアレルギーが多いことの一つに外国産の野菜、くだもののポストハーベストがあるのではないかと不安。

③ 当委員会のホームページ

問 10 当委員会のホームページについて、改善すべき点など御意見があれば、回答欄にできる限り具体的に記入してください。

(1) 内容についての意見 全体について

(回答者数=43 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	「食育」についてももう少し①教える側②資料としての 2 点を強化してほしい。 資料 (食品に含まれるイソフラボン量等、栄養成分表に載っていない栄養成分についての資料等) を添付してもらえれば便利でありがたい。
		40～49 歳	過去の情報をもう少しのせて欲しい (モニター会議や過去の委員会審議資料等)
		50～59 歳	1、食品安全委員会が発した通知類のみならず、関連も含めて、厚労省、農水関係通知を集積する 2、食品安全基本法は常に基本になるため、逐条解説を常設する。
		60～69 歳	先進国及び中国、韓国などの食品安全を守る為の法律と施策、各国の対応すべき問題点は何か情報を発信して欲しい。(一国だけでは食の安全は守れないと思う)
			情報の質を重視し、必要に応じて具体的説明を加えて欲しい。
			1.食品の安全と生産技術に関する国の機関と専門家の紹介をして欲しい 2.食品汚染と安全の検査機関 (国、国の指定、地方自治体、民間法人) を紹介して欲しい 3.品種の検査 (例えば米の銘柄) も守備範囲として欲しい
	女性	70 歳以上	中長期的なリスクアセスメントプラン。即ち、現在行われていることの情報に加え、今後検討を考えているリスク情報。
		30～39 歳	分野が多岐にわたるため、すべてについて散漫になっているような感じを受ける。
			情報の内で緊急性及びみんなに知ってほしい事を強調してほしいと思います。尚、食育に関しては今後も続けてほしいです。
			なんとなく、とっつきにくい印象。(むずかしいイメージ)言葉がむずかしい。もっと易しく、小学生(高学年)でもある程度理解できるようにした方がよい。
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	もう少し一般生活者向けに分かりやすくして欲しい。正確な情報が盛られているのは分かるが、得たい情報にたどりつく前にへきえきしてしまう (関心のある者ですら)。まずはポイント・要点をイラスト・カラーなども交えてトップページの方にもってきて、それ以上の情報を求める者にはそこから進めるようにしては？
			①文字が多く、ホームページに「楽しさ」が感じられません。情報量も多く、情報のタイミングもよいのですから、もう少しゆとりが欲しいです。②活字をもう少し大きくして頂けたら・・・と思います。
			①文字が多く、ホームページに「楽しさ」が感じられません。情報量も多く、情報のタイミングもよいのですから、もう少しゆとりが欲しいです。②活字をもう少し大きくして頂けたら・・・と思います。
		50～59 歳	実験データ (細菌の死滅温度・時間など) を一覧などでわかりやすく載せてほしい。
	女性	30～39 歳	食品の表示 (食品衛生法、JAS 法、健康増進法、景表法など) に関する情報。特に健康食品や産地表示・添加物表示など規格と違反情報などを掲載してほしい
		40～49 歳	食品安全への意識付けは子供への教育として重要。「キッズボックス」を充実させるべき。
		60～69 歳	例えば農薬専門調査会総合評価第二部会のページ等を見ましても、審議・検討される薬剤は分かるもののただそれだけ。企業のデータの財産的所有権が邪魔をして発表出来ない点は理解するが、目次的な現在の姿から少しでも内容のわかるものにならないか。従来の型では余計な心配をするだけに終る。いずれ企業は安全性評価に係る「要約」を出すのであるから、少しでも内容の開示をして欲しい。
			BSE 問題について米国ではなくもっと国民のことを考えた報道をして欲しい。
			やや「おかたい」イメージがあります。子供のいる私は、Q&A で (ゲーム方式等) 「親子で学べる」という様なコーナーがあればよいと思います (キッズボックスの充実を望みます)。
		50～59 歳	要望ですが、これからもリスク評価結果の解説にある「ポイント」スライド形式にまとめたものを広い分野で適時に提示していただくと、長文を読む時間が省け助かります。
医療・教育職 経験者	男性	60～69 歳	知りたい内容に関して非公開が多い。
		40～49 歳	食品安全モニター会議の内容および会議で出た要望や意見なども掲載してほしい。
	女性	40～49 歳	ホームページにもう少し詳しく食安のことについて説明してほしい。
			専門用語をどこかに説明して欲しい。文字をもう少し大きく図などをわかりやすくたくさん取り入れてほしい (レイアウトがそっけない感じ)

職務経験	性別	年齢	意見
		50～59 歳	食品安全委員会が発足した経緯・何をするのかを TOP ページで紹介するといい。文字ばかりでなく、最新情報を絵を用いて紹介するなどして、さらに詳しく知りたいという気持ちを起こさせるように工夫すると思う。 わかりやすい HP だと思います。国民生活センターの HP を常時活用していますが国センの HP のように他機関へのリンクが多数あると更にわかりやすく活用できると思います。
その他消費者 一般	男性	30～39 歳	行政の思わくに左右されない公平な情報提供を望む。
		40～49 歳	ISO22000、HACCP の情報を多くとり上げてもらいたい。 もっと専門的な事についての説明があればいいと思います。
		60～69 歳	概して良く出来ている。多方面にわたり詳しく解説されている。希望として 1.専門委員の名簿、所属、研究実績、学位等も公開して欲しい。2.食品安全モニターの随時意見にも注目し、関係機関の内容ある回答を引き出して欲しい。回答を見ても、なおざりで実が入っていない。 リスク評価した案件が、どうリスクマネジメントされようとしたか見るために、「リンク集」に農水省・厚労省へ直ちに飛べる画面をはってほしい。
			記述は正確、丁寧を狙っているのですが、読む側にとっては、とても時間がかかります
		70 歳以上	
	女性	20～29 歳	もう少し予備知識のない消費者でも楽しく理解ができるページにして欲しい。
		30～39 歳	お役所用語がタイトル見出しに多いと思う。Q&A は、知りたい項目が市民の言葉で書かれているのでよいと思う。 子供向けに簡単にどんな機関なのかを分かりやすく説明してあるページがあるといいと思います。 子供向けの食育、若い母親向けの食育の項目としていろんな日本食の伝統料理や豆知識などのせて楽しむ部分もあれば嬉しいです。
			「一般の方向けの解説をお探しの方」には、様々な情報がわかりやすく整理されていて良いと思います。この部分をさらに進化させて、子供や高齢者でも、食品安全委員会がどのような活動をしているのか、「食の安全」とはどのようなことなのかをイラスト入りでわかるように説明した、「初心者マーク」のページをつくってはどうか。よりわかりやすい情報が、消費者のアクセス数を増やし、それがリスクコミュニケーションにつながっていくと思います。「キッズボックス」では、子供向けのリーフレットを PDF 化しただけであり、これでは、子供の興味をそそるコンテンツとしては不十分のように思います。 書類をさらに詳しく解説したようなページもあるとよいと思う。かたくて興味を持ちにくい内容だと思う。 子供向けを充実して欲しい。クイズ等楽しみを加える。
		50～59 歳	限られた人、食の安全に関心がある人のみではなく、マスメディアの情報に踊らされてしまう人達にも、クリックさせるような糸口をつくってほしい。地方自治体との連携をもち、公報誌等で人々の意識を高めてほしい。 キッズマガジンはわかりやすく良いと思います。この形式でシルバー向けのものがあると良いのでは。大きな文字でわかりやすい内容、図解、絵等、楽しく実行しやすいページがあればよいと思う。
			簡単な内容を知らせるものと、もっとくわしく知りたい人の為に細かい内容を載せるような二段階表示にしてもらいたい。 はじめてみました。内容が内容だけに堅苦しい感がありますが、表現方法をもう少し工夫してくだされば…。内容は最新情報や解説ありでワクワクしました。
		60～69 歳	

(2) 内容についての意見 分かりやすさ

(回答者数=38 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	専門調査会の内容をもっと分かり易く見たい。
		40～49 歳	キーワード検索時の結果が役所言葉が多すぎ一般的ではない。平易な言葉を研究されたい。
			一般の国民にわかりやすくすることが重要だと思います。DVD「気になるメチル水銀」のようなわかりやすい解説が望ましい。
			科学的にリスク評価を行う機関であるため、どうしても一般消費者にわかりにくい語句を使ったり、論理的な文章になっている。難しい問題だが、よりよいリスクコミュニケーションのために改善する努力は必要。
			平成 18 年度より、見ているので、以前の事は分かりません。現行のままで良いと思います。但し、一般の人が、見てもわかるようにした方が良いと思う。
		50～59 歳	会合の議事録の掲載が多く、一般消費者には読み難いです。食品安全委員会の活動内容や、発信したい内容を簡略、平易な言葉で伝え、一般消費者が開きやすいホームページにした方がよいと考えます。
			食品安全とは、多くの方々にわかるようにするべきである。むずかしい、わからないは、意味がないです。わかりやすく、見やすいことが第一条件です。
		60～69 歳	ホームページについては、専門的な記述が多いため一般消費者には理解しづらい面があります。希望としては、イラスト入で説明できたら最高です。(少しやさしい記述)
	女性	70 歳以上	情報はわかりやすく、早く正確にしてほしい。
		70 歳以上	専門的な知識の無い人でも良くわかる様な内容にして欲しい。特に用語の説明を丁寧に記してほしい。
食品関係研究 職経験者	女性	30～39 歳	とても見やすく、わかりやすい。是非、一般の方(全く興味のない方)にも見てもらいたい。“食品安全委員会”をもっと浸透させるべきだと思います。
		50～59 歳	わかりやすい言葉で具体的に表現してあれば、一般の受信者にも見やすくなるのではないかと思う
医療・教育職 経験者	女性	30～39 歳	むずかしい言葉でゴチャゴチャ書くのではなく、わかりやすい言葉で簡潔に述べてほしい。
		30～39 歳	わかりやすく、具体的に簡素に書いてほしい
		60～69 歳	私は十分にホームページを操作する技術がありませんので、時に子供に依頼して拝見して居ります。分かりやすく、見やすく、有益に拝見し、今後の参考にします。
		30～39 歳	食品安全モニターをさせていただいてから、用語についていわゆる「役所言葉」的な漢字熟語の羅列に慣れたが、一般的な知識をもつレベルの私の家族等は用語自体にわかりやすい解説があるようだ。
その他消費者 一般	男性	50～59 歳	高校生などに教える際にすぐ使える教材的要素。マンガ・イラストなどがよく理解するのに役立つので、それらを含めてプリントアウトしたら、すぐ教材に使えるようなもの。
		60～69 歳	内容をもう少し解り易くしていただきたいと思います
		30～39 歳	常に“分かりやすく”を念頭に作成していただくことを希望します。
		60～69 歳	最近ではインターネットのホームページは、あらゆる所で使われていますが、ホームページが長すぎて分かりにくいので、(もう少し) わかりやすくしてほしいです。
	女性	60～69 歳	内容が豊富な分、難しすぎる。易しくするには大変と思うが、出来るだけ、誰でも理解出来る様に。
		20～29 歳	子ども達でもわかるような簡単に説明したものを別に載せてほしい。
		30～39 歳	活字の列記が多く、初めてモニターになった人には近寄り難い雰囲気を感じました。内容を一般の人にもわかりやすく説明しているサイトへリンクできるような工夫をしていただけると理解しやすくなると思います。
			キッズ向けのところは、もう少しわかりやすくしたほうがよいのでは。対象年齢が少し上なんですか？(キッズというと小学年くらいかなと思いました)
			キッズボックスは、大変見やすくわかりやすいです。印刷して子供にも見せています。学校でも配布したり、生活科の授業で使えるのではないのでしょうか。
			HP を閲覧する人(対象)は一般～専門家と幅広い。その為、一般の人でもわかりやすい表現を希望する。
		30～39 歳	食品安全モニターに応募するにあたって初めてホームページにアクセスしたが、そうでない限り、アクセスしなかったと思うし、もし、自分がモニターを終えればアクセスしないと思う。まず内容が難しいし、見にくい。なんの専門調査かも分かりにくいし、それが必要なものかもわからない。私達が見る意味が見出せない。

職務経験	性別	年齢	意見
			極力、ポイントを絞って解りやすく、誰でも短い時間で、気軽にのぞいてみたい」と思えるような親しみのもてるホームページになれば良いと思います。
		40～49 歳	キッズ用の Q&A は、おとなが見ても難しいことをわかりやすく解説して役に立っています。できればもっと多くの項目について Q&A をつくっていただきたいと思います。
			食の安全に関する情報が手軽に入手できる点はとてもよいと思いますが、一般の消費者や子供達には、表現が難しく、敷居が高い気がします。トップページから一般向けのわかりやすいページに行くことが出来れば、もっと多くの人が見てくれると思います。(現在の一般の方向けの解説のトップページはわかりにくいです。)
			素人でもわかりやすく興味をもてる「トップページ」にしたら良いと思う。
			トップページから知りたい項目を探すことは簡単になったが、そこから先を見ていくと、専門的知識がないと難しいように感じられる。(「一般の方向けの解説」は判りやすいので、そちらを見れば良いのですが)
			「内容のわかりやすさ」を充実させてほしいです。詳しく知りたい時は、現状でもいいですが、特に分野別情報などで、現況の概略を知りたい時などには、ごく一般の消費者レベルでも平易に短時間で理解しやすいようなまとめのページがあればいいなと思いました。
		50～59 歳	「トピックス」は誰もが関心のあるところ。現状では、言おうとしている結論が分りにくく、全ての資料を見て判断しなければいけない。資料提出の前に、簡単な概況説明と見解が欲しい。その後、詳細についての資料を見る方が理解しやすい。
			一般の消費者が見てわかりやすい HP にしていただきたいです。私はモニターになる前から食に興味がありましたが、この HP でたくさんのことを教えていただきました。モニターとは言え、専門的なことはわかっていなかったのもとても勉強になり、それを家族や身近な人へ伝えることもでき、本を読むよりリアルタイムで情報を得ることができました。一人でも多くの人は HP を見るのが楽しみになるように、ご尽力下さい。
			一般向けに、情報をわかりやすく人に伝えやすくした部分をもっと掲載してほしい。
		60～69 歳	特別な資格など無い一般消費者にも解るように書いてほしい。そして、より多くの国民に見てもらえるように訴えるべきです。
			データの羅列ではなくもう少しメリハリのある表現で出してもらいたい 国民の知りたいことをもう少しわかりやすい表し方にしてほしい

(3) 情報量についての意見 情報発信量

(回答者数=11 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	50～59 歳	極めて多くのデータ・記録であるが、短時間に要点を見たい時には、不便。行政面 HP (農水、厚労、動検) は必ず毎日見る (見たい) が安全委 HP は、よっぽどのニーズを感じないと見ない。残念ですが…。
	女性	40～49 歳	情報を発信しよう、知らせたい、との思いが伝わってくる HP です。とても良いのですが、そのため情報過多で消化不良ギミかな、と思います。索探しやすくしていただけたら…
			情報量がとても多く専門家・学生にとっては役に立つ。又、情報の信頼性という点からもちへん参考になる。個人的には PDF 形式文書が読みづらい。
			捜したい項目があってもあまりの多さに困ることがある。専門知識が多く一般の人には分かりにくい事も多い。
食品関係研究 職経験者	女性	50～59 歳	モニターを引き受けるまでホームページを見た事はありませんでした。今回見て、情報の多さには感心しましたが、全部必要な人はそう多くはないと思われます。専門的な事は下欄、一般向けなことは上欄にしてもっと親しみやすい (見てみようかと思わせる) 画面にして欲しいと思います。
			情報量の多さと充実 (内容の) がすごいです。要約版があったら、情報が頭の中に収まると思っています。
医療・教育職 経験者	女性	60～69 歳	情報量・内容が多く全て理解するのは難しいので解説 (書) のようなものが欲しい。
その他消費者 一般	男性	20～29 歳	テキスト量が多く、読むのに時間がかかる pdf ファイルよりはやはり html で読む方が容易である
		70 歳以上	①アンケート調査の結果、食品安全モニターからの報告を一覧にする場合 2 年分とし、あまり多くの項目を一表にしない方が見易い(それ以前のデータはリンクを張っておく) ②更新情報の提供

職務経験	性別	年齢	意見
	女性	20～29 歳	情報量は多くてよいのですが、わかりやすくした見やすいページが別にあり、さらに詳しく知りたい人用のページもあり、みたいな形はとれないものでしょうか？
		40～49 歳	議事録などが何ページにもわたってる場合があり少し見づらい気もする。

(4) 情報量についての意見 情報の探しやすさ

(回答者数=14 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	情報のさがしやすさは、なれば以前と変わらなくなると思う。
		40～49 歳	リニューアルによりトップ画面がスッキリし見やすくなった。メニューも探しやすくなった。
	女性	20～29 歳	知りたい情報について、(大豆イソフラボン、汚染物質などについて検索したことがあります) HP で検索すると、だいたい会合の結果や試験結果などが PDF で出てくる為、どこがヒットしてその文献にいたったのかが分からない。議事録のようなものよりも、その情報を知りたい単語についてもっと簡潔に現状など調べられないか。用語集よりも詳しく、さらにリンク集などがそれぞれにあると良い。(新聞各社の HP のように記載されると読みやすい)「法令等」の部分では、食品衛生法、薬事法、健康増進法など、食に関する幅広い法令類へのリンクも設置してほしい。
		30～39 歳	項目のタイトルが長すぎて分かりにくい。必要な所が探しにくいので、キーワード毎に整理してあると良い。
			検索方法が煩雑でわかりにくいので、インターネットの検索エンジンのようにひとつの言葉からでも探せるようにしたらよいのではないかと思います。
食品関係研究 職経験者	男性	40～49 歳	トップページに、見出し的なものでわかりやすい(素人でも興味をひくような)情報があると良い(興味のあるところにすぐ行けるような)。
医療・教育職 経験者	男性	40～49 歳	情報が特に探しやすく、いいと思います。改善すべき点は全くありません。
	女性	40～49 歳	ホームページを開いても、どこを見れば良いかわからない。少し専門的すぎる。
その他消費者 一般	男性	20～29 歳	検索をもっとしやすくしてほしい。厚生労働省の HP もそうだが探しづらさでは 1,2 を争う
		40～49 歳	検索のしやすさを再検討する。
	女性	20～29 歳	配布資料がリンクされているが、それらの書類の中で、どの資料を見ればほしい情報があるか分かりづらい。(結論がどこにあるのか)
		40～49 歳	よく整理されており、情報を見つけやすい点は非常に高く評価していますが、Web コンテンツにもっと POP な色やデザインを加えると一般的に親しみ易く、更にアクセス数(興味を持つ人)が増えると思います。
			何か調べたいときには、探しやすいようにできています。しかし、一見、文字ばかりで、「読みたい」「調べてみたい」という気持ちが出てくることはありません。キッズページには、イラスト、図表も多く、「見たい」という気持ちになるのですが… 情報がとても探しやすくなった。

(5) 情報量についての意見 掲載方法

(回答者数=13人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	40～49歳	RSS 配信をすべきだと思います。説明会、セミナー等の情報を動画配信すべき。国立環境研究所のセミナー配信はとてもよいです。「気になるメチル水銀」も動画配信すべき。(DVD 送ってもらうのは申し訳ない気がする)
		60～69歳	経費がかさむと思いますが、もっと一般消費が楽しめる頁(少なくとも入口は)に今後改良されたほうが良いように思います。例えば、動く画面、委員長談話などはビデオで掲載する等もトライされてはどうかと思います。
	女性	30～39歳	うちのパソコンでも PDF が見られる様に改善して下さい。
		40～49歳	PC の環境が原因と思われるが、PDF が開かないときがあるので、アップデートの方法をより工夫してほしいと思っています。
		50～59歳	ダウンロードへの情報が少なく、バージョンの関係(?)などで断念することがままある。要約のしすぎのせいか、意味が十分理解できない(認可が却下なのかそれともデータ不十分で差戻しか)。利用者の立場に立つことが大切(全般の基調)。もちろんおねえことなく淡々と作成して下さいが良いのですが
医療・教育職 経験者	女性	50～59歳	PDF は、読むのに時間がかかるので、クリックしたらすぐ要旨がわかり、さらに詳しく知りたい時だけ PDF を見るようにできるよう工夫してほしい。
その他消費者 一般	男性	50～59歳	7/3 の委員長談話の後に、例えば分野別情報等にリンクさせ、成果をアピールし、できれば図示化を図る。内閣府との関係で言えば食品安全関連ではなく直接「食品安全委員会」と表示し、クリックできるよう。
		60～69歳	PDF ファイルが多いが、高齢者にとっては分からない方も多いと思う。ダウンロードの仕方、安全性、利用方法などガイドするページがあった方が良いと思う。
			委員会、調査会の結果概要と個人意見は区別して掲載が必要。
	女性	20～29歳	会議の写真、映像をリンク先に載せて下さい。動画であると理解しやすいため。
			委員会の内容やモニターの報告が PDF ファイルで掲載されているがとても見にくい。ページごとに区切られていたり、白黒のみといった文字だったりといろいろ改善できそうところは多いと思う。
		30～39歳	私のパソコン環境が悪すぎるのか、PDF ファイルが見られません。もっと軽くして誰でも HP を開けば見られるようになればうれしいのですが… PDF 形式が多く、せっかく良い内容の物をコピーペーストして貼りつけるのが困難です。ただ内容的には良いものが多く、この HP を知って良かったと感じています。

(6) 見やすさについての意見 全体

(回答者数=10人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	50～59歳	大変見やすいです。アクセスも、食品安全委員会もすぐ出て来て見えています。 以前の方がなれていて見やすかった。
	女性	50～59歳	文章の羅列が多く、読みにくい。
食品関係研究 職経験者	男性	30～39歳	私自身は、食品の検査会社に勤務しているので、見ているが、妻に奨めても、字が多く見る気にならないとのことでした。幅広い年齢層に見てもらうには、もっと工夫が必要と思われる。
医療・教育職 経験者	女性	50～59歳	見やすく読みやすい標題や表現になっていると良いですね。文字の大きさ、色も変化があれば目をひきやすいと思います。
その他消費者 一般	男性	30～39歳	やや無機的な感じがするので、もう少し見た目にソフトな感じにした方が良いのでは。また、字が全般的に小さく、特に強調したい事項などがわかりにくい。
	女性	20～29歳	以前は情報が細かく、知りたい情報を見つけるまでに時間がかかってしまいましたが、リニューアルされて、項目ごとの表示やふり分けで、とてもわかりやすくなりました。今後はトピックスをもっと増やしていただきたいです。
		30～39歳	とても見やすく良いと思います。専門用語が多いため固い雰囲気になるのはしょうがないのかな?とも思います。

職務経験	性別	年齢	意見
		40～49歳	文字の大きさを変えたり、イラストを使うなど見やすくする工夫が必要だと思います。「食品安全総合情報システム」検索のしかたが複雑で、わかりづらいと思います。
		50～59歳	「キッズボックス」を理解できない子供たちもいるのですべての子供たちが理解できる「表現(文字・絵文字・イラスト)」にしていきたい。「うす青」の文字は弱視者、高齢者には大変読みにくいので文字の色について検討願いたい。

(7) 見やすさについての意見 文字の大きさ

(回答者数=9人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	40～49歳	パッと見て文字が多い。文字が小さいので見づらい。重複が多い。例えば「English page」2ヶ所有り。
			トピックス、分野別情報、新着情報などの各ポータルページは、小さい文字がたくさん並んでいて検索性が良くないと感じます。重複する語などを極力削って、キーワードだけに絞るとかアイコン化するなどの工夫が有効だと思います。正式な標題などは遷移先のページに書いてあれば充分です。
	女性	30～39歳	HPは見やすさが一番だと思っています。画面が出たとたん、まず文字が小さい、わかりづらいという印象でした。「調べたい」「知りたい」という意欲があるけれど、理解しづらい。「キッズ」のところで画面が出てこないということがありました。ちょっと見ようという気をおこさせないです。
			全体的に字が小さめで、すべて同じ大きさなので、メリハリがない。新しい情報には、何か目印になるものがあると良いかと思う。題目が長すぎるものがある。
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	①情報を1画面に多く出す為に文字が小さくなっています。厚生労働省のHPの様にシートを選択する様にしたらどうかと思います。とにかく、字が小さく文字数が多いです。
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	文字が小さいので高齢者が読みづらいのでは？
その他消費者 一般	女性	20～29歳	字が小さくて少し、見にくいところがありました。
		40～49歳	時々活用させていただいており、大変役に立っています。同じ内容の時、例えば「大豆イソフラボン」など、農水省のものも拝見しましたが、字も大きく見やすく具体的だったように思います。
		50～59歳	文字が小さくて見にくい。全体的に「関係者向」という印象。一般的に広く見てほしいという姿勢は感じられない。むしろ拒絶的な印象。(そういう主旨かもしれないので、それが悪いというのではない)

(8) 見やすさについての意見 デザイン構成レイアウト

(回答者数=22人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	40～49歳	もう少しイラスト、図示を多くし、視覚に訴える様に工夫してほしい。
		60～69歳	重要事項、最新情報を点滅表示させると見つけやすい、探しやすいと思います。 情報量が多ければよいだけではなく、特注事項等絵文字等で眼につくよう強弱必要。
	女性	40～49歳	もう少しわかりやすい区切りや、見出しがあれば…と思います。
			伝える内容をもっと少し挿絵等を入れてわかりやすく図解してほしい。若い人も見るように図解をしてはどうでしょうか？文字が多いと見る気力を失います。
			各項目ごとのレイアウトを少し工夫して、もう少し読み易くしてもらいたい。ただ打ち込まれているといった感じで、読むのに(読み続けるのに)根性がある。ただ会議報告といった内容が内容だけに、仕方ないかもしれないが。
			情報量も多く、信頼できるホームページだと思っていますが、全体的に固く、暗っぽく、楽しくありません。カラー化する、イラストや動きを入れる等、もう少し工夫をして、多くの人が見たいようなホームページになることを望みます。
		50～59歳	リニューアル前のことは分かりませんが、もう少しレイアウトや構成等、見たいな様に工夫して頂けたら嬉しいのですが？図、絵等のカラーも利用されては如何でしょうか。

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係研究 職経験者	男性	30～39歳	写真などもう少し多くのせると、興味をさらにもって頂けると思います。
医療・教育職 経験者	男性	40～49歳	ホームページのデザイン性やマスコットのシンボル等を作り、もっと市民に親しめるものを作成(考案)するとよいと思います。
	女性	20～29歳	もう少し一般の人にも興味を持ってもらえる様なキャラクターの表示や写真、絵があっても良いと思う。
		40～49歳	色調やレイアウトが単調。どの項目も同じ印象。食品安全委員会として「ここはみてほしい！」というインパクトのあるものを強調してもよいと思う。
その他消費者 一般	女性	20～29歳	画像が少なく少々かたくなる。画像をふやしたり、色も少しカラフルな感じにした方がいい。 漢字が多く、見にくい印象がある。イラストや写真などがあってもよい。(子どもが宿題で調べる際に利用できるレベル)
		30～39歳	一般の人が何か知りたいと思っても、トップページを見た瞬間、わかりにくいという印象をあたえてしまいそうな気がします。トピックス面をもっとわかりやすい位置に表示してある方がよいのではないのでしょうか。 全体のレイアウトが均一すぎて、メリハリがないように感じられる。緊急的な情報やマスコミで取り上げられるような旬の情報は、大きめに、受信者にわかりやすい表示にして欲しい。
		40～49歳	文章ばかりでなく、読まなくとも絵でわかりやすく表現できたら楽しく読めそうで、目もつかれないと思う。(キッズ向きは、たいへんよかった。大人も絵が入ると読みやすい。)
			字の数を減らす 要点まとめのポスター風にするとうまい
			HPのトップページは配色等で非常にあっさりしているので、「食」に関する機関らしく、「安心して食べよう」と感じられる楽しさが欲しい。
		50～59歳	少しイラストが入っていてもよいのではないのでしょうか。「キッズページ」は夏休みに子どもたちも目にする事があると思うのでトップページにもイラスト等あれば探しやすいのでは？と思います。
		60～69歳	少し写真、絵的なものがあったら具体的に近づけるような気もいたします。
		60～69歳	子どもが興味を持つようにイラスト入りでわかりやすい表現のものがあれば良いと思う。

(9) その他 情報掲載のタイミング

(回答者数=5人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	40～49歳	情報のアップデートがおそい。各メディアで取り上げられるアイテムとタイムラグがありすぎる。海外の情報ともリンクできれば良いのだが、だめならせめて、そのデータの転載などを積極的に行ってはどうか？
	女性	20～29歳	会議の資料は即日更新されるが、議事録のupが遅い。地方に居ると、マスコミしか情報源がないため、正しい情報が遅れがち。
医療・教育職 経験者	男性	40～49歳	食品安全委員会の開催についての情報を、もっと早い時期にホームページにのせてほしいです。
	男性	70歳以上	情報掲載のタイミングはより早く、内容が更にわかりやすくしてほしいと思います。
その他消費者 一般	女性	60～69歳	6月の「食育月間」に合わせるかのように小学校など、また食生活改善推進委員などからの講話依頼があり、情報を得ることができ助かりました。今後タイムリーに情報提供よろしくお願いします。

(10) その他 周知方法

(回答者数=3 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	女性	40～49 歳	知名度の向上を図るべきと思います。
その他消費者 一般	女性	40～49 歳	ホームページの存在を国民に宣伝した方がよいと思う。(各百貨店やスーパーマーケット等にポスターを貼るなど) 知人に聞くと存在を知らないという人がかなりおり、しかし情報はほしいと言っております。 ホームページ拝見いたしました。委員長さんの写真ものせてほしい。モニターになって初めて、食品安全委員会が行っている事を知ることができましたが、一般の方々に、例えば「暮らしの手帖」くらいに、安全委員会がやっている事を、もっと、新聞等でも、PR してほしいですね。

(11) その他 感想その他

(回答者数=45 人)

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	特にありません。
		40～49 歳	ありません 特にありません
		50～59 歳	今のところ感じたことはありません。
			特にありません
			特にありません
			シンプルで見易い。
			パソコンの初心者なので意見を述べるまでに至っていないのが残念です。早くパソコンを上達してホームページやメールマガジンを自由に閲覧する様がんばります。
			初めて見たのでわからない
		60～69 歳	食品に関する情報源として大変便利で活用しています。
			特にありません。
		70 歳以上	現在のままで良い
	女性	70 歳以上	特になし
		20～29 歳	特になし
		30～39 歳	特になし
		40～49 歳	なし いいと思う。
		60～69 歳	余り情報を見ていませんが各リスクコミュニケーションが遠方で開催された時の概要を読んでいます。大変役立ち自分の勉強になります。リスクコミュニケーションはいつも決まった地域で開かれるので時には開催県をかえて下されば出席できると思って見えています。
食品関係研究 職経験者	男性	60～69 歳	とくにありません
	女性	30～39 歳	パソコンはあるがほとんど使わないのでわかりません。ネットも、半年に 2～3 回、用事があるって調べ物をするくらいなので、わかりません。
			前よりよくなっているのでもいいのではないかな。
			一度しか見たことがないのでまだよくわかりません。今度見てみます。
		50～59 歳	特にありません。
医療・教育職 経験者	男性	40～49 歳	特になし。
		60～69 歳	特になし
		70 歳以上	特にありません。(現在通りでよいと思います。)
	女性	60～69 歳	操作が不慣れの為とは思いますが、他所から情報を入手したもので、予備知識を得て、その上で目的の内容について、より詳細に知りたいものがつかめない。自分の不勉強と思う。

職務経験	性別	年齢	意見
			60 歳を機に、ワープロ・コンピューターと一切かかわらない生活をしようと実践している(自家用車、携帯電話も使わない)ため、設問に答えられず申し訳ございません。 ホームページなるものをはじめて見たので意見を言える立場ではないが、必要とすればこれだけの情報がいとも簡単に入手できることにショック！しかし私たちの年では新聞(マスコミ)などを經由して入るようにしてほしいと思う。 特になし
その他消費者 一般	男性	30～39 歳	これといってありません。
		40～49 歳	特になし
		50～59 歳	比較的よく出来たホームページだと思います。外部業者に発注されたと思いますが、事務局でのチェックは頻繁に行うべきです。改良してほしい部分が出てくればすぐ指摘致します。
	女性	30～39 歳	見ていないので分かりません。
			今のもので十分だと思う
			特にありません。
		40～49 歳	今のところありません
			なし
			現状維持で結構です。
			特にありません。
		50～59 歳	パソコンを始めたばかりで、満足に操作出来ずしておりますが、案件〇〇について等は、よく目にしますが、内容についても詳しく掲載されているのでしょうか。(委員会で協議した内容等も載せてほしいです。)
			今回のアンケート調査なども、eメール受信者対象にネットで回答できるようにしていただきたい。
			特になし
		60～69 歳	今年からはじめましたので特別、意見がありません。
		70 歳以上	初めてみましたのでまだよく分かりません 今後注意深くみていきます

④ 当委員会発行のメールマガジン

問 14 あなたは、当委員会発行のメールマガジンにどのような情報を望まれますか。回答欄にできる限り具体的に記入してください。

[問 11 回答・・・1：受信している 2：受信していないが、受信を検討している
3：受信するつもりはない 4：受信できる環境にない]

(1) 内容についての意見 最新のニュース・速報

(回答者数=63 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	最近の情報、ホームページよりわかり易く。	1
			食品の健康影響評価のリスク評価をタイムリーに発信してほしい。	2
		40～49 歳	「食」に関する事故や事件	1
			食品製造業にたずさわっておりますので、食品安全に関するタイムリーな知識をのせていただけると、朝礼などで活用できるのでお願いしたいです。	1
			情報の新着を連絡していただけるのはありがたいです。	1
		50～59 歳	新しい情報はすべて出していただき、受け手が自分で必要なところを活用できればいいのではないかと。もしできるなら、一般消費者向けと研究者向けとにできればいい。	2
		60～69 歳	1.各保健所での違反摘発情報と管轄内の事故情報及検疫所での輸入食品の違反摘発 2.食中毒事件録の速報 3.簡易迅速な自主検査方法の紹介	1
			食品健康影響評価の内容及び食品事故などの緊急情報が知りたい。	2
			食中毒情報等最新ニュース	2
		70 歳以上	中国からの輸入食品の安全性の情報をその都度迅速に掲載されたい。	1
	女性	20～29 歳	事故、トラブル発生時の緊急情報	1
		30～39 歳	できる限り、正確でタイムリーな情報を知りたい。	2
			食品事故の発生状況、問題になっている食品安全の問題の正確な状況、とにかくメールマガジンならではの新しく正確な情報	1
			新しい情報を正確に迅速に提供してほしい。	1
		40～49 歳	情報を一早く、わかりやすく発信してもらいたい	2
			食品安全に関係する最新情報、風評や具体性に欠ける情報の正確なデータなどによる裏づけ。	1
			食品事故などの正確な情報を早く伝えてほしい、メディアの情報が乱れ飛ぶ前に正しい情報の発信を希望します。	4
		50～59 歳	新しい情報、新しいことばの説明、内容について詳しい情報を望みます。できれば絵や図を使って欲しいです。	2
			・食品の安全性に関する事、特に緊急の情報それをわかりやすく説明した内容など。・リスクコミュニケーションの開催案内等	1
食品関係研究 職経験者	男性	50～59 歳	出来る限り生活に密着した情報を迅速に。適格でなければ、デマ情報が広がるので。	1
	女性	30～39 歳	話題の食品の事故などのニュース(詳しい)	2
			日常生活では得られない情報(新しいもの)	2
			タイムリーな情報を期待します	1
			マスコミにも出ていないような最新の情報。	1
		50～59 歳	食の情報(安全・安心情報等)の最新情報を誰が読んでも解りやすく掲載して欲しい。	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
			情報としては最新のものであること。また表示方法は、文字が多く読みづらい。(しかたがないことかもしれませんが) 自分の必要とする、興味のある情報が見つけやすいものを望みます。	1
医療・教育職経験者	男性	40～49 歳	今までの報告、告知のスピード性を向上していければ、内容は今までのもので十分かなと思います。	2
			緊急的な情報を迅速に知りたい。	2
		60～69 歳	食品事故など緊急的な情報を理解できるような発信と情報提供。	1
		70 歳以上	食品事故などの緊急的な情報	2
	女性	30～39 歳	畜産生産物やその他に関して、人間が食べて害になる様な事例が起こったらすぐに知りたい。	2
		40～49 歳	食品事故における正確で速い情報	2
			情報が氾濫する中で、少しでも不安がある食品からは遠ざかりたいので、できるだけ早く、確かな情報をいただきたい。特に子供達が食物アレルギーなのでその情報。	2
		60～69 歳	タイムリーな情報を理解しやすい形で掲載していただきたい。昨年問題になったキムチの寄生虫問題等はその後の経過が不鮮明の様な印象を持っています	1
			直近の情報を発信してくれるので緊急的な事故情報に期待している。	1
			食品の安全に関する最新情報 (BSE、鳥インフルエンザ 食品添加物 遺伝子組み換え、汚染物質等)	2
その他消費者 一般	男性	20～29 歳	情報の UP の早さ、食品安全に関する豆知識及び食品事故などの緊急的な情報について	2
	女性	20～29 歳	メールマガジンではやはりタイムリーな情報を掲載していただきたいです。また、多く寄せられた質問と回答などを掲載していただくと参考になります。	1
			食品事故に関して、起きた場合は速やかに情報を流していただきたい。さらに、起きた場所、状況、原因なども一緒に詳しく流してほしいです。	4
		30～39 歳	最新のニュース (安全性についての)	2
			夏場は特に O157 などの集団食中毒 タイムリーな情報はとても役立つと思います。	3
			食品事故など緊急な情報は、情報を入手しだい早急に発行して頂きたいです。	2
		40～49 歳	食品事故など緊急な情報について、できるだけ簡潔でわかりやすく、「消費者がどのようなことに気をつければいいのか」知らせていただきたいと希望します。詳しい情報のアクセス先 (URL 等) も知らせていただければ助かります。	2
			情報をできるだけ早く入手できること	2
			毎週発行という情報の鮮度を生かして、その時期にあった情報や緊急の情報提供を望みます。	1
			テレビなどのメディアより早く、詳しい情報を望みます。	1
			最新のニュース。またそれとは関係なく、専門委員のちょっとしたコラムなど。	2
			最新の食品安全情報と広報の方法	2
			食品事故などの緊急的な情報は、特にいち早くお知らせ頂ければ、とてもありがたいです。	2
			BSE などの緊急的な情報、健康食品の健康影響評価	2
			緊急を要する危害、危険情報	2
			食品の安全に関するタイムリーな情報	1
			・問 13 であげられている、食品安全委員会委員及び専門委員のメッセージ、食品の安全に関する豆知識、食品事故などの緊急的な情報については、大変興味があるのでこれらの項目の部分をもう少し増やして欲しい。・新聞・テレビ等で話題になっている事は、すぐ載せて欲しい	1
		50～59 歳	BSE やイソフラボンなど、その時々に応じて国民が関心を持っていることについての詳しい内容や特集の速報	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
			・タイムリー性(素速い、正確な情報、ニュースソースへのアクセス方法) ・専門バカにおちいらないように。一般の人にもわかりやすいもの。 ・HP+αの情報を期待する。	2
			食品の安全性に関する最新の情報と、それに対する行政の関わりの報告など。モニター個人の意見も聞きたい。	2
			緊急性のある内容については、職種により知りたい内容が一度に出せるファイルがあると、対応がスムーズに行くと思う。	1
			BSE 関係の新しい情報。外国での対応の仕方を具体的にいろいろな国の例をあげてほしい。	1
			食品事故などの緊急的な情報や食品安全に関する季節ごとの情報をわかりやすく見やすく載せてほしいですね。	4
			話題になっている事への速い情報	2
		60～69 歳	タイムリーな情報。国内だけでなく国外の危害情報。	2
			流通している食品について不安があった場合正確に迅速に発表して頂きたい。	4
			最新情報、委員会の結果、他では耳に入りにくいと思われる豆知識があれば…。やはり食品安全委員会でないとう入手出来ないニュースはほしいですね。今後どうなっていくのかなど。 リスク評価。	1

(2) 内容についての意見 食品安全委員会、専門委員会の審議等

(回答者数=31 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	委員会、調査会等の年間スケジュール及び進捗状況。有用 Web サイトの紹介(官民学含む)	1
			・各委員会や専門調査会の注目すべき内容の概要。・モニターの提案や質問の受付及びその内で注目される内容の紹介。	1
		40～49 歳	食品健康影響評価について取り組まれている対象物(結果のみでは不足感がある)。	1
			各専門調査会審議の進捗状況 パブリックコメントの案内	1
			「科学的」「中立公正」な知識というよりも、意図を明確に持った意見がほしいと思う。BSE の問題に関しても、アメリカと日本でスタンダードが異なることが納得できない。※アメリカ基準で本当に安全なら、日本でも同じ基準で OK ならずだし、日本基準を満たさないと危険であるなら、アメリカ国内でも日本と同等の基準とするべき。	1
		50～59 歳	配布資料だけでなく、速記録や議事録ものせて欲しい(すでに実施されていたらごめんなさい。)	1
			専門調査会の部会等に於ける議事結果の概要	1
			委員会、調査会の会合の主旨説明(何の為に?)	1
		60～69 歳	食品安全委員会の評価:勧告が具体的に厚労省、農水省の基準策定や指導監督、規制の制定にどのように反映されたか委員会の成果をわかりやすく情報発信したら良いと思う。	1
			食品安全委員会主催のセミナー案内&厚生・農水省等の食品安全に係るセミナーの案内。	1
		70 歳以上	専門委員会での討議内容	1
			食品安全委員会の内部事情や意見をありのままに公開して欲しい。	2
	女性	30～39 歳	関係省庁との食品に関する決定事項	1
			意見交換会や食の安全に関する説明会、リスクコミュニケーションの開催予定。常に食品安全委員会が行っている調査、仕事内容や委員の方の調査や会合などで感じたこと、発見や意見など	2
食品関係研究	男性	30～39 歳	・食品安全委員の行動予定(方向性)。・食品衛生に関する最新情報(BSE、ポジティブリスト制導入後のその後など)	1

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
職経験者		40～49 歳	専門調査会合の結果発表をなるべく早く	2
	女性	30～39 歳	時事問題 (政治・政策・社会面的なことであっても、何でもよいので) について即、委員会としての見解	2
		50～59 歳	委員会および専門調査会会合の内容を具体的に報告してほしい。(長文でなくわかりやすい文章を望みます)	1
医療・教育職 経験者	男性	40～49 歳	今、食品安全委員会で何がおこなわれているかを把握するための情報を望みます。	1
		70 歳以上	受信を検討中であるが、食品事故などの緊急情報や委員会及び専門調査会の会合結果などを知りたい。	2
	女性	30～39 歳	委員会や専門調査会会合の結果や見解については、情報を操作せずにどのような意見が出され議論されたのか詳しく提供してほしいです。また、今後検討する予定の課題についての背景やポイントについて教えていただければと思います。	2
		70 歳以上	検討事項の討議内容の経過と結果	2
その他消費者 一般	男性	40～49 歳	食品安全情報、会合での決定事項	1
		70 歳以上	食品安全委員会及び専門調査会合の結果概要	2
	女性	20～29 歳	これまで議論されてきた内容についてのまとめ。それぞれの項目の“特集”など。他省庁との関わりについて。評価後の成果など。	1
		30～39 歳	結果報告が主なのですが、私がモニターになって得たいと思う情報はほとんどメール上には記載されていないので、今どんな問題がおこっていて、何を考えないといけないのかを訴えるコラムのような内容も必要だと思います。万人が対象なのか、安全委員会の食品安全モニターだけの揭示的なサイトなのかによって内容も変わると思います。メールを読んで食品安全モニターの意識が向上する内容を期待します。今回のアンケートも民間企業であれば、まず大豆イソフラボンの問題となっている内容のかかれた画面が PC 上にあらわれて、それを読んでどう思いますか？ つづいて当ホームページにリンクされ、この HP を見てあなたは どう思いますか？ と、半ば強制的に情報を提供してきます。受け身ではなく、アピールしてくれたら、感心や注目度もアップすると思います。自分も初めての経験でどのように情報を収集したら良いのか手間取る事が多いので、今後はそのような内容も記載して頂けるとありがたいです。よろしくお願いします。	1
			一般消費者も参加・傍聴できる「食の安全」に関する行事の予定などのお知らせ	1
			食に関するニュースが流れた後、食品安全委員会が、どのようなコメントや情報を出すのか関心がある。しかし、これまでの中、マスコミにかなり遅れをとっていると思う。その時点で、事実のみ伝えるだけでもいいと思う。ニュースとして入ってくるのであれば、食品安全委員会から先に情報が入った方が、マスコミに惑わされないと思う。	3
		60～69 歳	食品安全委員会での結果等を一般にも理解しやすく、報告していただきたいと思います。又内容についても、もう少し深く知らせて欲しいと思います。	1
			食品安全モニターは食品に関心のある人々で、国民の代表とも言えると思う。随時報告でその月に一番多い意見について、内容や安全委員会の考え方などを載せてもらいたい。	1
			・委員会の評価と見解 ・食品安全に関する豆知識 (特に最新情報) ・Q&A	2

(3) 内容についての意見 解説・正しい情報

(回答者数=42 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	少しでも注意した方がよいと思われる食品や食材があれば理由を具体的につけて教えてほしい。	2
		40～49 歳	各地で発生した食品事故の情報 (内容と原因と対策など)。各メディアで発信される食品情報 (健康食品等) の科学的な評価やコメント。	1
			民間のマスコミ情報とは異なる真面目な健康条件 (日々の運動の大切さ、筋肉トレーニングの必要性等)	2
			マスコミ等で騒がれているテーマについてのわかりやすい解説、リスク分析のシステムについてもっと周知していくべき。	1
		50～59 歳	マスメディアのセンセショナルな報道より正確でよい情報を望みます。BSE のメディア報道にはウンザリです。	1
			多種多様のサプリメントが売られているが、ホントに有用なのか、意味のないものなのか、を明確にすることはできませんか。毎号、1 つずつでも取り上げて順次解説してはどうですか。 e-マガジン第 5 号内の動物用医薬品に係わる…の中で、「ブラジクアンテル」なる用語があったが、簡単な解説がほしい。専門用語であっても用語集に掲載されていない場合には必ず解説を望みます。	1
			マスコミが食品安全に関する間違った内容の報道をした場合は、誤りを指摘し、正しい情報を伝えてほしい。	2
	女性	60～69 歳	食品に関する本の中には内容について疑問のある本がベストセラーになったりしています。この様な本についての間違いの部分指摘して下さい。	2
		20～29 歳	マスコミ・TV 番組でとり上げられた食品の扱いについて本当に情報が正しいものがそれが適正かの評価を、専門的に公平に示してほしい。	2
		30～39 歳	話題のキーワードについての解説。政府としての見解。	1
			正しい情報が緊急に分かると良いと思います。もちろん豆知識もあるとありがたいです。	2
			巷でうわさになっている食品についての詳しい情報や、それについての根拠をトピックスで載せてほしいと思っています。	2
			食品安全に関するタイムリーな話題について報道されているよりも、やや詳しい解説がほしいです。	1
		40～49 歳	食品における事故又その対応。	2
			食品の安全についての本当の意味での”真実”。あまりにもマスコミ、雑誌、新聞等での情報が多すぎるから	2
		50～59 歳	社会で、おきる食品に関する事故や事件の対応とその対策など。その際、つつみかくさず正確な情報をお願いします。	1
		60～69 歳	正確な情報がほしい	4
医療・教育職 経験者	男性	50～59 歳	具体的事例を示して解説していただきたい。	2
		60～69 歳	当委員会発行のメールマガジンは、その筋の権威者の新しい情報で良い勉強になり参考になります。出来得れば素人にも分かりやすく、具体的に解説願えれば幸いです。	2
	女性	30～39 歳	市販されている食品の中での危険情報や販売中止・飲食禁止が望まれている、又はブラックリストにあがっている食品の一覧。	2
		50～59 歳	食品の安全性に関する用語集にのっている言葉を、少しずつワンポイントアドバイスの紹介してはどうか？	1
		60～69 歳	マスコミで報道された情報が提供されるとよりわかりやすい。	1
その他消費者 一般	男性	20～29 歳	調査会の結果について解説が欲しい	1
	女性	20～29 歳	隠し事がない正しい情報	2
		30～39 歳	健康ブーム、ダイエットブームの中、様々な健康食品、食事療法が紹介されている。その科学的、生物学的安全性をわかるような“流行の本当の”はなし (コラム) の連載 etc。	2
			用語や略語の解説の充実	1

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
			テレビなどの(メディア)健康情報(とくに食品、例えば〇〇食べればやせるや血圧が下がるなど)についての見解を望む。(白いんげん粉末ダイエットの問題もあったため)それらの情報があふれていて、本当に事実なのか、第三者的意見が知りたい。	3
			ニュース性のある話題へのコメント(へのリンク)、米国産牛肉輸入再開についてなど	1
			マスコミによる、食生活情報の、誤りや、欠点がある時の、タイムリーな、正しい知識や、正しい情報。	1
			正確な情報として、食品事故などは早急にほしいです。また、委員会の専門的な視点から、新しくまだ情報の少ないものを早めにキャッチして、提供して頂ければ、と思います。	2
			新聞やテレビ報道された食品安全に関する内容とその信憑性について。	2
		40～49 歳	食品事故等が発生した場合の対処法など具体的に知りたい。専門的な言葉ではなく、わかりやすい言葉で説明があると良い。	2
			私達のまわりにある直接に関係する問題について家庭の主婦にでも理解できる様に解説してほしい。	2
			消費者の不安に思っていること(新聞等で話題になっている)について、科学的根拠にもとづいてどうなのかという見解をわかりやすくまとめたものを情報に盛りこんでいただけるとありがたいです。	2
			今、問題になっている事や注目されている話題についての解説のコーナー	1
			食中毒などの日常生活で起こりやすい食物の情報について載せて欲しい。	1
			専門用語の解説欄があると助かると思います。そこだけプリントアウトして覚えるなどができるので。	1
			消費者レベルでの食の安全に関する情報	1
		50～59 歳	正しい確かな信頼できる情報を望みます。	1
			話題性のある項目に対する見解も入れてほしい。	1
			食中毒事故情報、BSE の真実の情報(米国でなく、国内で発生した際、公への発表は隠される場合があるのではないかと思います)。	3
			テレビ等で報道される物を、できるだけ同時進行で意見を述べて欲しいです。	1

(4) 内容についての意見 食に関する現状

(回答者数=17 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	50～59 歳	海外の農畜水産物、加工食品に関する情報。特に、農薬、食品添加物、衛生管理の実態について。	2
			健康食品の評価に関する情報	2
	女性	40～49 歳	遺伝子組み換え食品が実際に行われている地域の調査や現状	2
		50～59 歳	安全な食品、外国から輸入されている冷凍食品等の安全性について、などの情報が知りたいです。 ＜例＞国内における食糧の自給率等の正確な数字を知りたいと思っています。最新の情報を掲載して頂けたら、「日本の食事情」を正しく理解できると私自身は感じています。(「食」に関する色々な調査結果を掲載して欲しい。)	4 1
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	製品回収事故の実害と被害(損害)額について、人体への影響はどうだったのか、その後の対応についてなど	1
		60～69 歳	農薬、抗生物質等の規格基準を設定する場合、その科学的根拠について、出来るだけ、くわしくわかりやすく情報を発信してほしい。	2
	女性	30～39 歳	食品添加物の知識 食に関する事故	2
医療・教育職	女性	60～69 歳	こま切れ情報が様々な所から入る中で、政府よりでない(意図的でない)真実の情報ならば、どんな事でもわかり易く情報提供してほしい。市民団体などが頑張らなくて	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
経験者			も、安心の食生活ができるための、食品安全委員会であり、そのための情報発信機関であってほしい。具体的な情報提供の希望を出すというより、消費者にとって今一番必要と判断される内容を、逐次流して下さい。	
その他消費者 一般	男性	50～59 歳	身近な食品のリスク情報 (できるだけ個別にとりあげて。例: トマト・人参)	1
	女性	20～29 歳	日常生活に役立つ食品安全についての情報 ・国内産と外国産では野菜の使用農薬の種類、量はどのような違いがあるか ・食品添加物についての情報 など	2
			食品に関する事故の事例や、法令等の改正点、強化、緩和された規制の内容の情報提供など。	2
		30～39 歳	一般消費者が理解しやすいレベルの食品情報	1
		40～49 歳	TV 等で話題になっている事の細かい数値的なことを知りたい。(例、遺伝子組み換え大豆などの混在率など)	1
		50～59 歳	・各国のデータの比較や、輸入国の現場報告、実情。・まことしやかな情報の信ぴょう性をしらしめてほしい。	1
			食品安全委員会と各都道府県(地方自治体)との連携状況。自分の住んでいる県や全国の食の安全に関するリスクにどう対応しているのか知りたいと思っています。リンクできるようにでもしてあると良いと思うのですが。	2
			独自では収集できないような情報。たとえば市販魚に新種の汚染物質、臭素が入ったコブラ-PCB が高濃度で食品に含まれていたこと、貧血用医薬品に医薬品原料として使用が禁止されている米国産牛の血清が使われていたことなどです。	2

(5) 内容についての意見 豆知識・Q&A

(回答者数=25 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	50～59 歳	一般消費者に委員会の活動をより深く理解してもらうためにも、食品の安全に関する「豆知識」をよりわかりやすく、簡潔に、多くを掲載した方がよいと考えます。	1
			・専門委員会の各要因毎の、安全食品の見分け方をわかりやすく説明して下さい。・生産者、製造者への安全意識、注意事項をお願いします。	2
		60～69 歳	食品と薬の取り合わせ(食べ合わせ) で危険または注意事項をシリーズで、ミニコーナーを設けてください。	2
	女性	30～39 歳	健康食品や飲料に、1 日に必要なカルシウムや食物繊維やビタミン C などが 1/3 とか 1/2 量含まれていると書かれているが、消化・吸収される段階で、どれだけ体内に摂取されるのかなど、健康食品を日常の食生活によく取り入れるポイントのような情報を希望します。	2
		40～49 歳	豆知識のような学習のできる内容を充実させてほしいです。	1
		50～59 歳	旬の食材についての情報。旬なら生だけでなく水煮、缶入等。また、アサリや鮮魚に関するもの。輸入缶詰などについて	1
			重要なことについては、再度確認をする意味で「豆知識」などで再掲されるとよいと思う	1
医療・教育職 経験者	女性	30～39 歳	旬の情報をわかりやすく説明したもの。	1
		40～49 歳	安全性に関する情報(新しい)とともに、「具体的に日常生活でどのようにすればよいのか」まで言及、提案した情報を望む!	2
			専門知識のない一般消費者からの Q&A コーナー	2
		50～59 歳	・食品安全に関する豆知識的なこと。・問題になっている食品や成分をわかりやすい表現で。分量は数値だけでなく、食品で換算した例などものをせて欲しい。	1
		60～69 歳	食品安全に関する豆知識、食品事故などの緊急的な情報に関する情報を望みます。	1
その他消費者 一般	男性	40～49 歳	生活の中で特に関係の深い食の安全性についての情報の連絡	2
		60～69 歳	食品安全豆知識とか、今さら聞けない食品添加物など、知識を体系化するのに役立つ情報(くだけた内容で)があれば良いと考えます。	1
	女性	20～29 歳	食品についての旬などの情報	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
			家庭でできる食の安全について	1
			問 13 にもありますが、食に関する豆知識がたくさん掲載されていれば大変意義があると思われます	2
		30～39 歳	食品に対して危険や要注意などの情報があった場合の対応法。消費者は何をすればよいのか？など	1
			食品安全に関する豆知識のような食品安全に関する知識	2
			問 13 にもありましたが豆知識等の情報を望みます。特に子育て中のお母様方は食品の安全性や質に大変興味を持っています。これから食中毒も増える時期。家庭でも防げる食品の取り扱い等希望します。	1
		40～49 歳	生活の中で、すぐ役立つ情報、季節ごとあるいは、ニュースで話題になっている事、食にもっと興味をもつような(若い子や子供達) 話題 etc	2
			一般的な消費者と専門委員の見解の違いを、豆知識やメッセージ(専門委員の)の中で比べて、消費者を間違いのない方向へ導いて欲しい。Q&A などでもいいです。	4
			健康教育等で、一般住民の方へ、わかりやすく伝えていかなければならないので、より具体的な情報があればと思います。住民の方の生活と直接結びつき、すぐ実行できるような「豆知識」等たくさんあればと思います。	2
		50～59 歳	少子化対策として妊婦さん向けの食品安全の情報や日常の食生活に役立つ健康維持に参考になる情報を望みます。	4
			食品に関して、起った問題と、どう対処すべきかをタイムリーに情報として伝えていただきたい。	2

(6) 内容についての意見 さまざまな意見・取組み

(回答者数=11 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	より多くの意見を聞きたいので、今以上に意見をのせてほしいです。	1
		40～49 歳	食育に関する情報…(政府の方針) 県、学校単位でどのような活動をしどのような成果が認められたのか。今後の具体的方針。積極的に進めて欲しい。個人的に大分県内の学校名及び実施結果	1
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	食品安全モニターや消費者からの意見&回答で食品安全を考える上で参考となるようなもの	1
その他消費者 一般	男性	50～59 歳	世の中情報があふれています。一つの問題に対して一方的な情報でなく、相反する意見、場合によっては少数の意見等も掲載して頂きたい。食品に関して絶対的の正論はないわけですから、幅広く議論する情報を提供願います。	2
	女性	20～29 歳	月毎のモニターからの報告(食品の安全に関する危害情報)をできる限り掲載して頂きたいです。同じモニターとして参考になるし、またその情報はより身近で新しいものに感じるからです。またそれに対する委員会の活動(もしくは予定)があればその内容も知りたいです。HP でなくメールマガジンのほうが最新情報をつかみやすく感じます。	1
			私たちモニターに知ってもらいたい知識、他のモニターの人たちの考えなど。	1
		30～39 歳	食育に関することや、モニターに関すること(全国リレー形式でプライバシーを考慮した簡単な紹介など) など。どんな方々が応募して、どういう活動をなさっているか等、知る事ができたら、連帯感も生まれ、日本の食を守ろうという意識も高まるように思います。	1
		40～49 歳	いつもありがとうございます。私事、一人事です、が、「コラム」一つの題で、作成者の方よりの事、例えば…会の中で、少数意見など、ありましたら、聞かせて頂きたいと思っています。宜しくお願いします。	1
		50～59 歳	各地で開かれたリスクコミュニケーション参加者のアンケート四方山話など定期的に載せてほしい。	1
		60～69 歳	特にはありません。毎週楽しみにしています。各地のモニター通信のページも有ると嬉しいです。	1
		70 歳以上	行政の立場からの情報と合せ、さまざまな機関(大学などの研究機関、消費者団体、食品業界)の取り組み状況などものせてほしい	2

(7) 内容についての意見 情報一般

(回答者数=22 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	食品安全のテレビ、新聞の紹介。食育の情報の紹介。	1
		50～59 歳	・食品危害に関する許容水準を公表してもらいたい。・食品危害に関する管理手段または防止方法を具体的(一般的)に提示してもらいたい。	2
		60～69 歳	食品に対する日本人の関心は諸外国に比して極めてその関心度は高い。懸念される問題等の発生の際は、(国内での発生) 諸外国の動向、取り扱い等も併せて説明を加え、消費者への不安を取り除く事も必要だと思うが。	1
			先進国との対比した情報が参考になると思われます。	2
			現在、委員の人達が交替でご意見を述べられています。とても良いと思います。今後共継続を希望します。また、世界各地で話題となっている食品安全に係る問題についてもタイムリーに、分りやすく紹介するコーナー (対応方法等を含め) があって良いと思います。	1
	女性	20～29 歳	食の安全に関するニュースなど。食中毒情報、米国牛肉輸入問題、食のニュースに対する国内の動き、他国での現状など	1
			糖尿病や腎臓病、生活習慣病などの疾病と食品、食事の効果やいわゆる健康食品との関わり、効果など。	2
		40～49 歳	ソルビットなど保存料の安全性の情報	1
食品関係研究 職経験者	男性	60～69 歳	1 英国内における BSE 関連の消費者への安全性の説明内容 2 欧州諸国が遺伝子組み替え食品を拒否する理由 3 諸外国の農薬、添加物の使用実態	2
医療・教育職 経験者	女性	30～39 歳	BSE に関するあらゆる情報	4
		40～49 歳	輸入食品の流通経路や有害物質の汚染具合、またあたらしい薬品の発売や開発の発表、効能など	4
			輸入品と国産品、特に野菜のすべての点においての分析。	1
		50～59 歳	輸入食品のポストハーベストに関して詳しく知りたいと考えています。	2
その他消費者 一般	男性	30～39 歳	輸入食品の安全管理の実体について(水際における衛生管理等)詳しい情報を消費者に伝えていく必要がある。	1
			BSE の内容や食品添加物の内容を増やしてほしい。	1
		40～49 歳	ISO22000、HACCP の情報を多くとり上げてもらいたい。食品安全セミナー等の案内も多くとりあげてもらいたい。	1
		60～69 歳	輸入食品の安全度、安全基準、検査機関名称、日本の基準と比較した厳密度等、輸入食品の安全性についての正確な情報を希望する。	1
	女性	20～29 歳	小さな企業騒動でも何でも良いので食品メーカーの回収とその理由について知らせて欲しい。	1
		30～39 歳	国内でだけではなく海外の情報(食品安全に関する豆知識や事故などの情報)も取り上げて頂けると視野が広がって良いのではないかと。また、トップに目次(その回に取り上げた項目を箇条書きにしておく)があると読みやすい。	1
		40～49 歳	・健康食品の効果と効率の良い摂取の仕方。・輸入食品の残留農薬の量と私たちへの影響 (特にバナナ、パパイヤなど輸入フルーツ)。・健康、子育て、福祉、節約、消費者問題など暮らしに役立つ情報を希望します。	4
		50～59 歳	1.食の安全・安心に関すること 2.健康影響に関すること	2

(8) 内容についての意見 食品安全委員会委員などからの情報発信

(回答者数=9 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	小泉総理が発信している「らいおんはーと」のような食品安全委員会メンバー個人の人々の声が文章になって発信されること。すでにそのようなマガジンであれば申し訳ありません。	2
		40～49 歳	あまり専門的ではない。でも消費者にとっては関心のある事項についてはトピックス的に掲載してほしい。又、委員や事務局としての編集後記的なコーナーでちょっとした意見、話題について興味を引かせる様に工夫してほしい。	1
医療・教育職 経験者	男性	40～49 歳	安全委員会委員及び専門委員の先生方の仕事上の苦労話を希望します	2
	女性	50～59 歳	各分野に関する科学的な知見を、常に発信して頂きたい。	4
その他消費者 一般	男性	30～39 歳	公正な情報、テレビや新聞、雑誌などより詳しい情報、署名付に(情報・記事の責任を明確に)してほしい。	3
	女性	20～29 歳	厚生労働大臣は、諸問題についてどのように考えているのかなどという回答を読みたい。	2
		30～39 歳	ニュース等で伝えられる、いわゆる外向けの報告ではなく、実担当者からの正直な気持ちを教えていただきたい。	2
			コラムがとても楽しく委員さん達を身近に感じる事ができます。増々充実して欲しいです。	1
		60～69 歳	現在発生している出来事(例) BSE 等の結果等を曖昧にでなく責任ある部署から発表してほしい。	1

(9) 内容についての意見 情報量

(回答者数=13 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	50～59 歳	正直言って期待はずれ。元々堅い内容にならざるを得ないが、ポイントをわかりやすく(図解やグラフで)出来ないか。また、マガジンはテーマを絞って、読める量にして欲しい。ダラダラと長すぎる。	1
	女性	30～39 歳	専門的な知識を誰にでもわかりやすく簡潔にまとめられた内容。	1
		50～59 歳	情報量が多すぎると目につかれるのでさっぱりしてほしいと思います。(文字が多すぎても同じく)	1
食品関係研究 職経験者	女性	30～39 歳	週1回発信する事は、作る方も読む方もけっこう負担が多いと思われます。会合の結果はホームページにのっているのでも略してはどうでしょうか。委員のコラム、豆知識をもっと多くのせて欲しいと思います。	1
			メールマガジンのボリューム(文字の量)は今のままでいいと思います。(興味ある内容については自分でリンク先へ飛びますので…)ただし、緊急安全性情報についてはタイトルを見ただけでもある程度の内容が把握できるものにしていただけると助かります。	1
医療・教育職 経験者	女性	20～29 歳	1 週間に 1 回きまった日にまとめてメールしてくれるとよい。あまり多すぎると重い。	1
その他消費者 一般	男性	20～29 歳	あまりメール数が多いのは好ましくないと思う。 上記 7 (食品安全に関する豆知識)、8 (食品事故などの緊急的な情報)のようなことは早期に情報として届くとうれしい。	3
		30～39 歳	内容は非常に充実しており、大変評価している。一方でボリュームが多すぎるので忙しい時には全部を読みきれない。配信回数を増やすなどして、一回の情報量を減らすとともに、より新しい情報を届けて頂きたい。	1
	女性	60～69 歳	毎週メルマガと月1メルマガとの併発(選択制)にしてはどうか。自分は毎週だとさくさく感じてしまう。	2
		20～29 歳	現状で満足しています。たくさんの情報をきちんとまとめてあり、メルマガより他のページへいきたくさんの情報を簡単に取り込むことができる便利さに非常に満足です。少々内容が多いせいか、文が多目なのでもう少し要約していただけると助かる面があります。	1
		30～39 歳	簡潔でわかりやすく、緊急情報があればよいと思う。タイトルや送信元が食品安全委員会であることを明確にしてほしい。	1

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
		40～49 歳	食品安全委員会の関わっている活動内容が非常に細かく、丁寧に記載されており、詳細を必要とする人には良いと思われるが、どの文章、項目を見ても長い印象があるので、読みにくい。もっと分かり易く、詳細については PDF というように添付されると良いのでは。	1
		50～59 歳	現在詳細な情報を発信していただいております、興味深く見せていただいております。併せて、ダイジェスト版で要点をまとめたものも載せていただけたら、ありがたいと思います。	1

(10) 内容についての意見 ホームページとの連携

(回答者数=12 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	ホームページにいつ何を載せたのか、という情報が欲しい。	1
	女性	30～39 歳	検索しやすくわかりやすいページであると思います。	1
食品関係研究 職経験者	男性	50～59 歳	・インターネットの情報には信用出来るものと、出来ないものがあります。メールマガジン中に食品安全の知識になる記事を書いていただくか、どの HP を見れば良いか、紹介してほしい。	1
	女性	20～29 歳	読ませようとするメルマガではない。最初のトピックスにリンクがないというのもめずらしい。アクセス数を増やす気がないのでしょうか？ e-マガジンに問い合わせの Tel をしたところ非常に不親切でした。	1
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	ホームページの新着情報、食品事故などの緊急的な情報	2
その他消費者 一般	男性	60～69 歳	ホームページとの役割分担をはっきりさせてはどうか。	1
	女性	30～39 歳	食品安全委員会のホームページとは違った内容の情報があるとよいと思う。	2
		40～49 歳	平日で参加できない会合や委員会もある方が多いと思うので、委員会や会合の結果が一番関心があります。また HP の新着情報も HP にアクセスする機会となるので有効だと思っています。	1
			危険情報、安全情報、要旨的にあればよい。詳しくは HP を見れるように。	2
			まだメールマガジンを登録していないので、はっきり言えませんが、①HP 上での新着情報のお知らせや、②専門的コラムなどには興味があります	2
		50～59 歳	登録したばかりですが、初回から見てみました。重複する情報が多いと感じました。希望は意見募集、HP の新着情報。	1
			ホームページとメールマガジンの違いが今のところよく分からない	1

(11) 内容についての意見 メール以外の媒体

(回答者数=7 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	女性	60～69 歳	自分自身ではパソコン、特にインターネットはトラブルの原因となり得るので必要性を感じず地域的に地産地消の型が取られています。唯一心配なのは農業等による汚染が心配されます。メールというのでなく広報の型が高齢者には必要と思われる。	4
		60～69 歳	ホームページもメールマガジンの受信出来る環境にないもので情報不足です いろいろな情報をホームページメールマガジン以外にないのでしょうか	4
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	メールマガジン等は、私たち高齢者仲間は①しない②見ない③興味をもたない、の「3 ない」を厳守している人が多い。文化の違いもあると思う。	3
	女性	50～59 歳	メールマガジンを受信する環境にないのですが、有料でかまいませんので、プリントアウトして郵送していただけるシステムも作っていただきたいと存じます。	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
その他消費者 一般	女性	60～69 歳	e-マガジンを受信できる環境をつくれない者にとっても、上記設問の内容は大いに興味があるし、内容を具体的に知りたいという思いを大変強く思っています。特に意見募集や意見交換会については、締切日、日程等を早目に知りたいと思います。意見交換会については、現在まで印刷物でご郵送いただいておりますが、開催日が比較的せまっていて、既に自分の日程が詰っていて変更不可のことが割合多いので、可能な限り早目に知りたいと切望しています。(インターネットを使えない状況を本当に残念に思っています。)上記設問全ての項目について、出来ることならばダイジェスト版の様な形ででも、印刷物にして拝見できる手段があればどんなに良いだろうと、日頃から思っているところです。何らかの方法で可能な限り最新情報に接したいと願うもの大変勝手なお願いを申し上げます。	4
			メールマガジンについてもホームページの改善点に準じた方策を考えてもらいたいと思います。	4
			携帯電話と共にホームページだの E メールだのメールマガジン等今の生活においては必要としないので使用する気持ちがありませんでしたが食品安全モニターをすればこれらが必要となるのでしょうか。聞くところによるとこれらも体によくないと言われていますが… 情報の便利さ＝食品。食の心配危険も多少つながりがありそうな気がします。	4

(12) その他 現在のままでよい

(回答者数=18 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	40～49 歳	ありません	1
			今のところ現状で結構です。	1
			現状で問題ないと思うが、もっとテキスト文字数を増やしてもいいと思う。	1
			現在のままで、充分だと思います。	1
		50～59 歳	今のところ要望はありません。	1
			現状に満足しております	1
		60～69 歳	メールマガジンについては現在のままで良いと思います。案内と連絡が充分と思います。	1
			当面は現行のパターンで維持、継続をお願い致します。	1
			現在のままで良い。	2
食品関係研究 職経験者	男性	60～69 歳	現在のもので、満足しております	1
	女性	50～59 歳	現在特になし	1
医療・教育職 経験者	男性	60～69 歳	現状レベルでよい	1
	女性	40～49 歳	今のままでも消化しきれない情報です。好みのものその時の気分で選んでいる状態です。特に会合での発言内容は目を通してしています。	1
		60～69 歳	満足しています	1
その他消費者 一般	女性	40～49 歳	今現在送られてくる情報で充分だと思います。委員会での活動の内容が定期的に送られてくることで改めてホームページで確認し、より詳しい情報を得られるのでこのままでよいと思います。	1
			現在のままの情報でよいと思う。しかし、メールマガジンの中で「ですます」調と「である」調が混在している。どちらかに統一した方がよいと思う。	1
		60～69 歳	今まで通りでいいと思います。	1
		70 歳以上	毎週金曜日を楽しみにしています。	1

(13) その他 見たことが無い・わからない

(回答者数=14 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	60～69 歳	メールマガジンがどのようなもので、どのように配信されているものか理解できていない。	4
	女性	40～49 歳	受信していないので内容が良くわかりません。	2
食品関係研究 職経験者	男性	30～39 歳	メールマガジンをみたことはありません。	2
医療・教育職 経験者	男性	60～69 歳	まだ回数が少ないので、特に必要とする情報の希望はない。	1
	女性	30～39 歳	特にありません	1
			みたことがなく分からない	2
			利用したことがないので、何とも書けません。夏休みに向けて子供達が知りたくなる(調べてみたくなる)食事情などの特集もおもしろそうです。	4
		40～49 歳	メールマガジンの情報が容易に見られず、後日、開き方・見方など指導してもらいます。	2
		50～59 歳	現時点で受信していないので答えることができないが。	2
		60～69 歳	メールマガジンを見ていないので答えられません。	3
その他消費者 一般	男性	60～69 歳	特になし。	1
	女性	30～39 歳	特にありません。	1
			特になし	3
		50～59 歳	まだ、思うようにパソコン操作が出来ませんので、今は、分かりません。	1

(14) 見やすさについての意見 わかりやすさ・面白さ

(回答者数=29 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	食品安全モニターとしても、食品安全に関わる者、親としても人に上手く食品安全の具体的な各案件について分かり易く教えることのできる(名前をふせた)過去の事件や海外・国内の各種 TOPICS など	1
		40～49 歳	専門調査会会合結果などよりも、もう少し一消費者にわかりやすい形でリスクやハザードなど初歩的な情報を毎回もう少し入れたほうがよい。	1
		50～59 歳	あまり専門的な用語を使わず、一般的にわかりやすい説明をお願い致します。	2
	女性	20～29 歳	分かりやすい言葉での情報。注釈等が書かれている。	2
		30～39 歳	専門知識がない人たちにもわかりやすく、情報が入手できる内容	2
			内容を理解し易いようにしてほしい。絵(図)などをたくさん活用して下さい。	2
			わかりやすく、一般人も理解できる内容、kids 用のコーナーがあってもよいと思います。	2
		50～59 歳	新聞、テレビ等で食品に関係のある事柄を発表されたことを1カ月単位で掲載されてみては如何でしょうか？もう少し親しみやすいレイアウト、構成を工夫して頂きたいです。	1
		60～69 歳	学問的な裏付けは一般の人が見ても理解しやすい様にくわしく書いて欲しいまたその事が日頃の生活にどの様に結び付いているとか具体的に書いてあると良いと思う。	2

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係研究 職経験者	女性	20～29 歳	もっとわかりやすくしてほしい。用語集とリンクさせるなど専門知識のない人でもわかるようイラストを入れ工夫してほしい。会議の様子を Movie で見られるようにしてほしい。	1
医療・教育職 経験者	女性	40～49 歳	未来の子供達にわかりやすいように食安について説明してほしい。	1
			わかりやすさ(子ども、中・高生にもわかるように)。大人向きすぎる気がします。	2
			消費者に身近でわかりやすい情報	1
その他消費者 一般	男性	70 歳以上	日常的に、国民の食の安全への意識を喚起するような内容を、平易な表現で啓蒙していった欲しい。関心だけでなく、知識欲の旺盛な人達が見るのだから。	2
		20～29 歳	シンプルさ、わかりやすさ、おもしろさを追求されたい。少し内容が“かたい”と感じる。	1
		30～39 歳	メールマガジンは、(単なる)インターネットのマンガ版なので、あまり面白くなかったです。もう少し内容を工夫して欲しいと思います。	4
		50～59 歳	活動結果がそのまま報告されており、手堅い印象を受けます。食育ということで子供版(キッズ用)を発行されたり、現状のメールマガジンでも 1 点集中で伝えられたらと思います。A(注意喚起)、I(興味)の手順とイラスト等の図示化が欲しい(欲を言えば)。	1
	女性	70 歳以上	「読ませてなんぼ」の経済性が追求される場合だと、読者をひきつけようとする姿勢がありますが、魅力に欠け、読むのに努力が要ります。各自、専門があり、それ以外の分野だと、薬品名に、効果(例えば、殺虫、殺菌、除草といった)が附記されている方が、中を読もうかどうか判断の助けになるのではと思います。	1
		20～29 歳	HTML 形式でイラストや写真などわかりやすい情報がほしい。字だけだと読む気が半減する。	2
			絵や図を使ったわかりやすい食品の情報です。一般の方には、少し内容がかたいように思いました。	2
		30～39 歳	専門的な知識や情報よりも、多くの人が見てわかりやすいメルマガを望みます。1 つの文章を短文化して、絵や記号をふんだんに取り入れていただくと読みやすいです。このままでは、一般人には“かたい”と思われます。一般人向けと、専門知識のある人用とに分けてみるのも良いかも知れません。短大で、食物を学んだ私レベルには難しく思えるので、一般的な消費者にとっては、専門用語が多すぎて理解できないかと想像します。	1
			専門的になりすぎない、親しみやすいメールマガジンを希望します。	2
		40～49 歳	主旨がわかりにくい。一文がだらだら長く、行間が詰まっている。「見出し項目」→「あいさつ」→「項目別内容」と整理してほしい。また、文は短か目で必要事項のみ。か条書きで良い。	1
			例えば、食品添加物についての調査結果について、専門的な知識がなくても、誰でも理解できる情報にして流してほしい。	2
			平易な言葉を使って、理解しやすいようにしていただければと思います。	4
			頭の体操風のおヤツと思うような内容もおモシロイ!	1
			わかりやすくておもしろい情報。タイムリーな内容。	2
			もっと、わかりやすいおもしろい内容	1
		50～59 歳	食品安全に関するわかりやすい知識を提供し、幅広く国民に理解を得られるような情報を望みます。	4

(15) その他 感想その他

(回答者数=9 人)

職務経験	性別	年齢	意見	問 11 回答
食品関係業務 経験者	男性	60～69 歳	リスクを考えると、多くの国民は絶対リスクで考えがちで、結果、非科学的思考に陥りがちとなる。従って、食品のリスクも他の一般リスクとの相対比較で説明する手法も考えてはどうか？世の中に絶対ゼロ等という規格や基準は有り得ず、情報の大量公開に加え、国民は食品を選択する権利が十分に与えられている今、統計学的思考、科学的思考を啓蒙する必要がある。日本の消費者、小売流通業の考え方は世界的に見て異常。加えて、リスク管理行政も科学的、論理的と言えない。	1
			ビジュアル化やPRパンフ等より、実質的な安全、安心の市場チェックが必要。かっただけではだめ！	2
	女性	30～39 歳	携帯電話でもメールマガジンが見れば、パソコンをつないでいない方々も見れると思います。私も今はパソコンをつないでおらず、携帯で見れるようになれば(ホームページも)見たいと考えます。	4
食品関係研究 職経験者	男性	60～69 歳	XXX のものにつき専門調査会開催日という記載があるが XXX の YYY についてとか XXX は新規の薬(農・動)でありというぐらいの開示はして欲しい。XXX 専門調査会開催日の知らせは関係者には大切な項目に違いはないがメールマガジンを読む大多數の人間には「ああ専門家は大変だろな」ぐらいのニュース性しかない。	1
			政府よりではなく、もっと中立的立場の内容にして欲しい。	2
医療・教育職 経験者	女性	60～69 歳	TV、雑誌などでこれを摂取すれば全ての病気が治るような記事が多い。それらに対する警告を、特に若者に届くような方法で発信してほしい。	3
その他消費者 一般	女性	30～39 歳	我が家にはまだパソコンがないのでモニター期間中だけでもよいのでメールマガジンを送って欲しい	4
		50～59 歳	ホームページの改善点の設問とも関連しますが、国民の一人ひとりが理解できるような情報をお願いしたい。そのためトップページ「入口」に①子供向け②一般消費者向け③これまで通りの「全表示」など理用者のレベルに応じた「入口」「表現」の発信を願いたい	1
		60～69 歳	6/25 日のメールマガジンの食品安全委員会委員の紹介欄の坂本さんのコラム、私も同感と読ませていただきました。健康食品の摂取により健康障害が生ずる、危険な食品にかわる、それひとつで安全食品はなくて、それぞれの相互作用により栄養が摂取できると考えます。	1

⑤ 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容をどこで知ったか

問 16 問 15 で①～③と答えた方にお聞きします。「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」の内容をどこで知りましたか。(一つ選択)。
⑦その他（具体的に記入してください）

(回答者数=25 人)

職務経験	性別	年齢	回答	
食品関係業務 経験者	男性	30～39 歳	各選択項目からの情報をまとめて	
		40～49 歳	食品安全モニター会議にて。	
		60～69 歳	食品衛生研究で読んだ	
	女性	30～39 歳	先日の食品安全モニター会議で。 この食品安全モニターのお知らせの紙で知りました。 6/28 の食品安全モニター会議にて説明を受けました。	
		50～59 歳	日本栄養士会のホームページ	
		食品関係研究 職経験者	女性	30～39 歳
医療・教育職 経験者	男性	70 歳以上	食品安全委員会よりの資料送付による。	
	女性	30～39 歳	食品安全モニター会議中にて	
		50～59 歳	食品安全委員会から送付されたモニター向けの資料	
		60～69 歳	新日本婦人の会	
その他消費者 一般	男性	50～59 歳	食品安全委員会ホームページ	
	女性	30～39 歳	仙台で行われた食品安全モニター会議 5 月末の食品安全モニター会議に出席した時 新聞。ただどうして制限があるのか？など詳しくは知りません。	
			H18.6/14、食品安全モニター会議のテーマで 食品安全モニターからの報告についてを見て	
			日本栄養士会機関誌	
		40～49 歳	6 月の食品安全モニター会議の中での講演で知った。 新聞や食品安全の HP の他、DHC (サプリ、化粧品を扱う通販会社) の定期冊子にて マスコミで知ったが、その後国の機関の HP で確認した。(マスコミは情報を知るきっかけに すぎない)	
			50～59 歳	食の安全と健康を考える講演会(6/16)横浜にて 岐阜県の県会議員さんの地元向けのサークルがあり、薬大の教授の講演会で聞いた。
				60～69 歳

⑥ 「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」のリスク評価の内容を知った当時どのように感じたか

問 18 問 15 で①～③と答えた方にお聞きします。「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価」のリスク評価の内容について、知った当時どのように感じましたか。次の中から最も近いものを一つ選び、回答欄に該当する番号を記入してください。 ⑤その他（具体的に記入してください）

(回答者数=29 人)

職務経験	性別	年齢	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39 歳	有効な食成分でも、通常の食材から体内に取り込むことが良いことを再認した
			有益である点も考慮し、食品・特保を問わず総量が適切ではないのかと感じた(摂取不足もあるのでは…)
			日常生活で考慮しにくい数値を提示され、どのように注意すべきか分からない。
		40～49 歳	アグリコンでの数値が出されていたが、一般の表示は配糖体での表示で「混乱」しそうだが？ 通常の食品の単在成分に摂取目安量を設定するのであれば、特保の申請の有無にかかわらず、すべての成分について設定すべきである。それが無理なら食品中の特定成分を濃縮・強化したような食品(特保等は)は許可すべきではない。
	女性	50～59 歳	利用者は、あまり神経質にならず、バランスよい食生活をするのが大切だと思います。
		60～69 歳	サプリメントとしての数値を表したものであり一般的に普段の食事により摂取する事に神経質になる必要がない。
		20～29 歳	摂取量の制限値を mg/日 で表されても、実生活にとり入れにくい。制限値が「より安全性を見込んだ慎重な値」であるために、一般の方々から見れば、大豆イソフラボンを多く含む食品やサプリメントに対する危機意識ばかりが増長するのではないか。摂取量の基準を定める根拠となった事例が少なすぎる。
		30～39 歳	妊婦なので、多少の動揺があった。現在、Fe、Ca をサプリで摂取しているが心配になった。 大豆イソフラボン強化のものと同様、大豆たんぱく入り加工品はどうか？と心配になった。何にしてもバランスが大切だと感じました。
食品関係研究職経験者	男性	30～39 歳	大豆イソフラボンが有名になってから発信され、大量に購入した消費者をかえって困惑させたと思います。
		40～49 歳	摂取する人の食生活、生活歴、年齢等に応じた情報を発信することが必要だ。
		50～59 歳	遅いと思いました。'98 年から内分泌かく乱化学物質に挙げられていました。 大豆イソフラボンを添加した食品は作れない。
	女性	20～29 歳	アグリコン換算でどれくらい入っているか書いてないサプリがほとんどで健康食品業界に不安を感じた。また、豆乳などでもイソフラボン強化されていないものはいわゆる健康食品に含まれるのか？アイスクリームはどうか？なぜ食品だと大丈夫なのか不透明だと思いました。
		30～39 歳	妊婦になったばかりなので、とても有効な情報を得て良かった。
		50～59 歳	どんなに良い食材でも通常の量をはるかに超えて摂取する事に疑問視していたのでやはりと感じた。
		70 歳以上	摂取量への注意に準ずるが、只この種食品を摂取する傾向の人達の目的によるだろう。最近、大学の中にも代替医療について科が設置されたとの情報があり、注目したい。
医療・教育職経験者	女性	30～39 歳	「過ぎたるは及ばざるが如し」と思いました。極端な摂取によるリスクをうながした責任は、マスコミの取り上げ方にあると感じています。これまでも、食物繊維、白インゲン豆等「美容とダイエット」をからめて加熱した報道をされた食品は、世の女性の過剰摂取をうながしており「美しくなりたい、やせたい」願望の強い人々の健康に被害を及ぼしている場合があります。困ったことにやせたい願望の強い人々は過剰摂取による「下痢やおう吐」＝「体重減」という図式があるため、さらに摂取し続け、体を病ますことになって「やせて うれしい」と感じ、健康を害していることに考えが及ばないものです。大豆イソフラボンを教訓に体によい食品とは適量を摂取することを前提にしているということを改めて世の中に訴えなくてはいいないと思いました。
		40～49 歳	どんなよい食品でも過ぎれば毒だと思っているので、当然だと思った。
			イソフラボンがホルモンに似た作用があるのなら、環境ホルモンに値すると考えていたため、評価の必要性は、以前から感じていた。

職務経験	性別	年齢	回答
			薬剤師なので、相談者に対して気を付けようと思った
その他消費者 一般	男性	50～59 歳	報告としては妥当であると思う反面、海外と食文化が異なる。例：韓国と日本でのニンニクの使用実績
	女性	20～29 歳	リスクよりもベネフィットが上であると考えていた。
		30～39 歳	私の食生活は、かなり大豆食品を多く摂取していますが、ここでいう、通常の食生活…の通常とは、どれくらいの量を指すのか、知りたいと思いました。
			自分自身には関係ないと感じたが、食事での摂取まで控える人が増えるのではないかという不安を感じた。日本人におけるデータの必要性を強く感じる。
			治療食がわりに特保で大豆イソフラボンを含むサプリを摂取している人もいるらしく、一般の人に混乱が生じているのではと思った。
		40～49 歳	健康日本21のリーフレット等では、乳がんを防ぐ食生活のポイントに「大豆製品を毎日とる」ということがあげられ、イソフラボンがエストロゲンと拮抗して働きその作用を弱めるとありました。確かにここ数年健康食品の需要が増え、栄養素の過剰摂取など問題になっていますが、どう対処すれば良いのかとても複雑な気持ちです。
		50～59 歳	豆腐やきなこなどの一般食品を摂取制限する人が増えるのではないかと心配である